

平成 30 年度

川崎市立小学校
学習状況調査
報告書

川崎市教育委員会・川崎市立小学校長会

はじめに

川崎市教育委員会
教育長 渡邊 直美

「第2次川崎市教育振興基本計画 かわさき教育プラン」の推進に当たり、平成30年3月に、第2期実施計画を策定いたしました。これは、これまでの第1期の取組の成果と課題を踏まえるとともに、日々生じる新たな課題への対応も図るものです。「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」という基本理念は、互いを尊重し、支え合い、高め合いながら共に生きる社会の中で、誰もが夢や希望を抱き、生きがいのある人生を送ることを願うものです。そのための「礎」を築くという教育の使命を常に心に留め、これからも、本市の子どもたちが他者と協働しながら豊かに自己の人生を切り拓いていくことを目指してまいりたいと考えております。

今年度は、新しい学習指導要領実施に向けた移行期間に入りました。子どもたちが様々な変化に主体的に向き合い、他者と協働して課題解決をしていくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと等をできるようにすることが、改めて学校教育に求められております。現在、各学校において、子どもたちが学習内容を結び付けたり活用したりしながら深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けていくことができるよう、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化されていることと存じます。

こうした状況の中、川崎市立小学校学習状況調査は、一人ひとりの子どもたちの学力や生活の状況を把握し、より充実した授業づくり等にその結果を活用することを目的として実施しております。各学校におかれましては、本市学習状況調査の趣旨を御理解いただいた上で、調査結果を御活用いただき、「社会に開かれた教育課程」、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、教育課程編成、授業改善を更に推進していただきたいと存じます。

最後になりましたが、本調査の運営・実施に当たってご尽力くださいました「小学校学習状況調査研究会議」をはじめとする川崎市立小学校長会の皆様に厚く御礼申しあげます。

学習状況調査の実施にあたって

川崎市立小学校長会
会長 瀧寺 繁夫

平成 32 年度の全面実施に向け、今年度から新学習指導要領の移行期間に入りました。予測困難な変化の激しい時代を生き抜くために必要な資質・能力を子どもたちに育む、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、各学校においては教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図る「カリキュラムマネジメント」に努めること等が求められております。

川崎市立小学校学習状況調査は、平成 17 年 3 月に策定された「かわさき教育プラン」に基づき、平成 17 年度より市立小学校 5 年生を対象に実施されています。平成 27 年 3 月に策定された第 2 次川崎市教育振興基本計画「かわさき教育プラン」においても基本政策Ⅱ「学ぶ意欲を育て、『生きる力』を伸ばす」の「確かな学力の育成」に位置付けられ、「第 2 期実施計画」のスタートにあたる本年度で 14 回目の実施となりました。

本調査は、全市的な規模で児童の学習状況を調査することにより、学校や教員が学習指導上の問題点及び改善点を明らかにし、今後の学習指導方法の改善や教育課程の編成の工夫等、児童の基礎学力の向上に役立てることを目的にしており、各学校の実態に合わせた「カリキュラムマネジメント」に生かせるものでもあります。また、5 月に実施し、夏休み前に、子どもと保護者に学習状況を伝えることで、一人一人の子どもの学習に対する課題を明確にするとともに、子ども自身が学習に取り組む態度を見直し、家庭での学習の在り方等の改善につながることも期待しております。

調査問題の作成につきましては、過去の問題と関連した出題をすることによって、解答傾向の推移を把握できるようにしています。また、報告書では、各設問を分析、考察し、今後の指導にあたっての改善点等をまとめております。

各学校におかれましては、このような趣旨を踏まえ、川崎市立小学校学習状況調査をご活用いただきますようお願いいたします。

最後に、問題の作成及び結果の分析に取り組まれた小学校国語教育研究会並びに算数教育研究会の皆様、厚くお礼申し上げます。また、ご尽力いただきました川崎市教育委員会・川崎市総合教育センター並びに本市小学校教育研究会の皆様、深く感謝申し上げます。

目 次

I 調査の概要

1. 調査の目的	5
2. 調査の内容	5
3. 調査の対象	5
4. 調査実施日及び調査対象教科・人数	5
(1) 調査実施日	5
(2) 調査対象教科・人数	5

II 調査結果の概要

1. 国語	6
(1) 作問にあたって	6
(2) 領域ごとの結果	6
(3) 出題・観点等一覧	7
(4) 大問ごとの分析と考察	8
(5) 今後の指導にあたって	21
2. 算数	24
(1) 作問にあたって	24
(2) 領域ごとの結果	24
(3) 出題・観点等一覧	25
(4) 大問ごとの分析と考察	26
(5) 今後の指導にあたって	49
3. 生活や学習についてのアンケート	54
調査の概要	54
調査結果と分析	55
単純集計	55
クロス集計	71
資料 調査結果集計表	80

III 資料編

- 国語（問題用紙・聞き取り問題原稿・解答用紙）
- 算数（問題用紙・解答用紙）
- 生活や学習についてのアンケート（質問用紙）

I 調査の概要

1. 調査の目的

全市的な規模で児童の学習状況を調査することにより、学習指導上の問題点及び改善点を明らかにする。その結果を、各学校においては、今後の学習指導法の改善や教育課程編成の工夫等、児童の基礎学力の向上に役立てる。

2. 調査の内容

○国語・算数

調査の目的に基づき、学習指導要領に定める第4学年までの内容のうち、ペーパーテストで調査を行うことが適当な項目について調査を実施した。

○学習意識調査（生活や学習についてのアンケート）

児童の学習や生活に対する意識等について明らかにするために、児童を対象とする意識調査を実施した。

3. 調査の対象

市内全市立小学校の第5学年の児童

4. 調査実施日及び調査対象教科・人数

(1) 調査実施日

平成30年5月 8日（火）

(2) 調査対象教科・人数

小学校第5学年

国語	12,000人
算数	12,001人
生活や学習についてのアンケート	12,011人

II 調査結果の概要

1. 国 語

(1) 作問にあたって

- ① 本調査の目的に鑑み、主に4年生までの国語科の目標及び内容の基礎的・基本的な事項についての定着状況の把握に資する出題となるように努めた。
- ② 国語科の学習指導要領においては、各学年の目標及び内容などが2学年ずつまとめて示されている。したがって本調査では主に、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項の中から出題している。
- ③ 国語科の内容は「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕からなっている。本調査の作問にあたっては、児童の学力の状況をなるべく広い範囲において把握していくために、各領域から出題することとした。しかし、本調査によって測定できる学力は、特定の一部分であることを踏まえて調査結果を活用していきたい。
- ④ 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕については各領域の指導を通して行うことを基本としている。しかしながら、本調査では学力の状況を把握するため、大問2及び大問3において、特定の事項を取り上げて出題をしている。

(2) 領域ごとの結果

領域		該当する問題番号	正答率(%)
①	話すこと・聞くこと	[大問1](1)(2)(3)	90.9
②	書くこと	[大問6](1)(2)アイ [大問7] 1・2	60.2
③	読むこと	[大問4](1)(2)(3)(4)(5) [大問5](1)(2)(3)(4)(5)①②	66.2
④	伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	[大問2]①②③④⑤⑥⑦⑧ [大問3](1)(2)(3)(4)①② (5)	80.2

(3) 出題・観点等一覧 (次ページ)

国語

出題・観点等一覧

通し 番号	大問 番号	中間 番号	小問 番号	解答形式		正答		観点			問題の内容	領域	出題のねらい	学習指導要領	正答率 (%)
				選択	短答	記述	記述式一番号	記述式一言葉	話す・聞く能力	書く能力					
1・2				☆			2・3 (順不同) 解答欄1・2とも正解	◎					話の中心に気をつけて、発表を聞き取ることができる。	A(1)エ	94.7
*1		(1)		☆			*解答欄1が「2」or「3」の一部正解	◎							2.4
*2				☆			*解答欄2が「2」or「3」の一部正解	◎							2.0
							*解答欄1に「2」を記入した一部正解		抽出集計						1.3
	1						*解答欄1に「3」を記入した一部正解		抽出集計						1.3
							*解答欄2に「3」を記入した一部正解		抽出集計						1.0
3		(2)		☆			*解答欄2に「2」を記入した一部正解	◎					話の中心に気をつけて、発表を聞き取ることができる。	A(1)エ	89.5
4		(3)		☆			4	◎					話の中心に気をつけて、話し方の工夫を聞き取ることができる。	A(1)エ	88.6
5		(1)		☆			世界	◎		漢字を書く			第三学年までの配当漢字を書くことができる。	伝国(1)ウイ	92.2
6		(2)		☆			いわ(い)	◎		漢字を読む			第四学年までの配当漢字を書くことができる。	伝国(1)ウイ	87.8
7		(3)		☆			せんそう	◎		漢字を読む			第四学年までの配当漢字を書くことができる。	伝国(1)ウイ	97.1
8		(4)		☆			業	◎		漢字を書く			第三学年までの配当漢字を書くことができる。	伝国(1)ウイ	88.4
9	2	(5)		☆			くろう	◎		漢字を書く			第四学年までの配当漢字を書くことができる。	伝国(1)ウイ	94.7
10		(6)		☆			すく(つた)	◎		漢字を読む			第四学年までの配当漢字を書くことができる。	伝国(1)ウイ	92.9
11		(7)		☆			打たれ	◎		漢字を書く			第三学年までの配当漢字を書くことができる。	伝国(1)ウイ	43.1
12		(8)		☆			籠	◎		漢字を書く			第三学年までの配当漢字を書くことができる。	伝国(1)ウイ	83.7
13		(1)		☆			2	◎					接続語を理解している。	伝国(1)イ(ク)	83.9
14		(2)		☆			2	◎					主語について理解している。	伝国(1)イ(キ)	86.1
15		(3)		☆			からい	◎					国語辞典を利用して調べることができる。	伝国(1)イ(カ)	67.2
16	3	(4)		☆			ごくご	◎		言葉の学習			ローマ字で書かれた身近な単語を読むことができる。	伝国(1)ウ(ア)	69.9
17		(4)		☆			4	◎					身近な単語をローマ字で書くことができる。	伝国(1)ウ(ア)	69.8
18		(5)		☆			3	◎					慣用句を適切に使うことができる。	伝国(1)ア(イ)	84.0
19		(1)		☆			カヌー	◎					叙述をもとに登場人物の様子や気持ちを読み取ることができる。	C(1)ウ	88.1
20		(2)		☆			2	◎					叙述をもとに登場人物の様子や気持ちを読み取り、音読することができる。	C(1)ア	74.3
21	4	(3)		☆			4	◎		物語の内容を読み取る			叙述をもとに登場人物の様子や気持ちを読み取ることができる。	C(1)ウ	72.8
22		(4)		☆			1	◎					叙述をもとに登場人物の様子や気持ちを読み取ることができる。	C(1)ウ	61.7
23		(5)		☆			2	◎					物語を読んで、感想を述べ合うことができる。	C(1)オ	68.9
24		(1)		☆			3	◎					段落相互の関係に注意して文章を読むことができる。	C(1)イ	54.8
25		(2)		☆			4	◎					文と文の意味のつながりを理解しながら文章を読むことができる。	C(1)イ	79.6
26		(3)		☆			砂ほこり	◎					指示語の内容をたどらえて文章を読むことができる。	C(1)イ	81.1
27		(4)		☆			重い荷物運ぶ	◎					中心となる語や文をたどらえて文章を読み取ることができる。	C(1)イ	52.6
28		(5)		☆			からだ全体にたくわえる	◎					文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章を要約することができる。	C(1)エ	35.8
29		(1)		☆			飲みだめ	◎					文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章を要約することができる。	C(1)エ	58.4
30		(1)		☆			2	◎		文章を推敲する			文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりできる。	B(1)オ	70.4
31	6	(2)		☆			1	◎		手紙の後付けを書く			目的に応じ手紙の形式で書くことができる。	B(1)イ	45.8
32				☆			3	◎					目的に応じ手紙の形式で書くことができる。	B(1)イ	38.2
33		1		☆			AもしくはBを選んで書いている。	◎					関心のあることなどから書くことを決めることができる。	B(1)ア	86.7
34	7	2		☆			自分の考えが書かれている。 ・表に書かれた特徴をもとに自分の考えを書いている。 ・理由は、「J」にスムーズにつながるように書いている。 ・60字以上80字以内で書いている。	◎		作文			書くこと 書くこと 書くこと	B(1)ウ	59.7

※解答形式については…問題が「選択肢問題」、「記述問題」のどちらであるかを☆で表しています。

※大問1(1)は選択肢2と3が正解(順不同 個別採点)。2・2・3・3の場合には片方を不正解としています。

※いずれも3・4年

(4)大問ごとの分析と考察

大問 1

[1] 解答類型別の出現率

問題番号			解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)	
No.	大問	中間					小問	
1・2	1	(1)	選択	○	2・3 または 3・2	0		94.7
					解答欄の1つに誤答1を選択(片方は正解)			2.2
					解答欄の1つに誤答4を選択(片方は正解)			2.0
					* 解答欄1に正解「2」(片方不正解)抽出集計			1.3
					* 解答欄1に正解「3」(片方不正解)抽出集計			1.3
					* 解答欄2に正解「2」(片方不正解)抽出集計			1.0
					* 解答欄2に正解「3」(片方不正解)抽出集計			1.0
					「1」と「4」を選択(1・4または4・1)			0.1
					上記以外の解答			0.1
					無解答			0.6
3	1	(2)	選択	○	1	0		0.5
					2	1		6.9
					3	2		1.8
					4	3		89.5
					上記以外の解答	8		0.3
					無解答	9		1.0
					無解答	9		1.1
4	(3)	選択	○	1	0		88.6	
				2	1		7.0	
				3	2		1.0	
				4	3		2.1	
				上記以外の解答	8		0.2	
				無解答	9		1.1	
				無解答	9		1.1	

[2] 出題のねらい

学習指導要領における第3学年及び第4学年の「話すこと・聞くこと」の目標は、以下の通りである。

「相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。」

この問題は、総合的な学習の時間で「盲導犬」について調べ学習をした児童が、実際に盲導犬と生活をしている橋本さんから話を聞き、調べたことを友達の前で発表するという場面を想定した問題である。目的に応じて話の中心に気を付けて聞く能力や、工夫しながら話す能力を問うこととした。

(1) は、話の中心に気を付けて、発表を聞き取ることができたかを問うものである。盲導犬についてみんなに知ってほしいこと2点について内容を的確にとらえ、聞くことができたかを問っている。

(2) も、話の中心に気を付けて、発表を聞き取ることができたかを問うものである。「だれもがよりよく社会と関わり合えるために、知識を身に付け、思いやりをもって生活していくことが大事だ」という話し手の要点を落とさずに聞き取ることができたかを問っている。

(3) は、話し方の工夫に気付くことができたかを問うものである。発表者が分かりやすく伝えるために話す内容を「一つめは・・・」「二つめは・・・」と整理して話していることに気付くことができたかを問っている。

[3] 解説

「話すこと・聞くこと」の平均正答率は、90.9%であり、(1)の正答率が94.7%、(2)は89.5%、(3)は88.6%と、どの問題においても良好であった。

(1)は、話の中心に気をつけて、発表を聞き取ることができたかを問うものである。選択肢から答えを2つ選び両方とも正答した正答率は、94.7%と良好であった。正答率が高かった理由として、話し手が冒頭に、話の中心を明確に伝えているので、児童の多くが「生活に欠かせないパートナーであること」や「勝手にさわったり話しかけたりしないでほしいということ」を的確に聞き取ることができたと考えられる。

(2)も、話の中心に気をつけて、発表を最後まで聞き取ることができたかを問うものである。正答率は、89.5%と概ね良好であった。発表者の「だれもがよりよく社会と関わり合えるよう、知識を身に付け、思いやりをもって生活していくことが大事」だという話の要点を落とさずに聞くことができている。発表者は、結論として最後に自分の考えを伝えているので、話した内容を最後まで聞き、要点を判断することができていたと考えられる。しかし、選択肢2の「目の不自由な人の生活を、自分でも体験してみることを」を選択した児童が6.9%いた。この内容は、発表の中で触れられていない。最後の要点を聞き落としてしまったために、話の内容から推測してしまったと考えられる。

(3)は、話し方の工夫を聞き取ることができたかを問うものである。正答率は、88.6%であった。発表者は初めに「盲導犬についてみんなに知ってほしいことが二つある」と話のまとまりの数を伝え、続いて「一つ目は・・・二つ目は・・・」と話す内容を整理して伝えている。聞き手に分かりやすく伝える工夫として、話のまとまりがいくつあるかを初めに示すことは有効であることを理解しているといえる。

筋道を立てて話す力、話の中心に気を付けて聞く力をつけるには、話し手・聞き手として、相手に分かりやすく整理して伝えたり、興味をもって聞き取ったりしようとする態度を身に付けさせるように、単元学習に限らず、日常的に指導を続けていく必要がある。また、相手が伝えたいことを中心に捉えて聞くためには、大事なことを落とさずにメモをとる方法や、「はじめ、中、おわり」などの構成や事柄の順序といった、話の組み立てを考えて聞くこと等、聞き方についても指導していくことが大切である。

大問 2

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
5	2	①	短答	○ 世界	0			92.2
				「世」だけが○だった場合	1			4.7
				「界」だけが○だった場合	2			0.2
				両方不正解	3			0.5
				上記以外の解答	8			1.0
				無解答	9			1.4
6	2	②	短答	○ いわ	0			87.8
				しゆく	1			0.1
				送り仮名の重複	2			0.5
				上記以外の解答	8			9.9
				無解答	9			1.7
7	2	③	短答	○ せんそう	0			97.1
				上記以外の解答	8			1.6
				無解答	9			1.3
8	2	④	短答	○ 薬	0			88.4
				上記以外の解答	8			6.9
				無解答	9			4.7
9	2	⑤	短答	○ くろう	0			94.7
				上記以外の解答	8			2.6
				無解答	9			2.7
10	2	⑥	短答	○ すく	0			92.9
				きゆう	1			0.1
				送り仮名の重複	2			0.3
				上記以外の解答	8			4.1
				無解答	9			2.6
11	2	⑦	短答	○ 打たれ	0			43.1
				送り仮名の未記入、またはその誤り	1			9.2
				上記以外の解答	8			15.8
				無解答	9			31.9
12	2	⑧	短答	○ 館	0			83.7
				図書館	1			0.0
				上記以外の解答	8			9.0
				無解答	9			7.3

[2] 出題のねらい

学習指導要領における漢字に関する事項は、以下のようになっている。

「第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。」

学年別配当漢字の「読み」は当該学年において、「書き」は次の学年までに定着を図ることになっている。そこで「読み」については第4学年までに、「書き」については第3学年までに配当された範囲から出題した。また、今年度は日常生活の中で使うことを意識できるように、文章中からの出題とした。

①世界（セカイ）は、音読みの熟語を書く力、②祝い（いわい）、⑥救った（すくった）は、送り仮名のある訓読みの漢字を読む力、③戦争（センソウ）、⑤苦勞（クロウ）は、音読みの熟語を読む力、④薬（くすり）は、送り仮名のない訓読みの漢字を書く力、⑦打たれ（うたれ）は、送り仮名のある訓読みの漢字を書く力、⑧館（カン）は、送り仮名のない音読みの漢字を書く力を問うている。音読み・訓読みの問題を、送り仮名の有無も含めた三種類のバランスを考慮して出題した。

[3] 解説

「読み」は、②87.8%、③97.1%、⑤94.7%、⑥92.9%で、平均正答率は93.1%と良好であった。その要因としては、出題された語句は日常的に耳にしたり目にしたりするものが多く、想起しやすいことが挙げられる。また、「戦争」や「苦勞」などは学習の中で触れている語句であることも関係していると考えられる。その中で「祝い(いわい)」は、正答率が87.8%と一番低かった。

「書き」については、①92.2%、④88.4%、⑦43.1%、⑧83.7%で、平均正答率は76.9%で概ね良好であった。漢字の習得の際に、点画の長短や方向、接し方や交わり方、正しい字形などについて理解できていることがうかがえる。しかし、④の「打たれ(うたれ)」については、43.1%という正答率であった。無回答が31.9%を占めている。「心を打たれた。」という慣用句を日常あまり使っていないことが原因と考えられる。

学習指導要領の「文字に関する事項」では、漢字を「文や文章の中で使うこと」が示されていることから、日常的に文や文章の中で適切に使うことができるように指導することが大切である。ノートを書く際にも習った漢字を使う等、日常的に漢字を使うことを意識させ、定着を図りたい。

また、漢字を使用する機会を増やし、語彙力を高めることも大切である。そのためには、漢字の由来や特質について理解するとともに、日常生活の中でどのように使われているかを調べるなどの学習を通して、児童の興味・関心を高めながら語彙の拡充を図ることも必要である。

その他にも、字形を正しく整えていくことや各々の漢字の読み方を理解することはもちろん、文脈に沿って正しく使う力や、漢字や熟語のもつ意味を理解し自分の表現に取り入れる力も育てていく必要がある。

大問 3

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
13		(1)		選択	○	1	0	3.3
						2	1	93.9
						3	2	1.2
						4	3	0.2
						上記以外の解答	8	0.5
						無解答	9	0.9
						14	(2)	
2	1	58.1						
3	2	11.0						
4	3	5.5						
上記以外の解答	8	4.2						
無解答	9	1.8						
15	(3)		記述	○	からい	0		
上記以外の解答					8	18.5		
無解答					9	14.4		
16	3	①	記述	○	こくご	0	69.9	
					コクゴ	1	0.0	
					国語	2	0.4	
					上記以外の解答	8	13.6	
					無解答	9	16.0	
17	(4)	②	選択	○	1	0	12.1	
					2	1	4.9	
					3	2	8.2	
					4	3	69.8	
					上記以外の解答	8	0.4	
					無解答	9	4.6	
					18	(5)		選択
2	1	5.3						
3	2	84.0						
4	3	3.2						
上記以外の解答	8	1.8						
無解答	9	2.0						

[2] 出題のねらい

学習指導要領の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕のうち、(1) イ「言葉の特徴やきまりに関する事項」(キ)の文の構成を理解すること、(ク)の接続語の役割を理解すること、(カ)の辞書を利用して調べる方法を理解すること、(1) ウ「文字に関する事項」(ア)のローマ字で表記されたものを読み、またローマ字で書くこと (1) ア「伝統的な言語文化に関する事項」(イ)の長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うことについて学習の定着を測る問題である。

(1) は、接続語の役割を理解できているかを問う問題である。文と文の関係を考えて接続語を使うことができるかを問う問題とした。

(2) は、主語を問う問題である。昨年までも正答率が低く、主語と述語の関係を正しく捉えられていない児童が多い現状を踏まえ、今回も引き続き出題した。

(3) は、国語辞典を利用して調べる問題である。辞書を利用する能力や態度を育て、習慣をつけることは、第3学年及び第4学年で学習する内容である。国語辞典を利用して文中の言葉を調べることを想定し、調べたい言葉を適切な形に変える問題とした。

(4) は、日常使われている簡単な単語について、ローマ字を読むことや書くことができるかを問う問題である。

(5) は、慣用句の意味を知り、日常生活で活用できるかを問う問題とした。

[3] 解説

(1) は、接続語の役割を問う問題である。正答率は 93.9%と良好であった。正答率が高かった理由としては、「ほしい物を買ってもらうために売り場を回っている。」という一つ目の文に対して、「買わずに帰りました。」という予想される結果とは異なる結果が記されていることを児童がよく理解していること、そして助詞の「が」のはたらきや「しかし」が逆接を意味する接続語であることを児童が理解し、正しく選択できたことが考えられる。今後も「読むこと」の学習では、文や段落相互の関係を端的に示す手がかりとなる接続語について、ていねいに指導するようにしたい。また、文章を書く様々な機会を捉えて、文脈に沿って接続語の役割を理解し使うことの指導を続けていくことが大切である。

(2) は、主語・述語の関係を問う問題である。正答率は 58.1%であった。昨年度よりも高かったが、まだ十分に定着していない。誤答の中で「もうすぐ」を選んだ児童が 19.3%いたことから、文頭に主語がくると思ってしまう児童が多いことが分かる。「主語と述語の関係」は文の骨格をなし、文章や話を明確にするための基礎となる。低学年では、「何がどうした」の考え方から、「主語」にあたるものがどのような行動をしているのかに着目できるようにする。また、述語の表す行動や様子に対して何が主体であるかを考えながら、主語を捉えさせるようにしていきたい。このような「言葉の特徴やきまりに関する事項」は、そのみを取り立てて指導することだけでは定着が難しいので、国語の各領域の学習や、日常の場面でも、主語と述語の関係を意識させることが大切である。

(3) は、国語辞典を利用して、言葉の意味を調べる活動を想定した問題である。正答率は 67.2%であった。誤答が 18.5%、無解答が 14.4%である理由としては、国語辞典の活用が十分に日常化していないことや、出てきた語を「見出し語」の形に置き換えられないことが挙げられる。技能として身に付けた辞書の使い方を、生活の中で繰り返し継続的に活用していくことで、定着させることが必要である。第3学年及び第4学年は、辞書を活用する能力や態度、習慣の基礎を育てる時期である。国語科に限らず、他の教科での調べる学習や日常生活の中で、必要なときにはいつでも辞書が手元にあって使えるように指導しておくことが重要である。

(4) は、ローマ字で読むことや書くことが定着しているかを問う問題である。正答率は① 69.9%、② 69.8%で、平均正答率は 69.9%であった。普段から目にしている①の教科名は、児童にとっては読みやすかったと考えられるが、無回答の児童が 16.0%であった。ローマ字を学習した時には理解していても、その後、活用する機会が少ないために定着が図れなかったことが原因と考えられる。②のローマ字を書くことについては、「しゃ」を「sia」とした誤答が 12.1%であった。拗音の書き方が定着していない。日頃からローマ字を書く機会がないと定着は難しく、様々な学習や生活においてローマ字を使うようにすることが必要である。また、調べ学習でパソコンを使ってローマ字入力をする等、語や文、文章を作る学習を設定し、繰り返し取り組むことが大切である。

(5) は、慣用句の意味を正しく理解しているかを問う問題である。正答率は 84.0%で概ね良好であった。選択肢も含めていずれも教科書にある慣用句から出題しているため、誤答の理由としては、その慣用句を聞いたことはあっても意味を取り違えているということが考えられる。知っている慣用句を友達と紹介し合ったり、意味を知らない慣用句を辞書で調べたりする活動を取り入れていきたい。今後も国語の学習や日常生活の中で、正しい意味を理解し、ことわざや慣用句を積極的に活用する態度を育むことが大切である。

大問 4

[1] 解答類型別の出現率

No.	問題番号			解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
	大問	中間	小問					
19	4	(1)	短答	○	カヌー	0	88.1	
					上記以外の解答	8	9.3	
					無解答	9	2.6	
20	(2)	選択	○	1	0	7.4		
				2	1	74.3		
				3	2	5.0		
				4	3	11.4		
				上記以外の解答	8	0.3		
				無解答	9	1.5		
21	(3)	選択	○	1	0	2.2		
				2	1	5.4		
				3	2	17.5		
				4	3	72.8		
				上記以外の解答	8	0.3		
				無解答	9	1.7		
22	(4)	選択	○	1	0	61.7		
				2	1	24.7		
				3	2	10.0		
				4	3	1.5		
				上記以外の解答	8	0.3		
				無解答	9	1.8		
23	(5)	選択	○	1	0	22.5		
				2	1	68.9		
				3	2	3.4		
				4	3	2.6		
				上記以外の解答	8	0.3		
				無解答	9	2.3		

[2] 出題のねらい

学習指導要領における第3学年及び第4学年の「読むこと」の目標は、以下の通りである。

「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」

文学的な文章では想像しながら読み進めていく力、すなわち、「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読む」力を身に付けさせたい。

(1) は、叙述を基に、登場人物の様子を捉える問題である。

(2) は、登場人物の会話文の音読の仕方を問う問題である。

(3) は、前後の叙述から登場人物の気持ちを捉える問題である。

(4) も、前後の叙述から登場人物の気持ちを捉える問題である。

(5) は、物語を読み、感想を話し合う言語活動を想定している。場面の様子をとらえ、物語全体から登場人物の性格を考える問題である。

[3] 解説

(1) は、登場人物の様子を捉える問題である。正答率は 88.1%と良好であった。この物語のキーワードとなる言葉を、叙述を基に読み取ることができており、物語の前文や、文章中の「誠」と「勇一」の会話文から登場人物の状況などの場面の設定を把握することができていた。

(2) は、登場人物の会話文の音読の仕方を問う問題である。正答率は 74.3%であった。誤答として選択肢 4 の「みくとあそべないのを残念に思い、さびしそうな口調で読む。」を選んだ児童が 11.4%であった。この誤答を選択した児童は、傍線部の後述にある「これいじょうことわるんだったら、もうさそわないからね、というような顔を女子たちはしていた。」の文と関連させて読むことをせず、傍線部②の叙述だけで考えたことにより、場面の状況を正しく読みとることができなかつたと考えられる。学習指導要領解説では、文章全体の内容や構成からその中心を把握して音読する工夫が求められている。場面の様子や会話文から登場人物の気持ちを読み取り、読み方を考え、物語の中心を理解することにより、各場面を意識して、様子がよく分かるように音読する力をつけたい。

(3) は、前後の叙述から登場人物の気持ちを捉える問題である。

正答率は 72.8%であった。誤答として、「クラスみんなにひみつにしておきたいことだったから。」を選んだ児童が 17.5%であった。傍線部③「しまったとおもった」の直後の「みく」の会話文に「ごめん。じつは、わたしカヌーをならってるんだ。」という叙述から、「ひみつにしていた」と考えたことが伺える。「ちいさな声でいったつもりが、ふつうの声になってしまった。」という部分から気持ちを捉える必要がある。学習指導要領解説では、叙述を基に、登場人物の性格や状況を把握し、場面や情景の移り変わりとともに変化する気持ちについて捉えることが求められている。地の文や行動、会話などから関連づけて読む力をつけていきたい。

(4) は、登場人物の気持ちを前後の叙述から考える問題である。正答率は 61.7%であった。誤答として、「うれしそうな顔」を選んだ児童が 24.7%であった。直前の文の「ほっとしながら『も』」という助詞を正確に捉えられていないことが考えられる。文末表現や助詞などの言葉の意味や働きにも気を付けて読む力をつけていきたい。

(5) は、叙述をもとに物語の主人公について話し合う言語活動を想定した問題である。正答率は 68.9%であった。誤答として、「すぐに決断できない性格」という選択肢を選んだ児童が 22.5%であった。話し合いの中の「勇一の言葉に傷つきながらもいい結果につながったから、きちんとお礼を言っている。」の発言の意図をとらえられなかつたと考えられる。このような言語活動においては、人物像を深く想像するために、取り上げた叙述とその理由を交流することで、物語の中での言葉や文の働きに気づき、一人一人の感じ方の違いを実感しながら、自分の考えを深めることができるように指導することが大切である。一つの叙述だけではなく、物語全体の叙述を基に、より具体的に人物の性格を思い描く力をつけていきたい。また、感想を的確な言葉で表現するために、低学年でも中学年でも教科書の巻末にある「言葉の宝箱」を活用し、自分の感想が文や文章のどの叙述に基づいているのか、自分が現実に経験したこと、普段考えていることや関心のあることなどと、どのように関連しているのかなどを説明するような言語活動を繰り返し、語彙を充実させていくことも必要である。

大問5

[1] 解答類型別の出現率

No.	問題番号			解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
	大問	中間	小問					
24		(1)		選択	○	1	0	9.6
						2	1	20.2
						3	2	54.8
						4	3	8.3
						上記以外の解答	8	0.9
						無解答	9	6.3
						25	(2)	
2	1	7.4						
3	2	1.4						
4	3	79.6						
上記以外の解答	8	0.4						
無解答	9	3.0						
26	(3)		短答	○	砂ほこり	0		
上記以外の解答					8	7.1		
無解答					9	11.8		
27	(4)		短答	○	重い荷物を運ぶ	0	52.6	
					上記以外の解答	8	21.7	
					無解答	9	25.7	
28	5	(5)	①	記述	○	【解答例】 ・からだ全体にたくわえる ・全身にたくわえている ・からだの全部にたくわえている *「からだ全体にたくわえる」という内容を書いていること *前後にあてはまるように書いていること *10字以上、15字以内で書いていること ※誤字・脱字は問わない ※句点をつけているものは不可	0	35.8
						文のつながりに不備がある 例「水分をからだ全体にたくわえる」	1	4.7
						「(からだ)全体」にあたる内容をかけていない 例「からだにたくわえている」	2	3.5
						ポスターの他の項目と重複した内容を書いている 例「60リットルも全身にたくわえる」	3	3.5
						「ラクダ」といった、すべての項目にあてはまる内容を書いている 例「ラクダはからだ全体にたくわえる」	4	0.1
						上記以外の解答	8	31.5
						無解答	9	20.9
29			②	短答	○	飲みだめ	0	58.4
						上記以外の解答	8	20.8
						無解答	9	20.8

[2] 出題のねらい

学習指導要領における第3学年及び第4学年の「読むこと」の目標には、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」とある。

大問5は、説明文に書かれていることを目的に応じて読み、その内容や段落相互の関係を的確に捉える力を問う問題である。

説明的な文章では、目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読む力を身に付けさせたい。中心を捉えるためには、接続語、指示語、文末表現等に注意しながら、文相互の関係や段落相互の関係を理解し、内容や要点を的確に把握することが必要である。そうした力の定着度を測るために、以下のような問題を設定した。

- (1) は、段落相互の関係を考えて文章を読む力を問う問題である。
 (2) は、文と文との意味のつながりを理解して読み取れているかを見る問題である。
 (3) は、指示語の内容をとらえて、文章を読み取れているかを問う問題である。
 (4) は文章全体の中心となる語や文を捉えているかを問う問題である。
 (5) 目的に応じて文章の要点や細かい点に注意しながら読み、要約することができるかを問う問題である。

[3] 解説

(1) は、段落相互の関係を考えて文章を読む力を問う問題である。正答率は54.8%であった。誤答は選択肢【1】【2】を選んだ児童が多かった。【1】【2】の前後の段落がラクダのコブの中に蓄えられている水について書かれた内容であることを捉えられず、段落相互の関係が読み取れなかったと考えられる。本文中の「でも」「また」「このような」などの段落相互の関係が分かる接続語の役割を理解し、文章全体の構成を考え理解する必要がある。本文中のそれぞれの段落、抜き出された段落が何について書かれているのか正確に読み取るとともに、説明的文章の基本的な構成である「はじめ(話題提示)」「中(事例)」「終わり(まとめ)」の構成に当てはめ、文章全体の構成を捉える指導を行っていきたい。

(2) は、文と文との意味のつながりを理解して読み取れているかを見る問題である。正答率は79.6%と概ね良好である。空欄の前後の文を読み、前の文から予想される結果とは逆の結果になることを示す文が後に来ていることを読み取り、逆接の言葉が入ることを理解している。様々な接続語の意味を理解し、使うことができるよう、今後も文章中の接続語について、その働きを確かめる習慣をつけていくことが大切である。

(3) は、指示語の内容をとらえて、文章を読み取れているかを問う問題である。正答率は81.1%で概ね良好である。指示語は既に文章中に出てきている言葉を指すものなので、直前の文章をよく読んで把握できていたことが分かる。今後も文章を読むときには、指示語が何を指しているのかを意識していくことが大切である。

(4) は文章全体の中心となる語や文を捉えているかを問う問題である。正答率は52.6%であった。4年生の説明的な文章では、「はじめ」と「終わり」に筆者が伝えたいことを書いて強調するという文章構成を学習しているが、この文章も同じ構成である。誤答の理由としては、「はじめ」に書かれている「人々が砂ばくを旅するとき、ラクダは人や重い荷物を運ぶために使われてきた。」を言い換えた言葉が、「砂漠の船」として「終わり」に書かれていることを、把握できなかつたと考えられる。また、誤答や無回答の多さから、文と文のつながりを考えながら読めていないことや、文章全体として何について書かれているか理解できていないことが考えられる。説明的文章の学習では、「はじめ(話題提示)」「中(事例)」「終わり(まとめ)」、「頭括型」「尾括型」などの文章構成があることを指導していく必要がある。

(5) 本文をポスターにまとめるという目的で、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章を要約することができるかを問う問題である。正答率は①35.8%②58.4%であった。昨年度の24.0%という正答率と比べると、正答率は上がっており、説明文の学習をするときに、各段落を短くまとめたり、全文を要約したりするような指導の成果が出ていると考えられる。さらに引き続き、「事例」と「意見」を区別したり、何度も出てきている言葉や言い換えられている言葉に着目したりする等、要点のとらえ方や要約の指導を工夫していくことが大切である。

また、①と②の無回答率は約20%であった。このことから、文章全体を正しく読み取って要約することに苦手意識をもつ児童が多いと考えられる。教科書では、本教材の前に短い導入教材が用意されている。短い説明的な文章では、要点や段落の構成などが読み取りやすい。また、児童が興味をもちそうな教材を用意したりするなどして、説明的文章や、要約への苦手意識をなくしていく取り組みも必要である。

大問 6

[1] 解答類型別の出現率

問題番号			解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)					
No.	大問	中間						小問				
30	6	(1)	選択	○	1	0	7.6					
					2	1	70.4					
					3	2	2.6					
					4	3	10.6					
					上記以外の解答	8	0.1					
					無解答	9	8.7					
					31	6	(2)	ア 選択	○	1	0	45.8
										2	1	10.1
										3	2	30.7
4	3	3.1										
上記以外の解答	8	0.5										
無解答	9	9.9										
32	6	(2)	イ 選択	○						1	0	22.9
										2	1	22.6
										3	2	38.2
					4	3	5.6					
					上記以外の解答	8	0.5					
					無解答	9	10.3					

[2] 出題のねらい

学習指導要領における第3学年及び第4学年の「書くこと」の目標は、以下の通りである。
 「相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。」

言語活動例「目的に合わせて依頼状、案内状、礼状などの手紙を書くこと。」から、実用的な文章を書く力がどれだけ身に付いているのかという実態を把握したいという意図で、お礼の手紙の書き方や後付けにおける署名と宛て名の位置関係を問うている。

[3] 解説

大問6は、お礼の手紙の書き方や後付けにおける署名と宛名の位置関係といった基本的な形式を理解しているかを問う問題である。平均正答率は、51.5%であった。

(1)は、手紙の文章を推敲し、よりよい表現に書き直す問題である。正答率が70.4%であった。学校行事について案内する手紙として、相手に応じた表現が求められる。国語の授業に限らず、他教科・他領域のゲストティーチャーに対するお礼の手紙を書く等、相手を意識した文章を書くような活動を積み重ねたい。

(2)は、後付けにおける日付や署名、宛名の位置関係を問う問題である。正答率は日付の位置が45.8%、相手の名前位置が38.2%であった。日常生活の中で、子どもたちが後付けまでを含めた手紙やはがきを書く経験が少ないことから、これらの位置関係が、十分に定着していないと考えられる。学習指導要領解説の第3学年及び第4学年の「書くこと」の言語活動例にも、実用的な文章を書く活動が挙げられ、「表書きに宛て名や住所などを正しく書くことや、後付けにおける署名と宛て名の位置関係といった基本的な形式なども押さえることが求められる。」と示されている。様々な目的を設定したり行事と関連させたりして、礼状や招待状などの実用的な文章を書く機会を取り入れ、指導していくことが大切である。また、他教科・他領域の学習と関連させて、礼状や招待状などを書くときも国語科で学んだことを生かしていくことが必要である。正しい日付、署名、宛名の位置関係を引き続き指導していきたい。

大問 7

[1] 解答類型別の出現率

問題番号			解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間					
33		1	選択	○	AもしくはBを書いている	0	86.7
					上記以外の解答	8	0.3
					無解答	9	13.0
34		2	記述	○	・自分の考えを書いている。 ・〈表〉に書かれた特徴をもとに自分の考えを書いている。 ・「理由は、」にスムーズにつながるよう書いている。 ・全体で60字以上、80字以内で書いている。	0	59.7
					・表に書かれた特徴を挙げるだけで、そこから自然と導かれる自分なりの考えを書いていない。	1	10.3
					・自分なりの考えを書いているが、〈表〉から読み取った特徴を挙げていない。	2	1.0
					・「理由は、」にスムーズに接続していない。	3	1.5
					・全体の60字未満で書いている。	4	6.1
					・全体で81字以上で書いている。	5	1.0
					上記以外の解答	8	5.8
無解答	9	14.7					

※大問7の共通事項：誤字・脱字は問わない

[2] 出題のねらい

本設問は、目的に応じて、資料から情報を的確に読み取って書く必要のある事柄を集めたり、自分の考えが明確になるように段落相互の関係に注意して書いたりすることができるかどうかをみるものである。

ここでは、ペンケースを買うために、お店で情報を集め、二つに絞った候補の特徴をまとめた〈表〉から一つを選び、〈表〉の中から分かることを根拠にして考えたことをまとめ、記述するように設定した。

〈表〉は、二つのペンケースの「ねだん」「素材」「色・がら」「入る量」といった特徴を比較しやすいように表してある。

[3] 解説

大問7は、自分の考えを伝えるために、二つのペンケースのうちどちらか一つを選び、〈表〉から選んだ理由となる情報を取り上げて、考えを記述する問題である。ここでは、資料である〈表〉に示されている情報を的確に読み取り、それをもとにした自分の考えを明確に記述することが求められる。また、記述の際に注意する点を示し、採点基準としている。

(1) の条件は、購入の候補であるA・Bのペンケースから、どちらか一つを選ぶ問題である。正答率は86.7%とおおむね良好であった。〈表〉を読み取り、自分の考えに基づいてペンケースを選び出せていた。しかし、無回答が13.0%だった。「書くこと」や記述の問題に、苦手意識をもつ児童がいることが考えられる。実際に書いた文章が生活の中でいかされたり、相手から感想が返ってきたりするなど「書いてよかった」と思える場を設定していくことや、目的に応じて自分の考えを書くことを、積み重ねていく必要がある。

(2) の条件は、定められた文字数で〈表〉から読み取れることを書く問題である。正答率は59.7%であった。昨年度の記述部分の平均正答率が13.3%だったことから、今年度は指導の

II 調査結果の概要

成果が見られたと捉えられる。しかしながら、〈表〉に書かれた特徴を挙げるだけで、そこから自然と導かれる自分の考えを書いていない解答が10.3%、〈表〉から読み取った特徴を挙げていない解答が1.0%、指定の文字数に満たないあるいは超えている解答は7.1%（60字未満6.1%、81字以上1.0%）、無解答は14.7%であった。誤答の傾向から考えられることは、自分の考えを書くことに抵抗がある児童や、条件に即して書くことができていない児童、問題文を正確に読み取れていない児童の存在である。無回答の児童が一定数いるということも含め、資料の内容と関連付けて自分の考えをもったり、それを文章で具体的に記述したりすることに課題があると考えられる。表やグラフなどの資料を正確に読み取り、考えを書くことは、国語科の学習のみならず、各教科等の学習や日常生活においても重要である。今後も、表やグラフなどの資料を読み取り、自分の考えを書くという活動を一層重視して取り組むようにしたい。また、国語科以外の教科や領域の学習においても、資料を読み取るだけでなく、自分の考えがきちんともっているかを、書くことで意識できるような授業づくりが期待される。併せて、前後の文脈や指示された字数に合わせて書くといった、条件を含めた設問の題意を読み取るようにしたい。

(5) 今後の指導にあたって

○話すこと・聞くこと【大問1】

「話すこと・聞くこと」についての調査結果は、昨年より高い正答率であった。「話の中心に気を付けて聞くこと」について指導の成果が表れている。話を最後まで聞くことや集中して聞き取ることなど、低学年から積み重ねてきた指導をうけ、話している事柄の順序など、話の組み立て方を意識しながら話の要点に気を付けて聞くことが定着していると言える。今後も、メモをとることや、分からない点や確かめたい点について質問するなどの指導を続けていくことで、この力を高めていきたい。常時活動として行われているスピーチ活動や対話活動なども、話す力と聞く力の基盤を作っていると考えられる。日常的に「話すこと」「聞くこと」を関連付けて指導することが大切であり、どのような話題で何を聞き取る必要があるのか、聞く構えをつくることも身に付けていきたい。また、中学年では、話を聞いて感想や意見を述べる活動も重要である。自分の経験と結びつけたり、自分の考えと比較したりしながら、感想や意見を深められるようにすることが大切である。

○書くこと【大問6・7】

手紙の基本的な形式を問う問題と、与えられた条件をもとに記述する問題を出題した。例年課題となっている手紙を書く際の後付けにおける日付と宛て名の位置関係を理解しているかを問う問題の正答率は、昨年度の45.2%とほぼ同じで、今年度は45.8%であった。日常生活では、基本的な形式を意識せずに手紙を書いていることが原因と思われる。相手や目的を明確にし、行事などの機会をとらえながら、継続的に、基本的な手紙の書き方を学習していく必要がある。

目的に応じて、資料から情報を的確に読み取って書く必要のある事柄を集めたり、自分の考えが明確になるように段落相互の関係に注意して書いたりすることができるかどうかをみる問題では、正答率が昨年度の36.8%から59.7%と向上した。資料と関連させながら自分の考えを書くことに、一定の指導の成果が表れたといえる。今後も、集めた資料を、共通点や相違点に着目しながら整理することで、伝えたいことを明確にするような指導が必要である。また、取材、構成などのときにも、子ども同士の考えを交流する時間を取り入れたい。相手意識、目的意識をより明確にし、書く目的として、伝える、報告する、説明する、依頼する、案内するなど具体的な生活の中で必要となるものを取り上げながら、書く力の向上を図りたい。無回答の割合が少なくないということから、書くことに対する意欲が低い児童がいることが分かる。書いたものが生活でいかされたり、感想や返事が返ってきたりするような場を設定し「書いてよかった。」という充実感を味わうことができるような体験も大切である。

○読むこと【大問4・5】

文学的な文章からの出題では、平均正答率は、73.2%であった。叙述をもとに登場人物の気持ちを読み取るためには、物語の全文通読の中で文と文を関連付けて読み取ることが必要である。また、登場人物の会話や行動の叙述だけに着目するのではなく、地の文と関連させることで理解を深めることができる。

説明的な文章からの出題では、平均正答率は、60.4%であった。中学年では、「キーワード」「キーセンテンス」などに着目して読み、文章や各段落の要点を捉えることが大切である。また、段落相互の関係を捉え文章構成図を考えたり、文章全体を要約したりするような課題を設定し、段落相互の関係を考えて読むことも大切である。文末の違いなどに注意して読み、「事実」と「意見」を読み分けることも必要であるが、この読み分けについては、「書くこと」と関連させることでさらに力を高めていくことができる。

文学的な文章、説明的な文章のいずれにおいても、読む目的や課題を設定し、児童が主体的に読むことのできる学習場面を設定することが大切である。また、取り上げた叙述とその理由を友達と交流することで、文章中の言葉の働きに気付くことができる。そのため、「読むこと」でも、対話的な学習は大切である。今後も、多くの文章を読むという読書の量的な向上と、多くの種類の本などを読んで読書の分野を広げるという質的な向上の両方を指導していきたい。

○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項【大問2・3】

漢字の「書き」については、漢字や送り仮名が正しく書けていなかったり、無解答だったりした児童が少なくなかった。漢字による表記を習慣化させなければ曖昧な漢字の獲得にしかならない。学んだ漢字が日常にある言葉として使えることを実感させ、他教科でも既習の漢字を積極的に使うように指導し、定着を図っていききたい。また、国語辞典・漢字辞典を身近に置いて分からない漢字を調べる習慣を身に付けることが大切である。漢字の意味や特質について理解し、日常生活の中でどのように使われているかを調べたり、自分の文章で使ったりするなどの学習を通して、児童の興味・関心を高めながら語彙の拡充を図りたい。

主語や述語の問題での正答率は 58.1%だった。主語と述語の理解は、国語のすべての学習の基本である。低学年から、文章を読んだり表現したりする中で「主・述」の関係を意識できるようにし、すべての学年で継続的、意図的に指導していく必要がある。また、ローマ字を使った読み書きはより早い段階において学習できるように、第3学年から指導する事項となっている。日常使われている簡単な単語についての読み書きの指導も継続的にしていきたい。

◎全体を通して

この調査は「指導に生かす」ことを目的としているものであるから、各学校、各学級においても課題を整理し、各大問の「出題のねらい」、「解説」を参考にして、明日からの国語科の授業改善に生かしていくことが望まれる。

国語科の力の育成には、児童が言葉による見方・考え方を働かせながら学習することが重要である。その基盤となる知識・技能や、語彙を身に付ける必要もある。そして、身に付けた力は、その単元のみならず、次の単元や他教科において活用することで日常に「生きる力」となる。また、他教科の学習や読書などに関連させ、言葉と出会った際に辞書で意味を調べたり、言葉から感じたり想像したりする機会をもち、語彙を充実させるようにしていきたい。

児童自身が学習に見通しをもち、学びを自覚することが求められている。そのためにも、主体的に課題を解決するような授業を実践していくことが大切である。また、言葉は他者との関係を作る大切なコミュニケーションツールである。学習場面においても、言葉を通して豊かに他者と関わり合う機会を増やし、豊かな人間性を育んでいきたい。

II 調査結果の概要

2. 算 数

(1) 作問にあたって

- ① 川崎市全体における第5学年の学習状況を把握するため、より客観的なデータが得られるように作問を行った。したがって、出題範囲を第4学年までとし、基礎・基本の定着及び活用の様子を見ることができる問題を作成した。また、過去の問題と関連したものも継続して出題することによって、解答傾向の推移も把握できるように配慮した。
- ② 学習指導要領において、算数科は「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の4領域で構成されている。そこで、幅広い範囲において学習状況を把握していくために、4領域の項目についてすべて網羅するように出題した。
- ③ 主たる評価観点を考えた上で問題を作成したが、「算数への関心・意欲・態度」の評価観点については、ペーパーテストでみることは難しいと考え、評価の観点としては取り上げないことにした。他の「数学的な考え方」、「数量や図形についての技能」、「数量や図形についての知識・理解」の3観点については網羅するようにした。
- ④ 本調査は、児童の学習の実態状況を把握するとともに、各校の教育課程や指導法の検証・改善に生かすことなどをねらいとして行われるものである。したがって、作問にあたっては、解答類型を分析し、調査後どのような点に気を付けて指導していけばよいのかが分かるようにした。
- ⑤ 本調査は、正答率の低い問題を継続的に出題し、授業改善に役立てる意図があることに加え、最近の傾向として、全国調査を参考に説明の根拠を求める問題も出題している。そのため、平成28年度以降の調査の結果は前年度より難易度が高くなっており、結果として全体的に正答率が平成27年度よりも低くなっている。したがって、各学校においては、経年変化よりも、例えば短答式と記述式の正答率の違いといった点に注目し、分析してほしいと考えている。

(2) 領域ごとの結果

領域		正答率(%)
A	数と計算 [大問1](1)(2) [大問2](1)(2)(3)(4)(6)(7) [大問3] [大問4](1)(2)(3) [大問5](1)(2) [大問7]	68.1
B	量と測定 [大問8](1)(2) [大問9](1)(2) [大問13]	50.2
C	図形 [大問10] [大問11](1)(2) [大問12](1)(2)	40.8
D	数量関係 [大問1](5) [大問6] [大問14](1)(2) [大問15](1)(2)	57.0

(3) 出題・観点等一覧 (次ページ)

出題・観点等一覧

算数		解答形式			正答			観点			問題の内容		領域	出題のねらい	学習指導要領	正答率	
通し番号	大問番号	中間番号	小問番号	選択	短答	記述	選択式→番号	単答式→言葉	記述式→文章	数学的な考え方	技能	知識・理解	問題の内容	領域	出題のねらい	学習指導要領	正答率
1			④	☆			65					◎	小数のたし算・ひき算	A数と計算	小数のたし算の仕組みを、整数のたし算をもとに考えることができる。		91.9
2		(1)	①	☆			480					◎	ひき算		小数のたし算の仕組みを、整数のたし算をもとに考えることができる。	4年A(5)ア	77.9
3	1		②	☆			545					◎	小数のくみ		小数のたし算の仕組みを、整数のたし算をもとに考えることができる。		65.9
4		(2)	②	☆			0.507				○	◎	数直線上の小数を読み取ることができる。		数直線上の小数を読み取ることができる。		60.8
5			⑤	☆			0.56				○	◎	小数第二位までの加法ができる。		小数第二位までの加法ができる。	4年A(5)イ	67.3
6		(1)		☆			1.54				◎		小数と整数のひき算		小数第二位までの加法ができる。		79.4
7		(2)		☆			64.62				◎		A数と計算		小数第二位までの加法ができる。		63.1
8		(3)		☆			21.2				◎		小数と整数のかけ算・わり算		小数×(1けた)の乗法ができる。	4年A(5)ウ	82.9
9		(4)		☆			2.25				◎		式と計算		(整数)÷(整数)のわり進み除法ができる。		65.9
10	2	(5)		☆			13				◎		D数量関係		四則混合計算ができる。	4年D(2)ア	78.8
11		(6)		☆			4 - $\frac{2}{5}$ または $\frac{22}{5}$				◎		A数と計算		帯分数を含む同分母分数の加法ができる。	4年A(6)イ	68.2
12		(7)		☆			$\frac{4}{9}$				◎		A数と計算		帯分数を含む同分母分数の減法ができる。		63.9
13	3			☆			3(こできて、)1.5(kg残る)				◎	○	A数と計算		(小数)÷(1けた)の余りのある除法の適用問題ができる。	4年A(5)ウ	56.6
14		(1)		☆			19				◎		A数と計算		分数が単位分数のいくつ分かで表せることがわかる。		69.8
15	4	(2)		☆			1 - $\frac{2}{5}$ または $\frac{3}{5}$				◎		A数と計算		テープ図に示された分数を読み取ることができる。	4年(6)	46.1
16		(3)		☆			$\frac{20}{9} (>) 2 \frac{1}{9} (>) 2 (>) \frac{17}{9} (>) 1 \frac{7}{9} (\text{完答})$				◎		A数と計算		分数の大小がわかり、仮分数・帯分数・整数を大小順に並べることができる。		65.6
17	5	(1)		☆			4				○		A数と計算		倍とわり算の問題を図に表すことができる。	4年A(3)	67.6
18		(2)		☆			1200÷4				◎		A数と計算		倍をもとに正しく式を立てることができる。	4年A(3)	70.2
19	6			☆			100				◎		D数量関係		図をもちよき式を理解している。	4年D(3)ア	51.1
20	7			☆			①500+200+300②1000(完答、正答は一例)			○	◎		A数と計算		概数を表し方を理解し、切り上げの計算をすることができる。	4年A(2)イ	62.5
21	8	(1)		☆			3				◎		B量と測定		180°よりも大きい角を分度器を用いて求めることができる。	4年B(2)ア、イ	71.5
22		(2)		☆			220			○	◎		B量と測定		180°よりも大きい角を分度器を用いて求めることができる。	4年B(2)ア、イ	51.0
23	9	(1)		☆			2				◎		B量と測定		面積の大きさについての感覚を身につけている。	4年B(1)ア	38.1
24		(2)		☆			4×5(=20) または 5×4(=20)				○	◎	C図形		長方形の面積を求めることができる。	4年B(1)ア、イ	60.3
25	10			☆			2			◎	○		C図形		平行四辺形の作図の仕方を性質をもとに考えることができる。	4年C(1)イ	32.7
26	11	(1)		☆			ア、ウ、エ、オ(順不同、完答)				◎		C図形		向かい合った角の大きさの性質がわかる。	4年C(1)イ	68.1
27		(2)		☆			ア、エ(順不同、完答)			○	◎		C図形		四角形の対角線の性質がわかる。		32.1
28	12	(1)		☆			5				◎		C図形		立方体の展開図がわかる。	4年C(2)ア、イ	58.0
29		(2)		☆			面④、面⑤				◎		C図形		立方体の辺に垂直な面がわかる。		13.1
30	13			☆			左にある三角形を切って右に動かして、長方形と考えると、面積を求めることができます。				◎	○	B量と測定		複合図形の面積の求め方を考え、説明することができる。	4年B(1)ア、イ	30.3
31	14	(1)		☆			36(cm)				◎	○	D数量関係		数量の関係を読み、調べることができる。	4年D(2)ウ	68.0
32		(2)		☆			○×6(=△)				◎	○	D数量関係		ともなって変わる二つの数量の関係を式に表すことができる。		53.3
33	15	(1)		☆			15は、12月に貸し出された「伝記」のさつ数を表しています。(15の明記は問わない、同意文可)				◎	○	D数量関係		二次元表を理解し、値を説明することができる。		55.9
34		(2)		☆			(説明)7は、2月に本を借りていなくて、3月に本を借りた人の人数です。(同意文可)(記号)ウ(完答)				◎	○	D数量関係		示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述することができる。	4年D(4)ア	35.1

※解答形式について…問題が「選択肢問題」、「記述問題」のいずれであるかを☆で表しています。

(4)大問ごとの分析と考察

大問 1

[1] 解答類型別の出現率

No.	問題番号			解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
	大問	中間	小問					
1	1	(1)	㉞	短答	○	65	0	91.9
						650	1	0.4
						上記以外の解答	8	6.5
						無解答	9	1.2
2	1	(1)	㉟	短答	○	480	0	77.9
						48	1	12.4
						上記以外の解答	8	7.9
						無解答	9	1.7
3	1	(1)	㊸	短答	○	545	0	65.9
						5.45	1	6.3
						54.5	2	0.1
						113	3	6.1
						上記以外の解答	8	18.6
						無解答	9	2.9
4	(2)	㊹	短答	○	0.507	0	60.8	
					0.57	1	12.5	
					0.557	2	0.1	
					0.7	3	0.6	
					上記以外の解答	8	21.5	
					無解答	9	4.45	
5	(2)	㊺	短答	○	0.56	0	67.3	
					0.556	1	0.8	
					0.6	2	1.7	
					1.1	3	1.7	
					上記以外の解答	8	20.6	
					無解答	9	8.0	

[2] 出題のねらい

大問1は、「数と計算」領域の「小数のしくみ」の内容として出題し、計算の基本的な技能が身についているかをみるために出題している。

(1)は、「 $0.65 + 4.8$ の計算のしかたを、 0.01 をもとにして考える問題」で、位の違う数値でも 0.01 を何こ集めた数なのかが分かれば解くことができる問題である。小数でも、「○○のいくつ分」で数が構成されていることを理解しているかをみる問題であった。

(2)は、数直線上の示された数(1目盛りが 0.001 のとき)を読み取ることができるかどうかをみる問題である。昨年度は1目盛りが 1000 のときの問題を出題した。今年度は1目盛りが小数になり、昨年度に比べ難しい内容になっている。

[3] 解説

(1)は、「 $0.65 + 4.8$ の計算のしかたを、 0.01 をもとにして考える問題」で、正答率は 65.9% であった。「たされる数の 0.65 は 0.01 を何こ集めた数かを考える問題」では、正答率が 91.9% であった。「たす数の 4.8 は 0.01 を何こ集めた数かを考える問題」では正答率が 77.9% であった。小数第二位に数字があるかないかで正答率に 14.0% の違いがあった。このことから何をもとにして考えればよいのかを理解することができていない児童がいることがわかる。今後も、十進位取り記数法の考えを丁寧に扱い、しくみを確認しながら数を読ませていく指導や「 4.8 は1が4こと 0.1 が8こ」「 4.8 は 0.1 が48こ」などのように、

数を多様な見方でとらえられるような指導を継続することが大切である。

(2) 数直線上の㊦にあてはめる数を求めるという問題では、㊦の正答率が60.8%、㊧が67.3%であった。単に数直線上の数字を読み取るだけでなく、1目盛りが0.001であることを理解していることがわかる。昨年度は1目盛りが1000の問題を出題して、正答率が88.5%であった。今年度、小数にしたことで、正答率が低くなったことがわかる。このことから、児童にとって小数のしくみを理解するのは、整数に比べ難しいことがわかる。

今後は、「1をいくつと0.1をいくつ集めた数」「〇〇より0.1小さい数」「0.01をいくつ集めた数」などの数の加法的な見方、減法的な見方、相対的な大きさなど、多様な見方ができるような指導を継続していくことが大切である。

大問2

[1] 解答類型別の出現率

No.	問題番号			解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
	大問	中間	小問					
6	2	(1)	短答	○	1.54	0		79.4
					154	1		0.2
					1.27	2		15.3
					12.7	3		0.6
					127	4		0.2
					4.24	5		0.0
					上記以外の解答	8		3.7
					無解答	9		0.6
				7	(2)	短答	○	64.62
	6.462	1					0.3	
	387	2					0.4	
	38.7	3					3.8	
	3.87	4					7.1	
	65.72	5					0.0	
	65.62	6					0.5	
	64.78	7					3.1	
	上記以外の解答	8					19.5	
8	(3)	短答	○	21.2	0		82.9	
				212	1		5.1	
				20.12	2		0.5	
				201.2	3		0.0	
				上記以外の解答	8		10.3	
				無解答	9		1.2	
9	(4)	短答	○	2.25	0		65.9	
				225	1		13.3	
				2あまり2	2		1.2	
				上記以外の解答	8		14.2	
				無解答	9		5.4	
10	(5)	短答	○	13	0		78.8	
				40	1		14.7	
				上記以外の解答	8		4.4	
				無解答	9		2.1	
11	(6)	短答	○	$4\frac{2}{5}$ または $\frac{22}{5}$ または 4.4	0		68.2	
				$3\frac{7}{5}$	1		20.3	
				$3\frac{7}{10}$	2		0.1	
				上記以外の解答	8		9.6	
				無解答	9		1.8	
12	(7)	短答	○	$\frac{4}{9}$	0		63.9	
				$1\frac{5}{9}$	1		6.2	
				1	2		0.3	
				$5\frac{9}{9}$	3		0.5	
				6	4		1.1	
				$\frac{5}{9}$	5		10.4	
				上記以外の解答	8		13.1	
				無解答	9		4.5	

[2] 出題のねらい

大問1は、第4学年で学習する計算問題をまとめて出題している。(1)～(4)と(6)(7)は「数と計算」、(5)は「数量関係」領域の問題となっており、いずれも数量についての技能をみる問題である。

(1)は、小数第二位までの小数の加法の問題で、被加数を小数第二位までの小数、加数を小数第一位までの小数にすることで、位取りを意識して計算できているかをみる。

(2) は、小数第二位までの小数の減法の問題である。被減数は小数第一位までの小数、減数は小数第二位までの小数にして、位取りを意識して計算できているかをみる。

(3) は、小数×整数＝小数となる問題で、被乗数の小数点を意識して、積の小数点の処理ができているかをみる。

(4) は、わり進みの除法の問題で、わり進む場合の除法ができているかをみる。

(5) は、四則混合の問題で、四則計算の順番について加減乗除が混合している場合は、乗除から先に計算できているかをみる。

(6) は、帯分数を含む同分母分数の加法の問題で、同分母分数の加法の仕方に加え、分数部分が仮分数の形になったときの、帯分数の整数部分の処理ができているかをみる。

(7) は、帯分数を含む同分母分数の減法の問題で、同分母分数の減法の仕方に加え、分数同士の減法ができない場合は、整数の1を分数にして処理することができているかをみる。

[3] 解説

(1) $1.24+0.3$ の正答率は 79.4% だった。昨年度の $5.21+4.3$ の正答率 82.4% より 3 ポイント下がっている。今回は 1 より小さい小数の計算になったため、正答率が下がったと考えられるが、小数点の位置をそろえて計算することは概ね理解できている。今後も、どのような数値であっても単位量が同じものを（位をそろえて）計算する習慣を身に付けるよう指導していくことが大切である。

(2) $67.5-2.88$ の正答率は 63.1% だった。昨年度の $38.4-1.62$ の正答率は 55.1% と 8 ポイント上がった。学習指導要領では、小数点をそろえて位ごとに計算するなど、小数の仕組みの理解の上に立って行うようにすると示されていることから、(1) の問題と同様、単位量を意識し位をそろえて計算できるように引き続き指導していくことが必要である。

(3) 5.3×4 の正答率は 82.9% だった。昨年度の 2.7×6 の正答率 83.9% とほぼ同程度であり、小数×整数の計算は概ね理解できていることが分かる。しかし、平成 25 年度の正答率 93.1% と比較すると 10 ポイント低くなっている。引き続き単位量と小数点を意識して、積の小数点の処理の仕方を指導していくことが必要である。

(4) $18\div 8$ の正答率は 65.9% であった。昨年度の 67.9% と同程度の正答率である。引き続きわり進みの計算のしかたの意味を、図などをもとにして理解させながら、処理技能の定着を図る必要がある。

(5) $27-7\times 2$ の正答率は 78.8% だった。四則混合計算では、乗法、除法を先に計算することは概ね理解できていることが分かる。加法・減法より乗法・除法を先に計算するという四則混合計算のきまりについての指導が充実していると考えられるが、昨年度の正答率 81.0%、一昨年度は 82.2% と毎年下がってきている。また、「 $27-7=20$ $20\times 2=40$ 」と、左から順に計算してしまった誤答が 14.7% 見られることから、今後も継続して、四則混合計算のきまりにしたがって計算できるように、指導を積み重ねていくことが大切である。

(6) 帯分数を含む同分母分数の加法「2と $\frac{3}{5}+1$ と $\frac{4}{5}$ 」の正答率は 68.2% であった。昨年度の 3と $\frac{7}{9}+2$ と $\frac{4}{9}$ の正答率は 64.0% から 4.2 ポイント高くなっている。3と $\frac{7}{5}$ と答えた児童が 20.3% いた。帯分数は整数と真分数の和から成り立つ数ということを理解させていく必要がある。

(7) 帯分数を含む同分母分数の減法「3と $\frac{2}{9}-2$ と $\frac{7}{9}$ 」の正答率は 63.9% であり、加法と減法の正答率は同程度であった。昨年度の 6と $\frac{3}{7}-5$ と $\frac{6}{7}$ の正答率 63.4% とほぼ同程度である。今後も(6)と同様に「単位分数のいくつ分」という指導を充実させるとともに、帯分数を含む同分母分数同士の減法で、分数同士の減法ができない場合は、整数の1を分数にして計算することを、数直線やリットルますなどの図を用いて理解させながら、処理技能の定着を図る必要がある。

大問 3

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率 (%)
No.	大問	中間	小問					
13	3			短答	○	3(こできて、)1.5(kg残る。)	0	56.6
						3(こできて、)15(kg残る。)	1	3.3
						3.3(こできて、)△△(kg残る。)	2	2.2
						* 残りの内容は問わない		
						33(こできて、)△△(kg残る。)	3	4.0
						* 残りの内容は問わない		
					上記以外の解答	8	26.9	
					無解答	9	7.0	

[2] 出題のねらい

大問3は、「数と計算」領域の「小数と整数のわり算」の文章問題である。わり切れる場合、わり進む場合、あまりを出す場合など、問題場面の把握、立式、計算、解といった一連の思考につながりが見られるか検討するため、問題を設定した。

[3] 解説

**「答えはどれくらいになるかな?」「この答えは合っているかな?」
答えが出たら終わりではなく、問題場面に合っているか確かめる習慣を!**

文章を読んで、 $16.5 \div 5$ の包含除の場面を捉え、処理するこの問題は、正答率が56.6%であり、昨年度の正答率48.0%に比べると、少し上昇している。また、「上記以外の解答」が26.9%と、昨年度の0.3%よりも大幅に増えている。今年度は、わり進めていくとわり切れる数値にしたため、あまりを出さずに解答した児童が多くいたためと予想される。つまり、正答率は上昇傾向にあるものの、まだ問題場面の意味を十分に捉えられていないことを示している。問題を読んだときに「答えがどれくらいになりそうか」「どんな数になりそうか」と見積もることや、「出てきた答えが本当に問題場面と結びついているのか」をふり返ることの必要性を、さらに指導していくことが大切である。

また、「小数と整数のわり算」の問題場面には、わり進む(わり切れず商を概数で求める場合も含む)場面(等分除)とあまりを出す場面(包含除)とがある。場面の意味をとらえ、何の位まで計算すればよいのかを考えることを大切にされた指導を行う必要がある。その指導法として、例えば、問題場面を半具体物や図を用いて表現する活動が考えられる。図や操作活動を重視することで、等分除の場面と包含除の場面の違いが捉え易くなるだけでなく、単位を意識しながら、商とあまりの関係も明確になる。そのような経験を重ねることで、わり進めるべき場面なのか、商は整数まで求めあまりを出す場面なのかの判断を、児童ができるようにしていくことが大切である。

それに加え、小数÷整数の筆算の仕方の習得も不十分であると言える。継続して小数÷整数の技能の習得を図る必要がある。

大問 4

〔1〕 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
14	4	(1)	短答	○	$\frac{19}{3}$	0	69.8	
					$\frac{23}{2}$	1	3.4	
					2	7.6		
					3	1.7		
					上記以外の解答	8	13.3	
					無解答	9	4.1	
15	4	(2)	短答	○	$1\frac{3}{5}$ または $\frac{8}{5}$	0	46.1	
					$\frac{8}{10}$	1	19.9	
					$\frac{3}{5}$	2	1.6	
					小数で解答しているもの	3	8.6	
					上記以外の解答	8	19.5	
					無解答	9	4.3	
16	4	(3)	短答	○	$\frac{20}{9}$ (>) $2\frac{1}{9}$ (>) 2 (>) $\frac{17}{9}$ (>) $1\frac{7}{9}$ * 仮分数を帯分数に、帯分数や整数を仮分数にしても、並び順があていれば正解とする。	0	65.6	
					$1\frac{7}{9}$ (>) $\frac{17}{9}$ (>) 2 (>) $2\frac{1}{9}$ (>) $\frac{20}{9}$	1	2.3	
					類型0以外で $\frac{20}{9}$ を最も大きいとしている。	2	8.2	
					$2\frac{1}{9}$ を最も大きいとしている。	3	6.2	
					2 を最も大きいとしている。	4	6.6	
					$\frac{17}{9}$ を最も大きいとしている。	5	0.9	
					類型1以外で $1\frac{7}{9}$ を最も大きいとしている。	6	1.0	
					上記以外の解答	8	6.8	
					無解答	9	2.4	

〔2〕 出題のねらい

大問4は、「数と計算」領域の「分数」に関する問題で、分数の基礎的・基本的な理解ができているかをみることを目的として設定した。

(1)は、分数が単位分数のいくつ分で表されていることが分かっているかどうかをみるための問題である。

(2)は、テープ図に表された分数を読み取る問題である。量としての分数の理解の定着を把握するための問題として設定した。

(3)は、分数と整数を大きい順に並べる問題である。昨年度から比べる数値の数を3つから5つに増やして、整数1つ、仮分数2つ、帯分数2つを扱い、より帯分数か仮分数にそろえて比較する必要性が生まれるような問題を設定した。

〔3〕 解説

(1)は、「2と $\frac{3}{8}$ は、 $\frac{1}{8}$ を□こあつめた数です。」と□に当てはまる数を問う問題である。正答率は69.8%で、昨年度の64.7%と少し上昇している。過去に真分数だけで考える「 $\frac{7}{9}$ は、 $\frac{1}{9}$ を何こ集めた数ですか。」という問題を提示したところ、95.9%と高い傾向であった。このこととあわせて考えると、単純に真分数のいくつ分という見方はできていても、整数が真分数のいくつ分であるかという点での理解が不足していることがわかる。今後も、「単位分数

II 調査結果の概要

が〇こ集まるといくつになるか」「整数や分数が単位分数のいくつ分か」「分数の単位分数はいくつか」など、さまざまな角度から分数を考察する問題に触れる機会を増やし、分数や整数を単位分数のいくつ分であるかと考える見方を育てていく必要がある。

(2) は、テープ図に示された大きさを「1と $\frac{3}{5}$ (または $\frac{8}{5}$)」と分数で表す問題である。正答率は46.1%であり、昨年度の42.0%とほぼ同程度である。また、見た目から「 $\frac{8}{10}$ 」と答えた児童が19.9%であり、昨年度の15.0%より4.9ポイント高くなっている。長さ(m)を分数で表す場合、「1mを〇等分したうちのいくつ分で表す」という量分数の意味がしっかり押さえられていないことが分かる。(1)と同様に、常に単位分数に目を向けるような指導が必要である。

「1を〇等分したうちの1つが単位分数であること」「単位分数がいくつ集まって整数になるのか」を意識させるために、数直線を用いる際には、整数部分が「1」で終わりではなく、その先にも続いていくことを理解させるような提示の仕方を工夫する必要がある。

(3) 「2と $\frac{1}{9}$ 、1と $\frac{7}{9}$ 、 $\frac{20}{9}$ 、2、 $\frac{17}{9}$ 」を大きい順に並べるという問題では、正答率が65.6%で、昨年度の77.5%よりも減少している。その原因として、数値の数を3つから5つに増やしたことが考えられる。昨年度、正答率が上昇傾向にあったのは、表し方の異なる分数同士をどのようにして比べればよいかを児童に考えさせたり、どのように直すと比べやすいかを検討したりする活動を取り入れた指導の成果が表れてきているといえる。しかし、数値の数が増えたことで正答率が11.9ポイント低くなっていることから、引き続き、形式的に比較の仕方を定着させるだけでなく、相対的に分数を捉えたり、ある分数をいろいろな形で表したりする活動を重視することが大切である。

大問 5

〔1〕 解答類型別の出現率

No.	問題番号			解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
	大問	中間	小問					
17	5	(1)	選択	○	4	0		67.6
				○	1	1		7.5
				○	2	2		14.9
				○	3	3		3.0
				○	上記以外の解答	8		1.6
				○	無解答	9		5.3
18	5	(2)	短答	○	1200÷4(=300)	0		68.3
				○	□×4=1200	1		1.9
				○	1200÷4=	2		4.5
				○	1200×4	3		9.2
				○	1200を使っている式 * 類型2, 3以外	4		4.3
				○	上記以外の解答	8		3.4
				○	無解答	9		8.4

〔2〕 出題のねらい

大問5は、「数と計算」領域で、比較量と割合から基準量を求める除法の場面を取り上げた。

(1)は、数直線から数量の関係を読み取る力をみる問題として設定した。

(2)は、「比べられる量」、「倍」から「もとにする量」を求める除法の場면을正しく立式できるかをみる問題である。

〔3〕 解説

(1)の正答率は67.6%だった。昨年度も同様の問題で69.2%、一昨年度は69.4%だったことから少しずつ下がっている傾向にある。授業の中で、立式の根拠を考える際に数直線に数量の関係を整理したり、数直線で表された場面を読み取ったりする活動を大切にしたい指導を継続している成果といえる。今後も、問題場면을数直線に表したり、数直線を読んだりする活動を充実させたい。

(2)の正答率は70.2%であり、これも昨年度の67.4%と同程度である。数直線からの立式ではなく、文章から立式した児童もいたと考えられるが、もとにする量の求め方を導き出すことが理解できているといえる。普段からテープ図や数直線の見方、表し方を指導していることで、数量の関係を正確にとらえることができる児童が増えていることがわかる。

「割合」の問題は割合や比較量を求める活動に対し、基準量を求める活動の方が広がりがある分、難しさがある。また、学習指導要領では、具体物、言葉、数、式、図、数直線を用いて表したり考えたり説明したりする活動を通して指導することが掲げられている。低学年から、具体物や半具体物を1列に並べたり、図に表したりするなどの活動を充実させることが大切である。第2学年のかけ算の学習や、第3学年のわり算の学習でも、数直線を意識したテープ図が教科書などで明示されている。具体から徐々に、より抽象化されたテープ図や数直線を読み取ったり、かいたりする力を育てていきたい。引き続き、低学年から課題場面から立式して計算処理をするだけでなく、テープ図や数直線などで数量関係をまとめるような授業展開が必要である。

大問 6

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
19	6			短答	○	100	0	50.6
					○	(13+87)	1	0.6
						6100	2	2.7
						13 または 87	3	7.1
						1131 または 68991	4	2.0
						880 または 53680	5	7.9
						1924 または 117364	6	0.3
						13+87	7	0.2
						上記以外の解答	8	17.5
						無解答	9	11.2

[2] 出題のねらい

大問6は、「数量関係」領域で、加減乗除に関する計算のきまりを理解し、分配法則を用いて、工夫して計算できるかをみる問題として設定した。

[3] 解説

正答率は51.2%で、昨年度も同様の問題で45.8%と、上昇している傾向にある。計算のきまり（分配法則）の意味や使い方を丁寧に指導してきた結果が出てきているといえる。数値が変わっても計算のきまりが使えるように、分配法則が表す意味についても理解し、2つのかけ算を1つの式にまとめたり、逆に1つの式から2つのかけ算を見出したりしていく経験を重ねる必要がある。

指導においては、加減乗除に関して成り立つ性質を使いたくなるような課題設定が大切である。この性質を使うと計算が簡単にできるという経験を積み重ね、加減乗除に関して成り立つ性質のよさを感じることができれば、計算のしかたを自ら工夫しようとすると考えられる。

分配法則については、3年の「かけ算のきまり」や4年の「式と計算」だけでなく、「かけ算のひっ算」や「小数と整数のかけ算、わり算」などでも意識的に取り上げることができる。様々な場面で繰り返し学習することで理解の充実を図ることが大切である。

大問 7

[1] 解答類型別の出現率

問題番号			解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間					
20	7		短答	○	①500+200+300と解答している。 ②1000と解答している。	0	42.9
				○	①500+200+300と解答している。 ②1000以外を解答している。無解答。	1	2.3
				○	①490+150+300と解答している。 ②940と解答している。	2	7.9
				○	①490+150+300と解答している。 ②940以外を解答している。無解答。	3	1.1
				○	①類型0～3以外の組み合わせで、488を490 または500に、147を150または200に、296を 300に切り上げた式を解答している。 ②和が式と一致している。	4	11.7
				○	①類型0～3以外の組み合わせで、488を490 または500に、147を150または200に、296を 300に切り上げた式を解答している。 ②和が式と一致していない。無解答。	5	1.1
					488+147+296と解答している。	6	0.7
					500+100+300と解答している。	7	24.7
					上記以外の解答	8	3.7
	無解答	9	3.8				

[2] 出題のねらい

大問7は、今年度新たに出題した問題である。買い物の場面を取り上げ、1000円で買い物ができるかどうかを判断するために、切り上げて計算する日常場面を想定した問題である。切り上げの意味やそのやり方を理解しているかを確認したり、目的に合った数の処理のしかたを考えたりする問題であった。

[3] 解説

大問7は、「488円の三角定規と147円のノート、296円の下じきの代金をそれぞれ切り上げて、3つの代金の和を求める問題」で、正答率は62.5%であった。問題を解く前に四捨五入の例を示し、3つの品物の代金の合計をおよその数で示している。その後、日常生活の場面に合うように代金を切り上げる問題を出題した。

誤答を見ると、切り上げの問題にも関わらず「500+100+300」と見て計算している児童が24.7%いることがわかった。つまり、147を切り上げなければいけない場面にも関わらず、四捨五入をしてしまい、数値を低く見積もってしまったということがわかる。このことから、四捨五入や切り上げのしかたは理解しているが、1000円で買い物できるかどうかを判断するという問題場面を頭の中でイメージできていない児童がいたことが結果からわかる。

指導の面では「どの位までの概数にするのか」「四捨五入するのか、切り上げるのか」ということを、児童自らが判断する場面や、それが適切であるかどうかを振り返る場面を授業の中で取り入れていくことが大切である。

大問 8

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
21	8	(1)	選択	○	3	0	71.5	
					1	1	2.0	
					2	2	20.0	
					4	3	3.6	
					上記以外の解答	8	1.0	
					無解答	9	1.8	
22	8	(2)	短答	○	220	0	51.0	
					140	1	36.2	
					40	2	2.5	
					320	3	1.9	
					類型0~3以外で、180°以上270°未満を解答している。	4	2.3	
					類型0~3以外で、90°未満を解答している。	5	0.5	
					類型0~3以外で、90°以上180°未満を解答している。	6	1.3	
					類型0~3以外で、270°以上360°未満を解答している。	7	0.5	
					上記以外の解答	8	0.8	
					無解答	9	3.0	

[2] 出題のねらい

大問8は、「量と測定」領域の「角の大きさ」に関する問題で、角の大きさを正しく測定することができるかどうかをみることを目的として設定した。

(1)は、180度より大きい角のおよその大きさを、2直角、3直角を基に捉えることができるかどうかをみる問題で、知識・理解を主たる観点とした。

(2)は、180度や360度を基に分度器を用いて、180度よりも大きい角の大きさを求めることができるかどうかをみる問題で、技能を主たる観点とした。

[3] 解説

(1)の正答率は、71.5%だった。「角の開き方が1直線になると180度」であることや、一回転の角の大きさは90度4つ分とみる見方を基にして、角の大きさの見当をつけることができている。角の大きさの見当をつけることは、測定の誤りを防ぐ上で大切である。また、直角を基にして、90度より大きいかどうかを判断するなど、角の大きさの見当をつけることで、角の大きさについての感覚を豊かにすることも大切である。

(2)の正答率は、51.0%だった。(1)で71.5%の児童が角の大きさの見当をつけることができていたにも関わらず、角の大きさを正確に測定することができていない児童が多いことがわかる。誤答では、「140度」と答えた児童が36.2%いた。正答率が低かった原因は、分度器の目盛りを0度の線を基に時計回りに読んだものと考えられる。

指導にあたっては、分度器のしくみを十分観察させ、身の回りのいろいろな角の大きさを測定する活動を行いたい。合同な図形や、縮図や拡大図などの関連する内容においても意図的に取り扱うことで、分度器を用いた角の大きさの測定や作図の技能の定着を図ることが大切である。

大問 9

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
23	9	(1)		選択	○	2	0	38.1
						1	1	46.0
						3	2	7.9
						4	3	1.1
						上記以外の解答	8	2.7
						無解答	9	4.2
24	(2)			短答	○	4×5(=20) または 5×4(=20)	0	60.3
						2×4×5(=40)	1	5.9
						2×5(=10)	2	0.1
						2×4(=8)	3	0.1
						上記以外の解答	8	23.4
						無解答	9	10.2

[2] 出題のねらい

大問9「量と測定」領域の「面積」について出題した。

(1)は、数量から適切な面積のものを選ぶ問題である。量感が身に付いているかをみることをねらいとしているので、知識・理解を主たる観点とした。

(2)は、長方形の面積を求める問題である。面積の求め方が分かっているかをみる問題としているので、主たる観点は知識・理解である。

[3] 解説

**面積を求める指導だけで、終わっていませんか？
2辺の長さに見当を付けた上で求める経験を！**

(1)は「はがきの面積」を選択する問題を出題した。正答率は38.1%だった。誤答を見ると、「50 cm²」を選んだ児童が46.0%もいた。実際の面積を求める際に、2辺の長さをかけ合わせるによって面積が求められるという考えが活用できなことで、長さや面積についての量感がともなっていないことがわかる。

指導については、身の回りのものの面積を求めるという活動を積極的に取り入れていくことが大切である。その際、2辺の長さについて見当をつけた上で測定させたり面積を求めたりするなど、「長さ」や「広さ」について、量の感覚を育てていくような活動や指導を展開していく必要がある。また、量の感覚を育成するには、数種類の大きさの長方形の中から300 cm²の図形を選ぶといった活動も有効である。指定された大きさの図形を選ぶ際には、300 cm²という面積から10cm×30cm や15cm×20cm の長方形をイメージするなど、面積を辺の長さ置き換えて考えられるようにすることも大切である。さらに、導き出した答えが本当に正しいのかを、根拠をもとにふり返る態度も普段から養っていかなくてはならない。

(2)の正答率は60.3%で、昨年度は64.3%だった。面積を求める長方形を斜めに提示したり、求積に必要な数値を提示したことにより、長方形と判断できなかったり必要な数値を選ぶことができなかつたりした児童がいたことがわかる。

児童は、生活経験の中から形が安定する視点で図形を判断する傾向が見られる。「4つの角が全て直角」という定義をもとに、提示された図形は長方形であると判断できるようにすることが大切である。また、長方形の面積は、縦×横で求められることから2辺の長さのみに着目すればよいことにも気づかせることが必要である。

大問 10

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
25	10			選択	○	2	0	32.7
						1	1	27.2
						3	2	18.4
						4	3	14.9
						上記以外の解答	8	1.6
						無解答	9	5.3

[2] 出題のねらい

大問10は、「図形」の領域で、平行四辺形の作図のしかたを性質をもとに考えることができるかどうかをみる問題として設定した。

[3] 解説

形式的に作図の手順を指導していませんか？ 手順と定義や性質を対応させながら作図を！

平成26年度までは、平行四辺形をコンパスで作図するという技能をみる問題であったが、平成27年度からは作図の仕方が成立する理由を説明する問題を出題している。

今年度の正答率は32.7%であり、昨年度も、同じ32.7%であった。平成26年度の平行四辺形を作図する問題の正答率74.5%と比較すると、大幅に減少している。誤答では、「向かい合っている辺が平行である」を選んだ児童が27.2%いた。正答率が低い原因は、定義や性質を理解しないまま、形式的に作図の手順を指導してきたことにある。

指導にあたっては、その図形ならではの特徴と作図の操作を対応させて理解できるようにすることが大切である。「向かい合った二組の辺が平行な四角形は平行四辺形」という平行四辺形の定義や「平行四辺形は向かい合っている辺の長さが等しい」という性質と、平行線を利用したかき方やコンパスを使ったかき方を関連づけていく必要がある。

第3学年では、二等辺三角形の「2辺の長さが等しい」という特徴を理解し、等しい長さを写すことができるコンパスを用いて、二等辺三角形の等しい2辺を作図してきている。

その図形の性質を利用して、作図していることを繰り返し各学年で意識づけていくことで、統合的に理解を深めていくことが大切である。

大問 11

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
26	11	(1)		選択	○	ア, ウ, エ, オ(順不同, 完答)	0	68.1
						ア, ウ, エを含み, オを含まないもの	1	8.5
						ア, ウ, オを含み, エを含まないもの	2	0.6
						ア, エ, オを含み, ウを含まないもの	3	5.1
						ウ, エ, オを含み, アを含まないもの	4	1.1
						正答のうち2つのみを含むもの	5	9.1
						正答のうち1つのみを含むもの	6	2.5
						ア, イ, ウ, エ, オ	7	0.4
						上記以外の解答	8	0.9
						無解答	9	3.7
27		(2)		選択	○	ア, エ(順不同, 完答)	0	32.1
						アを含み, エを含まないもの	1	3.3
						エを含み, アを含まないもの	2	9.0
						ア, イ, エと解答しているもの	3	0.2
						ア, ウ, エと解答しているもの	4	6.6
						ア, エ, オと解答しているもの	5	24.6
						上記以外の解答	8	17.7
						無解答	9	6.4

[2] 出題のねらい

大問11は、「図形」領域の「いろいろな四角形」について出題した。

(1)は、「向かい合った角の大きさが等しいすべての四角形」を選ぶ問題で、図形についての知識・理解をみる問題として設定した。

(2)は、「2本の対角線の長さが等しい四角形」を選ぶ問題で、図形についての知識・理解をみる問題として設定した。

[3] 解説

(1)の正答率は68.1%であった。昨年度も同様の問題で、正答率は67.6%であった。誤答では、平行四辺形を選択していない児童が8.5%、ひし形を選択していない児童が5.1%であった。「向かい合う」の意味が理解できていないためと考えられる。台形、ひし形、長方形、正方形、平行四辺形などの図形の観察や作図、作図したものを切り抜いて折り重ねるなどの活動を通して、図形の構成要素や位置関係、定義、性質などに着目する授業展開を行うとともに、説明の際に用いる用語についても指導が必要である。

(2)の正答率は32.1%であり、昨年度の正答率45.1%から13ポイント減少している。正方形、長方形と平行四辺形を選んでいる誤答が24.6%であり、平行四辺形の向かい合う辺の長さが等しいという性質と混同したためだと考えられる。また、正方形は選んでいるが長方形は選んでいない誤答が9.0%であった。4辺の長さが等しい場合だけが対角線の長さも等しいと判断したと思われる。

指導にあたっては、対角線に着目して四角形の特徴をとらえて分類整理できるようにすることが大切である。今年度も図形を提示しているため、線をかき加えれば対角線の長さをとらえることができた問題である。自ら線をかき加えて判断していこうとする態度や、自分の解答が妥当かどうかを振り返る姿勢を育てる必要がある。

大問 12

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
28		(1)		選択	○	5	0	58.0
						1	1	25.8
						2	2	4.0
						3	3	3.3
						4	4	1.3
						上記以外の解答	8	3.3
						無解答	9	4.2
					29	12	(2)	
○	面㊸, 面㊹ (順不同, 完答)	0	13.1					
	面㊸, 面㊺, 面㊻, 面㊼	1	27.9					
	面㊼, 面㊽	2	1.9					
	面㊺, 面㊻	3	18.5					
	上記以外の解答	8	29.2					
	無解答	9	9.4					

[2] 出題のねらい

大問12は、「図形」領域の「立方体」について出題した。

(1)は、立方体の正しい展開図を選ぶ問題で、図形についての知識・理解をみる問題として設定した。

(2)は、立方体の中で1辺に対して垂直な面を選ぶ問題で、図形についての知識・理解をみる問題として設定した。

[3] 解説

(1)は、立方体の正しい展開図を選ぶ問題で、正答率は58.0%であり、昨年度は61.7%だった。十字型の展開図を選択した誤答が25.8%であり、直感のみで判断したことがうかがえる。指導にあたっては、直方体や立方体は6面で構成されていることを理解できるようにすることが大切である。展開図をかき、組み立てたらどうなるか実際に経験する学習を通して、筋道を立てて考えられるようにすることも必要である。また、一つの立体図形から、一通りではなく、いくつかの展開図をかくことができることや、展開図からできあがる立体図形を想像できるようになることも大切である。

(2)は、立方体のある1辺に垂直な面をすべて選ぶ問題で、正答率は13.1%であった。辺に垂直な面に加え、その辺と接している面を選択した誤答が27.9%であった。平成26年度は、直方体のある面に垂直な面をすべて選ぶ問題で、正答率は73.5%であった。このことから、面と面の関係よりも辺と面の垂直関係を理解することの方が困難であることが分かる。今後も立体の辺や面の位置関係については、立体を観察したり、構成したり、分解したりする活動を通して理解できるように指導することが大切である。

大問 13

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)					
No.	大問	中間	小問										
30	13					【大問13 採点基準】 * 複数の類型に該当する解答については、上位の類型に分類する。 説明の際に、単位がなくても、単位が間違っても許容とする。 (正答の条件) 次の①、②を正しく書いている。 ①「長方形」だととらえたことを説明している。 ②図形を「動かした」ことを説明している。 * 図形を「分けた」「切った」など、図形を動かしたという意味が読み取れる解答は可。 (正答例) 辺の長さが6cm, 8cm, 10cmの三角形を切り取って動かして、たて8cm, よこ9cmの長方形と考えると、面積を求めることができます。 左にある三角形を切って右に動かして、長方形と考えると、面積を求めることができます。 * 「1辺が8cm×9cmの長方形」という表現は可。「四角形」の表現は不可。							
									記述	○	①、②を満たしているもの。	0	27.0
										○	①のみを満たしているもの。	1	3.3
											②のみを満たしているもの。	2	17.2
											上記以外の解答	8	25.4
											無解答	9	27.1

手順の説明で終わっていませんか？

結果の説明だけで終わらせず、目的や過程の説明を大切に！

[2] 出題のねらい

大問13は、「量と測定」領域から「複合図形の面積」を求める問題を出題した。主たる観点は数学的な考え方である。4年生では、2つの長方形に分けて合わせる方法や、大きな正方形・長方形から実際にはない部分の面積をひく方法を中心に学習してきたが、ここでは、図形の一部を動かすことで公式で求められる図形に変形（等積変形）する方法を扱った。

今年度は、問題の中ではじめに長方形を組み合わせてできる複合図形の求め方を例に出し、その説明を参考にして、図から平行四辺形の面積の求め方を考え、文章で説明する問題にした。

平行四辺形の面積の求め方については5年生で学習する内容であるが、本問を解決するための等積変形の考え方は4年生までに身につけているものである。問題解決力が基礎学力の1つとしてどの程度身につけているのかをみる問題として設定した。なお、正答の条件は以下の①②の両方、または①が書かれていることとした。

- ①「長方形」だととらえたことを説明している。
- ②図形を「動かした」ことを説明している。

[3] 解説

「切って動かして長方形にする」という説明を参考にして、同じように説明をすることができた児童は、30.3%だった。昨年度の22.0%、一昨年度の25.4%から比べると上がってきているとはいえ、まだまだ低い。自分の考えを説明する力の習得が不十分であることがうかがえる。

はじめに提示された求め方の説明を参考にして、①「長方形」に変形すること、②図形の一部を動かすことを明確にし、文章で説明できた児童が27.0%（昨年度は15.7%）、①「長方形」に

II 調査結果の概要

変形して考えた結果のみで説明した児童が 3.3%（昨年度は 6.3%）だった。変形したあとの「長方形」を意識し、何のために動かすかを明らかにして説明する子が増えたことがわかる。図や式を読み取って説明したり、自分の考えを図や式で説明したりする活動を多く取り入れ、答えを求める過程を大切にしていた授業を行ってきた成果が出てきているといえる。しかし、無解答の児童が 27.1%（昨年度は 29.6%）であり、昨年度に引き続き大きな課題である。図や式から考え方を読み取り、言葉で説明するなど、学習指導要領で大切にされている思考力・判断力・表現力等による課題解決は今後も重視される。引き続き、日常の授業で、友達の考えを読み取ったり、それを自分の言葉で説明したりする活動を充実させていく必要がある。

また、授業の中で、子どもたちが図を使いながら「ここが 3×2 で 6 cm^2 だから…」のように「ここが…」と説明する場面が多いが、何のために動かしているのかということや、既習の（公式を使うことができる）図形をもとにして考えていることを子どもたちに意識させていく必要がある。

新学習指導要領では、面積の公式をつくり出すことが求められている。今後もこの問題のような活動を充実させていくことが大切である。

大問 14

[1] 解答類型別の出現率

No.	問題番号			解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率 (%)
	大問	中間	小問					
31	14	(1)		短答	○	36 (cm)	0	68.0
					○	42 (cm)	1	0.4
					○	24 (cm)	2	4.8
					○	72 (cm)	3	1.4
					○	上記以外の解答	8	13.9
					○	無解答	9	11.5
32	14	(2)		短答	○	$\bigcirc \times 6 (= \Delta)$	0	46.6
					○	$6 \times \bigcirc (= \Delta)$	1	6.3
					○	$\bigcirc + \bigcirc + \bigcirc + \bigcirc + \bigcirc + \bigcirc (= \Delta)$	2	0.4
					○	$\bigcirc + 6 (= \Delta)$	3	0.4
					○	$\bigcirc \times 7 (= \Delta)$	4	0.0
					○	上記以外の解答	8	28.2
					○	無解答	9	18.0

[2] 出題のねらい

大問 14 は、「数量関係」領域の「変わり方」を取り上げた。図や表から数量の関係を読み、調べる問題である。昨年度、一昨年度と同じ問題を出題した。正方形を 2 個組み合わせて作った形の、正方形の 1 辺の長さとの周りの長さという 2 つの数量の関係を調べる活動を扱った。昨年度と同様、変わり方がイメージしやすいように図に示し、解決への手だてとして正方形 1 辺の長さとの周りの長さをそれぞれ \bigcirc 、 Δ とした途中までの表を示し、問題文にも「周りの長さは 6cm、12cm、18cm、… となります。」と明記した。

(1) は、正方形の 1 辺の長さから周りの長さを求める（調べる）問題で、主として数学的な考え方をみる問題として設定した。

(2) は、ともなって変わる 2 つの数量の関係を式に表す問題で、主として数学的な考え方をみる問題として設定した。「関係を式に表す」だけではさまざまな形での正答が存在し、子どもたちが混乱することも考えられるため、関係式の一部を表す問題形式とした。

[3] 解説

(1) の正答率は 68.0% で昨年度の 67.3% と同様の正答率となっている。一昨年度は同じ問題で、まわりの長さを 1 つも入れずに提示したところ、正答率は 55.9% と低かった。昨年度は表の中に 1 辺の長さが 1 cm のときの周りの長さを、今年度は 2 cm のときの周りの長さをあらかじめ入れて提示し、どの部分を求めるのかをイメージしやすくした。そのため、1 辺の長さが 2 cm のとき、3 cm のときと、考えやすかったのだと考えられる。しかし、数量の関係そのものは単純であり、関係を読み取りやすい図であることから、68.0% の正答率は決してよい結果とはいえない。ともなって変わる 2 つの数量を表に表したり、式に表したりして明らかにしていく活動を大切にしたい。

(2) は、ともなって変わる 2 つの数量の関係を式に表す問題である。正答率は 53.3% だった。問題に示された条件を整理することや記号に表すこと、記号を使って数量関係を式に表すことに課題があるといえる。無解答率が 18.0% あり、これも昨年度の 21.8% と同程度である。「表を横に見てきまりをみつける」「表の続きを考える」といった方法に見通しをもっている児童は多いが、表を縦に見て関係を見つけることに課題があることが分かる。

II 調査結果の概要

しかし、昨年度 49.2%一昨年度 43.3%の正答率と比べると、まだまだ十分とはいえないが、毎年少しずつ上がってきているのは、ともなうて変わる 2つの数量の関係を明らかにし、式に表したり、式を読んで数量の関係を説明したりする授業を大切に行ってきた成果だといえる。

変わり方のきまりを見つけるには、表を縦に見て、「正方形の 1 辺の長さとうりの長さにはいつもどんな関係が成り立つのか」など、その規則性を発見しようとする態度が大切になる。表の扱い方についても、「表をかく」指導だけでなく、「表を使ってきまりを見つける」「表のよさを体感する」指導が重要になる。また、日頃からきまりに気づいたり、きまりを見つけようとしたりする態度を育むことが必要である。そのため、表の続きを自分で作ったり、表などの数値を見て規則性を探したりする活動を十分に取り入れ、数に対する感覚を育てる指導がいっそう望まれる。

大問 15

[1] 解答類型別の出現率

問題番号			解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)		
No.	大問	中間						小問	
33	15	(1)	記述	【大問15(1) 採点基準】 月と本の種類の両方が、正しく記述されていないものは誤答とする。					
				○	15は、12月に貸し出された「伝記」のさつ数を表しています。 (15が明記されていなくても可。同意文可)	0		55.9	
					「12月に貸し出されたさつ数です。」など、本の種類について記されていない。	1		0.7	
					「伝記の貸し出されたさつ数です。」など、月について記されていない。	2		1.4	
					類型0で、月や本の種類に誤りがあるもの。	3		0.2	
					上記以外の解答	8		24.6	
			無解答	9		17.3			
34	15	(2)	記述	【大問15(2) 採点基準】 (正答の条件) 次の①、②を全てを書き、記号をウと解答しているもの。 ①2月に本を借りていない人の人数であることを説明している。 ②3月に本を借りた人の人数であることを説明している。 (正答例) 【説明】 7は、2月に本を借りていなくて、3月に本を借りた人の人数です。 【記号】ウ					
				○	【説明】①、②の全てを書いている。 【記号】ウを解答しているもの。	0		35.1	
					【説明】①、②の全てを書いている。 【記号】ウ以外を解答しているもの。無解答。	1		0.5	
					【説明】 ①を書いている。 ②を書いている。 【記号】ウを解答しているもの。	2		4.2	
					【説明】 ①を書いている。 ②を書いている。 【記号】ウ以外を解答しているもの。無解答。	3		0.7	
					【説明】ウ以外の記号の示す表の位置を正しく説明している。 【記号】ウを解答しているもの。	4		1.35	
					【説明】ウ以外の記号の示す表の位置を正しく説明している。 【記号】ウ以外を解答しているもの。無解答。	5		2.958	
					【説明】類型0～6以外の解答。無解答。 【記号】ウを解答しているもの。	6		16.32	
					上記以外の解答	8		12.11	
	無解答	9		26.71					

[2] 出題のねらい

(1) は、2次元表の中の数値が表していることを読み取る問題、(2) は、表の中のあいっている欄に入る数を求める式を読み取り、式の中にある数が表す意味を言葉で表したり、2次元表のどの部分に入るのかを答えたりする問題で、2次元表についての知識・理解や、2次元表をよみとり、あいっている欄に入る数を筋道立てて考える力をみる問題として設定した。

[3] 解説

(1)は2次元表の中の数値が表している2つの観点を読み取る問題である。正答率は55.9%(昨年度は59.1%)だった。貸出冊数が、「月」と「本の種類」の2つの観点で分類されていることを理解し、「12月」の「伝記」の貸出冊数と、つきと本の種類のどちらも読み取って答えないといけない。どちらかのみ書いている解答が2.1%で、それ以外、または無解答が42.1%(昨年度は39.6%)もいた。2次元表の見方を理解できていない児童が多いことがわかる。

指導にあたっては、資料を2次元表に分類整理したり、2次元表から情報を読み取ったりする際に、2次元表の2つの観点を考え、各欄の意味を明確にすることが大切である。そのために、2つの1次元表を重ねたり、余計な部分を隠して見せたりしながら、2次元表の表す意味を捉えさせる活動を充分に行いたい。また、各欄の意味を理解できるように、「縦の項目」と「横の項目」の意味を話し合い、確認する活動も行っていくとよい。

(2)は表の中のあいている欄に入る数を求める式を読み取り、式の中にある数が表す意味を言葉で表したり、2次元表のどの部分に入るのかを答えたりする問題で、今年度新たに出题した。正答率は、35.1%だった。2次元表の中の数の意味を捉え、式と結びつけて考えることに課題がある。2次元表に載っている数や合計などの数をもとに、あいている欄に入る数を筋道立てて考える活動は、2次元表の見方や意味の理解につながるので、積極的に行って行きたい。

新学習指導要領では、「データの活用」を中心とした領域が新設され、5年生ではデータを「多面的に分析する」こと、6年生ではデータを「批判的に分析する」ことが重視される。この領域について、根拠や傾向を論理的に説明することは今後一層要求水準が高くなることが考えられる。そのため、表やグラフの中の数値が何を表しているのか、グラフや表からどんなことがいえるのかを読み取り、説明する力を育てていきたい。

無解答率について

今年度、小問ごとにみた全 34 問の平均無解答率は 6.8%であり、領域別で見ると、「数と計算」が 3.8% (昨年度 2.7%)、「図形」が 5.8% (昨年度 5.4%)、「量と測定」が 9.3% (昨年度 13.1%)、「数量関係」が 14.5% (昨年度 12.1%) だった。

特に高かった問題は、大問 13 の複合図形の面積の求め方を説明する問題 27.1%、大問 15(1) 2次元表の中の数値が表していることを読み取る問題 17.3%、(2)の表の中のあいている欄に入る数について考える問題 26.7%、大問 14(1)の表から数量の関係を調べる問題 11.5%、(2)の伴って変わる 2つの数量の関係を式に表す問題 18.1%だった。理由や求め方を文章で説明する問題、表やグラフから数量の関係を筋道立てて考える問題で、無解答率が高かった。見通しをもつことができなかったもの、時間がなくて答えられなかったもの、はじめから「できない」とあきらめてしまったものなど、さまざまな理由が考えられる。各校においては、児童の実態を把握するとともに、問題解決型の授業を充実させ、既習の考えをもとにしたり、図に表したり、具体的な場面や数値に置き換えたりすることが、答えに近づくための手立てになると子供たちが実感することを通して、無解答を減らしていくように努めていく必要がある。

(5) 今後の指導にあたって

◎全体を通して

観点別に平均正答率を見てみると、「数学的な考え方」49.0%（昨年度 44.0%）、「数量や図形についての技能」69.1%（昨年度 67.5%）、「数量や図形についての知識・理解」58.6%（昨年度 59.9%）であった。

「数学的な考え方」は、児童が新たな問題場面に直面し、既に獲得した知識や技能と関連させて考えたり、よりよい解決方法を吟味・検討したりする過程を大切にする中で育まれる。そして、児童が「知識・理解」、「技能」の力を活用し、主体的に粘り強く考えていくとき、「数学的な考え方」は大きな力を発揮するものである。

これからも各観点を相互に関係付けながらバランスよく育てていくことが大切であるが、今後は特に解答の根拠を明確にする指導が求められてくるため、授業改善が必要である。

<数学的な考え方を育む授業づくりのポイント>

- 1 問題場면을把握して、解決の方法や解答の見通しをもつ。
- 2 学習したことを用いて筋道立てて考え、言葉・数・式・図・表・グラフなどで表現する。
- 3 自分の解決方法や解答をが、問題場面に合っているか振り返る。
- 4 友達の考え（式、図など）を読み取る。
- 5 自分や友達の考えから相違点を見つけたり、整理したりして、考えと考えを結び付ける。
- 6 友達と一緒に創り上げる。
（より単純に、より簡単に、より正確に、より便利に、より美しく）
- 7 どのように考えることが大切だったか振り返る。

数学的な考え方を育むためには、教材研究だけでなく、子供たち同士が友達の考えを読み取ったり、自分と友達の考えを比べたりすることのできるような場の設定や授業構成、教師の言葉かけが大切である。また、自分の解決までの道筋を振り返り、検証する姿勢も併せて育てていきたい。子供たちの数学的な考え方を育てるためにも、日々の授業を、何を指導し、どんな力を身につけさせたいのかというねらいを明確にもって指導にあたっていきたい。

本調査をもとに、授業改善に積極的に取り組まれることを期待している。

○数と計算【大問1・2(1)(2)(3)(4)(6)(7)・3・4・5・7】

「数と計算」は、整数、小数、分数などの数の意味と表し方、数の計算などによって構成されている領域で、平均正答率は68.1%であった。(昨年度は69.2%)

四則計算では、小数同士の加法や、小数と整数の乗法は、高い正答率を示している。一方で、小数同士の減法や、整数同士のわり進む除法、帯分数同士のひき算は、十分な正答率を得られていない。小数同士の加法では、位取りを正しく行い正答を求められた児童が79.4%いたのに対して、小数同士の減法になると63.1%に減っている。処理技能の定着だけでなく、位取り表などを用いて「各位の数字が何を表すのか」「位ごとに計算する意味」といった十進位取り記数法をしっかりと押さえられるような指導が重要である。分数同士の計算も同様で、加法は正答率が高いが、減法は低い傾向が見られる。分数の意味である「単位分数のいくつ分」という見方をしっかりと身に付けさせることに加え、帯分数における整数部分と分数部分の関係も、数直線やテープ図、面積図などを使って理解させる必要がある。

また、小数と整数の除法の文章問題では、立式はできているものの、文章から「どこまでわり進めていくのか」を判断することが、毎年課題となっている。今年度は56.6%と昨年度の48.0%より正答率が上がったが、あまりを出さずに回答した児童が大きく増えた。引き続き、場面を把握するために図に表したり、実際に操作したりする活動を取り入れていくことが大切である。また、「問題と照らし合わせて答えを見直す力」を育てていく必要もある。その方法として「見積もる」「確かめの式」「問題場面に戻す」など、見直し・振り返りが考えられる。学習内容や子どもの実態にあわせて取り入れていくことが大切である。

分数では、帯分数を単位分数のいくつ分かで表す問題で、毎年7割にいかない結果となっていて、十分理解しているとは言いがたい。引き続き、「単位分数の何個分」という見方ができるように、分数の意味を丁寧に指導していく必要がある。また、テープ図に表された分数を読み取る問題は低い正答率となっている。分数も整数と同様に、量を表す数として数直線やテープ図に表したり読み取ったりする力をつけていかなければならない。見た目から判断している誤答も多いことから、単位分数を常に意識した指導が必要である。「1を○等分したうちの1つ分」という単位分数の意味を押さえるために、「単位分数を○こ集めると」「単位分数のいくつ分」など、いろいろな視点で数を見る力を育てていくことが大切である。

倍とわり算では、場面にあう数直線を選ぶ問題、式を考える問題ともに、昨年度と同様に70%に近い正答率だった。今後も数直線やテープ図を立式の根拠や考え方の筋道を表すことに用いることができるよう、数量関係を図に表したり読み取ったりする指導を続けていく必要がある。

今年度、新たに出題した「買い物の場面での概算」の問題の正答率は62.5%だった。「どの位までの概数にするか」「この場面は、四捨五入がいいか、切り上げがいいか」など、目的に合った数の処理のしかたを考えることが大切になる。授業の中で、概数にする処理のしかたを児童自らが判断する場面や、それが適切であるかどうかを振り返る場面を取り入れていきたい。

「数と計算」の内容は、「量と測定」、「数量関係」などの他の領域と深く関わりがあるので、重点を置いて指導していく必要がある。指導にあたっては、数の形式的な処理だけでなく、十進位取り記数法、0.1や単位分数のいくつ分かなどの数の意味もきちんとおさえていくことが大切である。さらに、わり算や分数、倍とわり算などの指導では、図や数直線などを用いて実感をもたせてとらえられるようにすることが大切である。

キーワード：図や数直線、十進位取り記数法、意味理解、見直し・振り返り、単位分数

○量と測定【大問8・9・13】

「量と測定」は、身のまわりにあるいろいろな量の意味、単位を用いての量の表し方、量の測定などによって構成されている領域である。平均正答率は50.2%だった。（昨年度は49.6%）

180度よりも大きな角の求め方については、今年度は、まず「だいたいどれくらいの大きさになるか」見積もること、分度器の目盛りを読んで角度の大きさを求めることを見る問題に変更した。71.5%の児童が大きさを正しく見積もれたにも関わらず、180度以上の角度を分度器の目盛りを読み取って答えられた児童は51.0%だった。分度器の目盛りの読み方、180度以上の角度の測り方の理解に課題がある。分度器のしくみを十分観察させ、身の回りのいろいろな角度（左側に開いている角や180度より大きい角など）を測る活動、角をかく活動を十分に行い、実感的な理解を図りたい。

面積の量感に関する問題は、毎年課題が見られ、今年度も38.1%と、昨年度までと同様に低い正答率となっている。引き続き、実測したり体感したり比較したりするなど、量に対する感覚を日頃から育てていくことが大切である。また、量感を身につけるには、「長さ」から「広さ」だけでなく「広さ」から「長さ」という、自分がイメージできるものに戻って判断する力が必要である。例えば、面積を調べる活動において、「たてが△cm、横が□cmだから…」と根拠をもとに予想をさせることで、面積に対する見方を広げ、量感をつかめるようにする。また、求積するだけでなく、面積から実際の広さをイメージできるような活動を多く取り入れていく必要がある。

長方形の面積を求める問題は、正答率は60.3%だった。長方形が斜めだったり、求積に必要な数値が提示されていたことにより、長方形と判断できなかつたり、必要な数値を選ぶことができなかつたりした児童が多かったと考えられる。「4つの角がすべて直角」という定義をもとに図形を判断し、面積を求めるのは2辺の長さに着目すればよいことに気づけるよう、図形の見方を育てていきたい。

複合図形の面積を求める問題は、はじめに長方形を組み合わせてできる複合図形の求め方を例に出し、その説明を参考にして、図をもとに平行四辺形の面積の求め方を考え、文章で説明する問題を出題した。図をもとに面積の求め方を説明する問題では、毎年正答率が低い結果となっていて、今年度も30.3%と低く、無解答の児童も27.1%いた。与えられた図から式を立て面積を求めるだけでなく、普段の授業の中で友達の様式や図を読み取って、その意味や考え方を説明するなど、図と式を相互に結び付ける活動を今後も積極的に取り入れる必要がある。

キーワード：図と式の相互関係、量感、操作、説明

○図形【大問10・11・12】

「図形」は、基本的な図形の意味、構成などに関する領域である。平均正答率は40.8%で、昨年度の44.2%より3.4ポイント低くなった。

コンパスを用いた平行四辺形の作図の方法は、平行四辺形のどんな特徴を使っているのかを問う問題の正答率が32.7%と、昨年度、一昨年度と同様に低い結果となった。平成26年度の、実際に平行四辺形を作図する問題の正答率は74.5%と高かったことを踏まえると、図形の特徴を理解しないまま、形式的に作図の手順を指導してきたことが分かる。作図をする際には、図形のどのような特徴をもとにしているのか、なぜその方法で作図することができるのかを考えるように指導する必要がある。

いろいろな四角形から同じ特徴の四角形を選ぶ問題は、「向かい合った角の大きさがすべて等しい四角形」については68.1%の正答率（昨年度は67.6%）で、例年概ねできていることがわかる。しかし、「2本の対角線の長さが等しい四角形」については、正答率が32.1%と十分理解できているとは言いがたい。図形の特徴を調べるときに、角の大きさや辺の長さだけでなく、対角線に着目して分類整理していくことも大切にして授業を行っていきたい。

立方体の展開図の問題では、辺に対して垂直な面を考える問題の正答率が13.1%と低く、課題が見られた。過去に面と面の関係、辺と辺の関係を問う問題を出題したときには、6割を超える正答率が得られたことを考えると、辺と面の関係の理解が不十分だと言える。立体の辺や面の位置関係については、立体を観察したり、構成したり、分解したりする活動を通して理解できるように指導することが大切である。

図形の学習は、辺、頂点、角、面などの構成要素に着目して図形を分類し、各図形を定義し、理解を深めていくことが大切である。低学年の頃から、構成要素に着目し、いろいろな図形を弁別したり作図したりする活動を通して、図形に親しみ、豊かな感覚を育てる学習を取り入れなければならない。また、実際に長さや角度を測ることで、図形の特徴について実感をともなって理解できるような指導が重要である。

キーワード：図形の構成要素、作図できる特徴、実測

○数量関係【大問2(5)・6・14・15】

「数量関係」は、数量や図形を取り扱う際の共通の考え方や方法などによって構成される領域である。平均正答率は57.0%だった。(昨年度は51.5%)

計算のきまりに関する問題は、正答率が51.2%で、昨年度の45.8%から少し上がっている。計算のきまり(分配法則)の意味や使い方を丁寧に指導してきた成果が出てきているといえる。引き続き、計算のきまりの意味を理解し、2つのかけ算を1つの式にまとめたり、逆に1つの式から2つのかけ算を見いだしたりしていく経験を重ねる必要がある。また、計算のきまりを用いることよさを感じられるような課題の設定が必要である。加えて、低学年の頃から1つの数を「○から1ひいた数」「△と□を合わせた数」というように多様な見方ができる力を育てていくことも重要である。

ともなって変わる2つの数量の関係を記号を用いて式に表す問題は、毎年少しずつ正答率が上がってきている。しかし、図や表から数量の関係を読み取り調べる問題は68.0%(昨年度67.3%)、ともなって変わる2つの数量の関係をしきりに表す問題は53.3%(昨年度49.2%)で、満足のいく結果とはいえない。今後も、表の続きを自分で作ってみたり、表を縦や横に見て規則性を発見したりしていこうとする態度を育てていく必要がある。

2次元表の中の数値が表している2つの観点を読み取る問題では、「月」と「本の種類」の2つを読み取れた児童は55.9%だった。どちらの観点も読み取れなかった児童、また無解答の児童を合わせると42.1%にもなった。2次元表の見方を理解できていない児童が多いことがわかる。授業の中で、2次元表の中の数値が何を表しているのか、2つの観点を考えたり、各欄の意味を明確にしたりすることを大切にしていきたい。また、2次元表のあいている欄に入る数を考える問題は、正答率が35.1%と低く、課題が見られた。2次元表の載っている数や合計などの数をもとに、あいている欄に入る数を筋道立てて考える活動は、2次元表の見方や意味の理解につながるので、積極的に行っていきたい。

キーワード：計算の工夫をするよさ、立式の根拠、式を読む、表やグラフを読む

3. 生活や学習についてのアンケート

調査の概要

1 調査の目的

川崎市の公立小学校に在籍する児童の生活や学習についての意識や実態を把握することにより、各学校における教育課程や指導方法等の改善に資するとともに、本市学校教育全体の充実に向けた基礎資料として活用する。

2 調査の設計

(1) 調査実施校及び対象者

市内公立小学校第5学年に在籍する全児童 *調査当日の欠席者を除く

(2) 調査校数及び回答者数

学校数：113校 回答者数：12,011名

(3) 調査実施日

平成30年5月8日(火)に川崎市学習状況調査の一環として、各教科の調査後に実施

(4) 調査方法

無記名の質問紙法調査による

(5) 調査内容及び設問数

児童の生活と学習に関する意識と実態についての調査 64問

(6) 設問の主な観点及び視点

	観 点	視 点
1	学校生活に対する意識	楽しさ
2	学習全般に対する意識	好感度、必要性、理由、相談相手
3	各教科等に対する意識	好感度、理解度、有用感
4	家庭学習の実態	学習時間、学習内容、通塾
5	家庭生活の実態	睡眠時間、朝食の摂取、学習の準備、 テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間 1ヶ月の読書量、携帯電話の有無
6	自尊意識、将来に関する意識等	自尊意識、学びへの挑戦、将来に関する意識、郷土への愛着、他者との協力・協働
7	各教科等に対する意識・実態	学習内容・方法に対する好感度 日常生活への活用や関連 等

3 調査結果の集計・分析にあたっての留意事項

(1) 単純集計及び分析

- ①2の(6)にある「設問の観点」ごとに項立てを行い、分析を行った。
- ②設問ごとに集計結果をグラフで表し、考察を加えた。
- ③一部の設問では昨年度・一昨年度の結果を併記して、経年比較分析を行った。

(2) クロス集計及び分析

いくつかの設問については、クロス集計という手法を用いて分析した。これは、設問Aでの選択肢ごとに設問Bの回答を集計することで、設問Aでの回答選択の違いを設問Bで説明する方法である。このことにより、設問Aと設問Bの二つの設問の間の関連や相関関係などを分析した。なお、クロス集計では、集計の都合上無回答者を除いて集計した。

(3) 各グラフには、見易さを考慮して調査結果の割合の数値を記入しきれていないものがある。

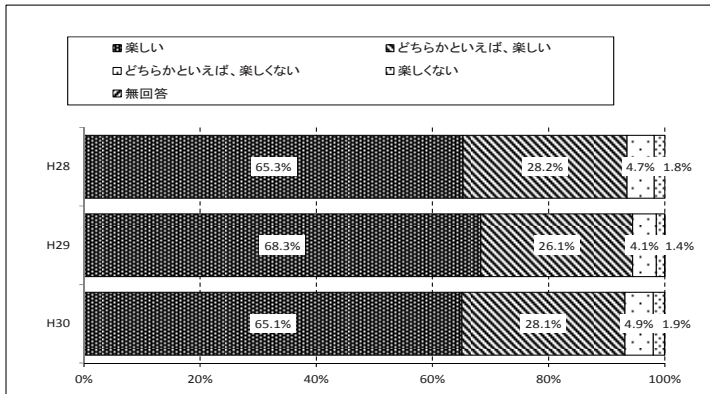
単純集計については、「資料 調査結果集計表」の該当設問の数値でご確認願いたい。

調査結果と分析

単純集計

1 学校生活に対する意識

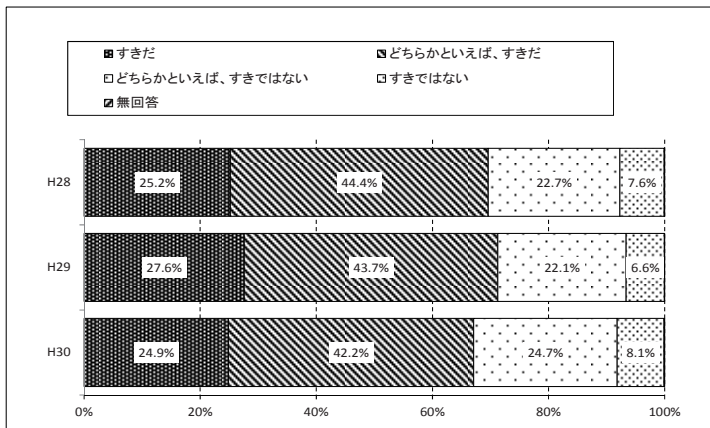
学校生活の楽しさ【問1】



○65.1%の児童が、学校生活は「楽しい」と回答しており、「どちらかといえば、楽しい」を合わせると93.2%となり、9割を超える。
○「楽しい」と「どちらかといえば、楽しい」を合わせた回答は過去3年通して9割を超えた状況にある。

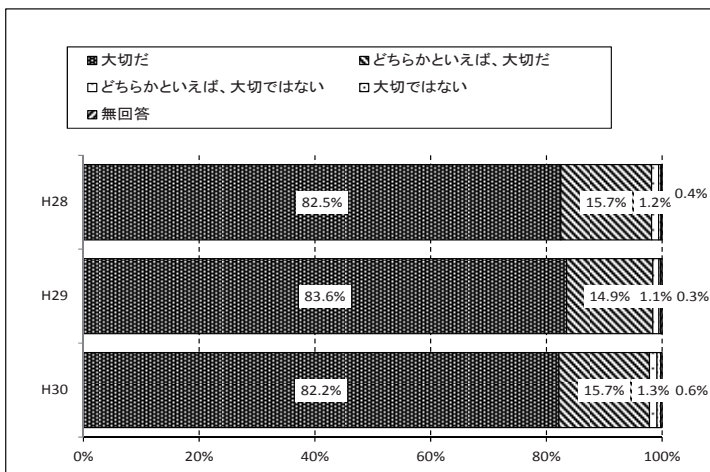
2 学習全般に対する意識

(1) 好感度【問2】



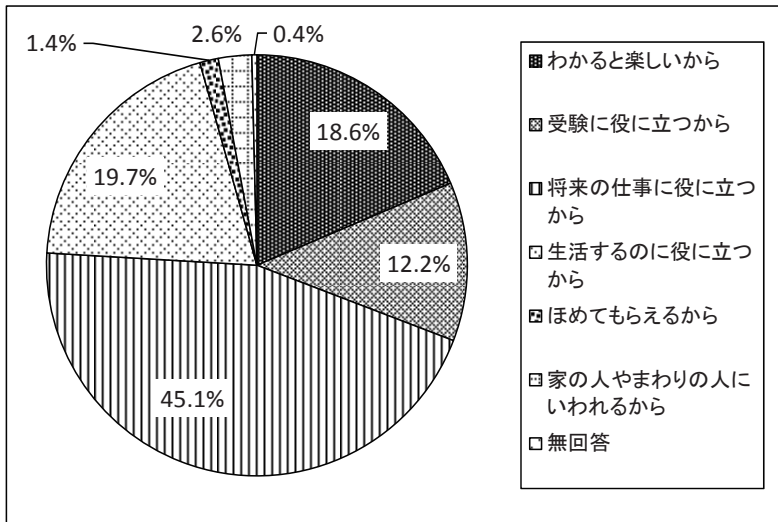
○24.9%の児童が、勉強は「すきだ」と回答しており、「どちらかといえば、すきだ」を合わせると67.1%である。
○28年度と比較すると、「すきだ」と「どちらかといえば、すきだ」を合わせた回答は4.2ポイント減少した。

(2) 必要性【問3】



○82.2%の児童が、勉強は「大切だ」と回答しており、「どちらかといえば、大切だ」を合わせると97.9%である。
○勉強は「大切だ」と「どちらかといえば、大切だ」を合わせた回答は29年度より0.6ポイント増加で、ほぼ同値である。

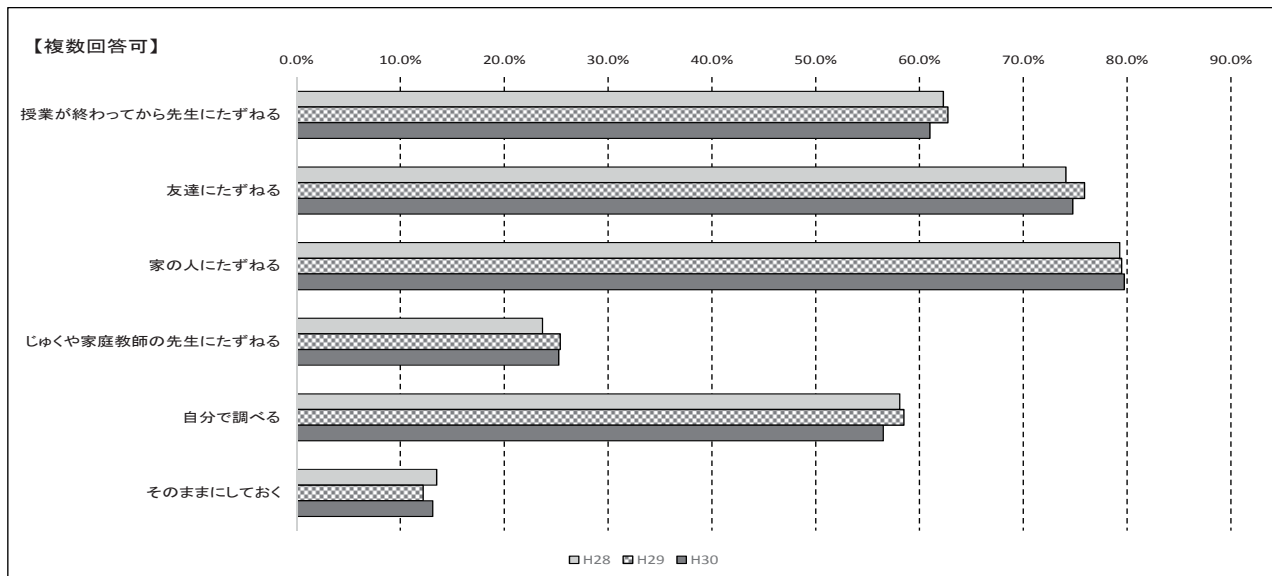
(3) 理由【問4】



○勉強する一番の理由として、「将来の仕事に役に立つから」、「生活するのに役に立つから」を合わせると64.8%で、6割を超えている。

○「わかると楽しいから」と回答した児童は18.6%で、29年度より2.9ポイント低くなった。

(4) 相談相手【問24~29】

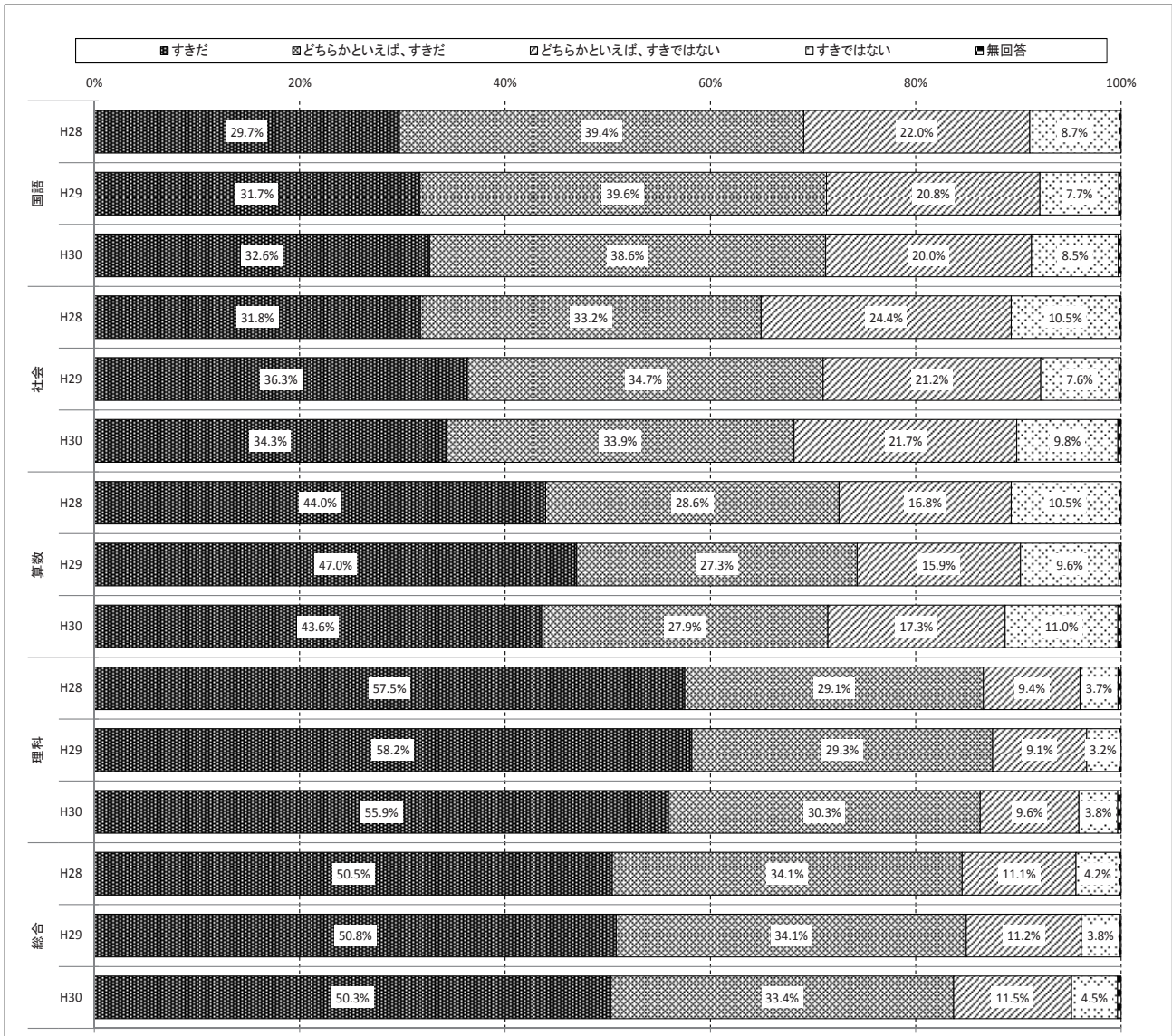


○「授業の中で、わからないことがあったときに相談する相手」として、「家の人」を選んでいる児童が79.7%と最も多く、「友達」の74.5%が続いている。

○「授業が終わってから先生にたずねる」「友達にたずねる」「じゅくや家庭教師の先生にたずねる」は29年度から微減した。「自分で調べる」は29年度より2.0ポイント減少した。

3 各教科等に対する意識

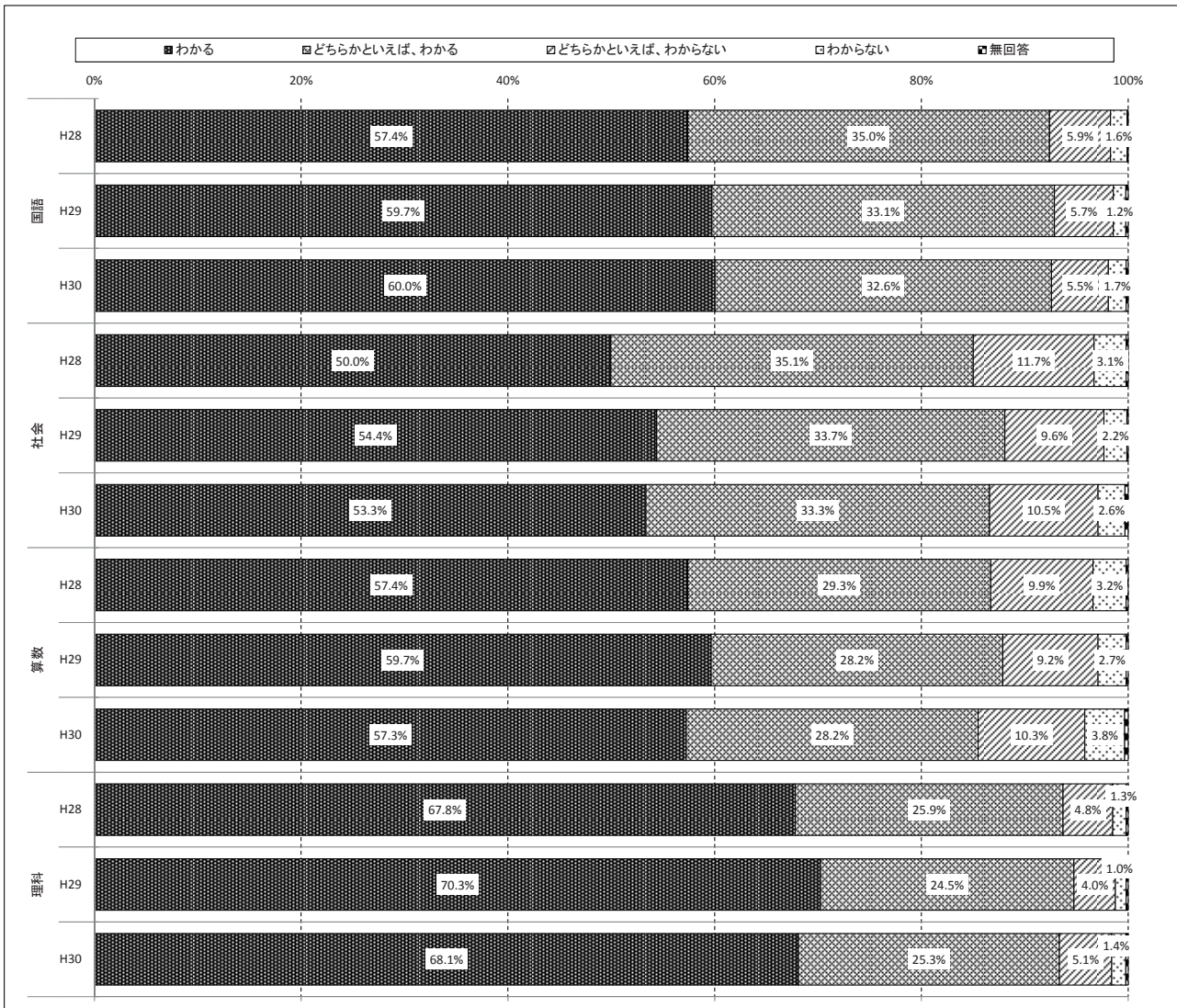
(1) 好感度【問5～9】



- 「好きだ」と「どちらかといえば、好きだ」と回答した児童は、「国語」71.2%、「社会」68.2%、「算数」71.5%、「理科」86.2%、「総合的な学習の時間」83.7%である。「国語」は28年度との比較では2.1ポイント増加している。「社会」は29年度より2.8ポイント減少、「算数」は2.8ポイント減少、「総合的な学習の時間」は1.2ポイント減少した。
- 「好きだ」と回答した児童は、「国語」32.6%、「社会」34.3%、「算数」43.6%、「理科」55.9%、「総合的な学習の時間」50.3%である。「国語」は3年連続で増加しており、28年度からの経年比較では2.9%増加。「社会」「算数」「理科」は29年度よりそれぞれ2.0ポイント、3.4ポイント、2.3ポイント減少した。「総合的な学習の時間」は3年連続同程度の結果である。

II 調査結果の概要

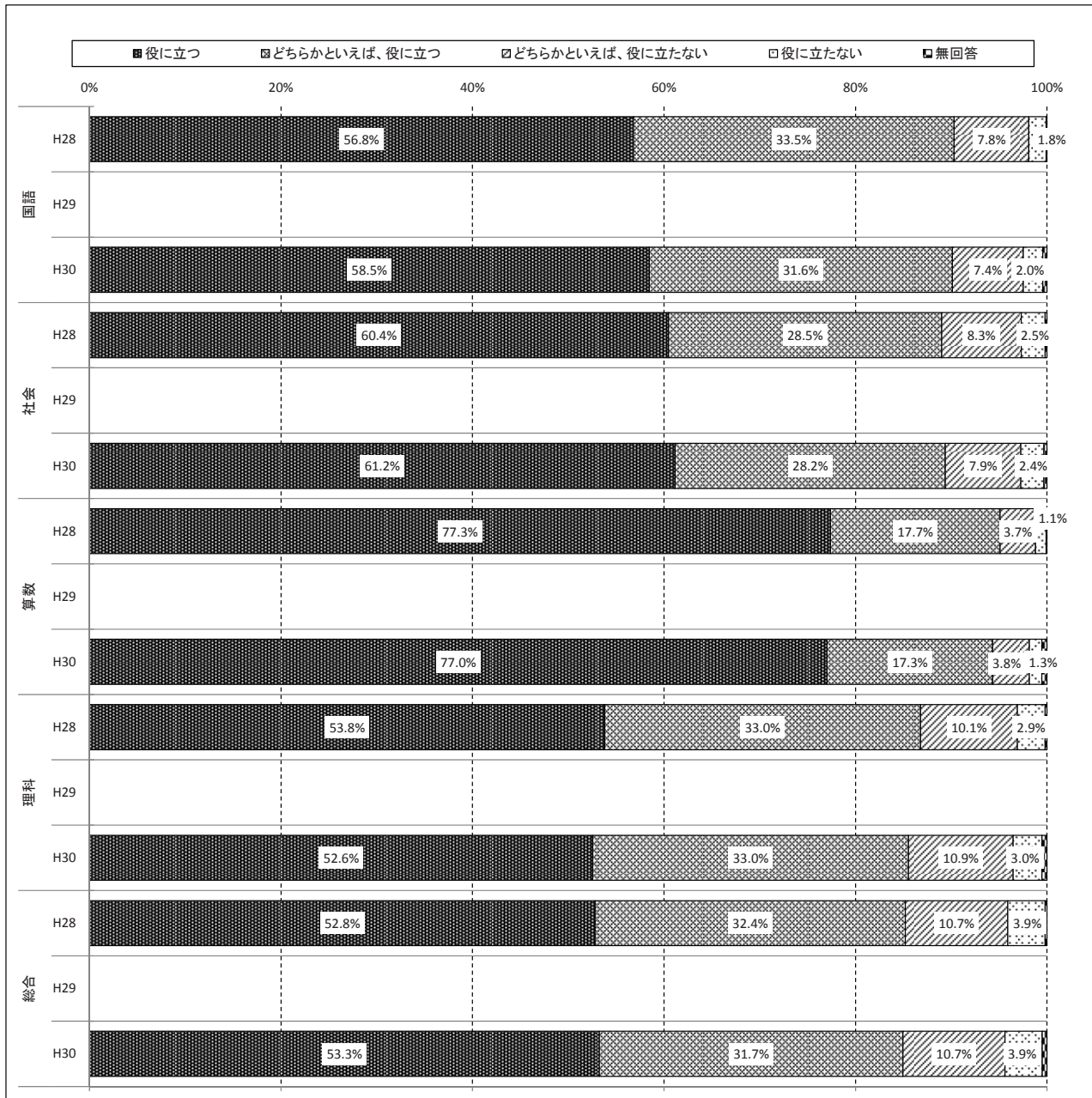
(2) 理解度【問 10～13】



○「わかる」と「どちらかといえば、わかる」と回答した児童は、「国語」92.6%、「社会」86.6%、「算数」85.5%、「理科」93.4%である。29年度とくらべて「社会」は1.5ポイント、「算数」は2.4ポイント、「理科」は1.4ポイントそれぞれ減少した。「国語」は3年連続して92%台を推移している。

○「わかる」と回答した児童は、「国語」60.0%、「社会」53.3%、「算数」57.3%、「理科」68.1%である。29年度にくらべて「社会」は1.1ポイント、「算数」は2.4ポイント、「理科」は2.2ポイントそれぞれ減少した。「国語」は29年度より微増し、28年度からの経年比較では2.6ポイント増加している。

(3) 生活の中での有用感【問 14~18】

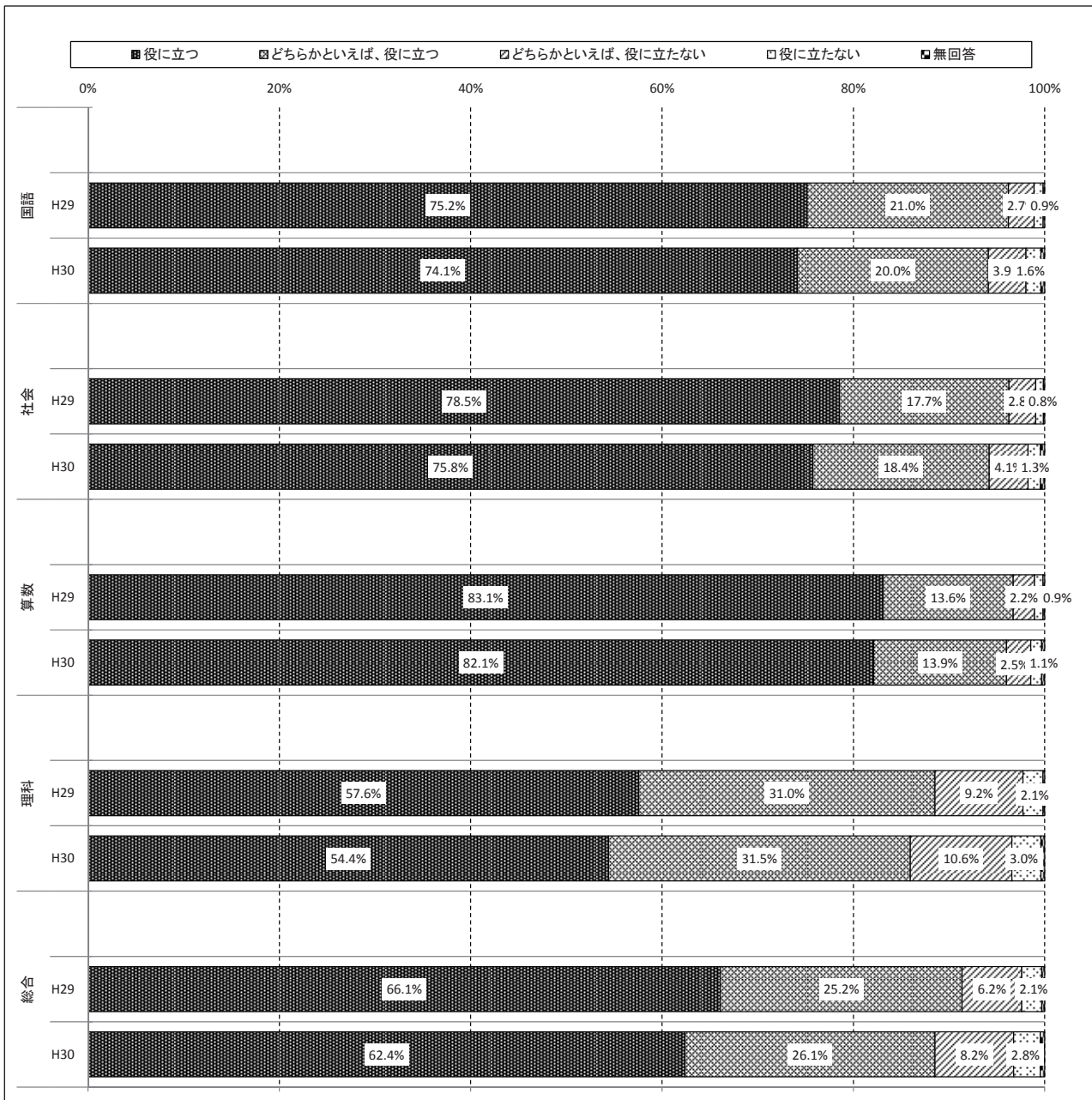


○今年度、「授業で学んだことは、生活の中で役に立っていると思いますか」という質問項目を復活させた。29年度に質問内容を変更していたため、28年度と比較する。

○「役に立つ」と「どちらかといえば、役に立つ」と回答した児童は、「国語」90.1%、「社会」89.4%、「算数」94.3%、「理科」85.6%、「総合的な学習の時間」85.0%である。28年度にくらべて「社会」は0.5ポイント増加したが、「国語」は0.2ポイント、「算数」は0.7ポイント、「理科」は1.2ポイント、「総合的な学習の時間」は0.2ポイントそれぞれ減少した。

○「役に立つ」と回答した児童は、「国語」58.5%、「社会」61.2%、「算数」77.0%、「理科」52.6%、「総合的な学習の時間」53.3%である。28年度にくらべて「国語」は1.7ポイント、「社会」は0.8ポイント、「総合的な学習の時間」は0.5ポイントそれぞれ増加しているが、「算数」は0.3ポイント、「理科」は1.2ポイントそれぞれ減少した。

(4) 将来における有用感【問 19～23】



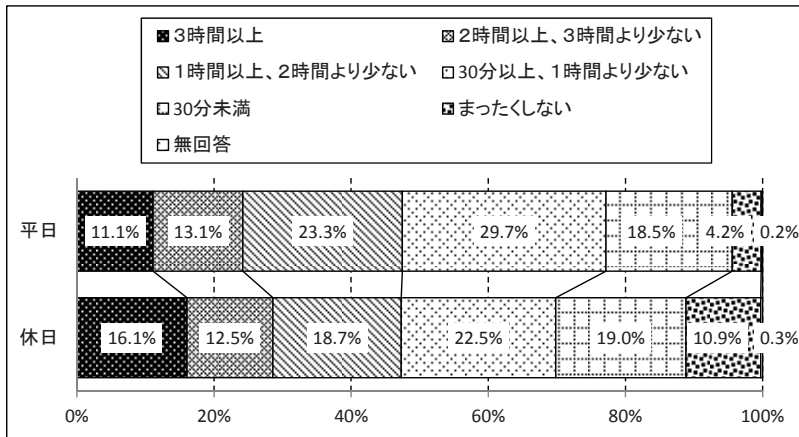
○29年度より「授業で学んだことは、将来、社会に出たときに、役に立つと思いますか」の質問項目を入れたので、29年度と今年度と比較する。

○「役に立つ」と「どちらかといえば、役に立つ」と回答した児童は、「国語」94.1%、「社会」94.2%、「算数」96.0%、「理科」85.9%、「総合的な学習の時間」88.5%である。29年度にくらべて「国語」は2.1ポイント、「社会」は2.0ポイント、「算数」は0.7ポイント、「理科」は2.7ポイント、「総合的な学習の時間」は2.8ポイントそれぞれ減少した。

○「役に立つ」と回答した児童は、「国語」74.1%、「社会」75.8%、「算数」82.1%、「理科」54.4%、「総合的な学習の時間」62.4%である。29年度にくらべて「国語」は1.1ポイント、「社会」は2.7ポイント、「算数」は1.0ポイント、「理科」は3.2ポイント、「総合的な学習の時間」は3.7ポイントそれぞれ減少した。

4 家庭学習の実態

(1) 学習時間【問 30～31】

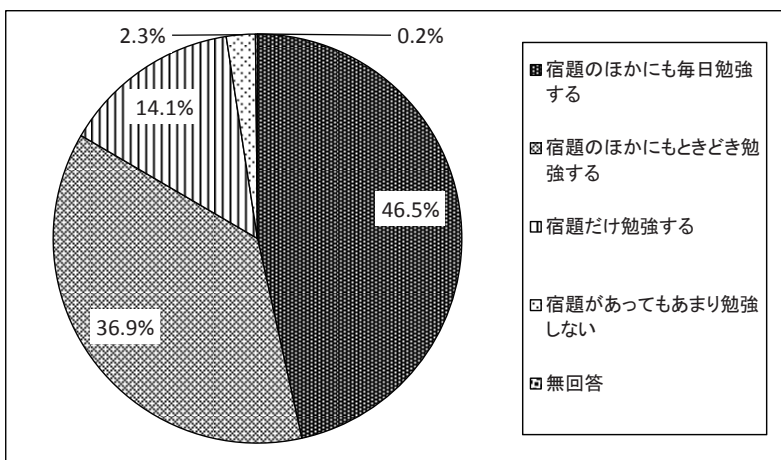


○平日は「30分以上、1時間より少ない」が29.7%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が23.3%となっている。休日は「30分以上、1時間より少ない」が22.5%でもっとも多く、次いで「30分未満」が19.0%となっている。

○「3時間以上」は平日が11.1%だが、休日は16.1%となっている。

○学習時間が1時間以上の層は平日が47.5%、休日は47.3%となっている。

(2) 学習内容【問 32】



○「宿題のほかに毎日勉強する」が46.5%で最も多く、「宿題のほかにときどき勉強する」が36.9%で続いている。

○「宿題があってもあまり勉強しない」と回答した児童は2.3%である。

(3) 通塾【問 33】

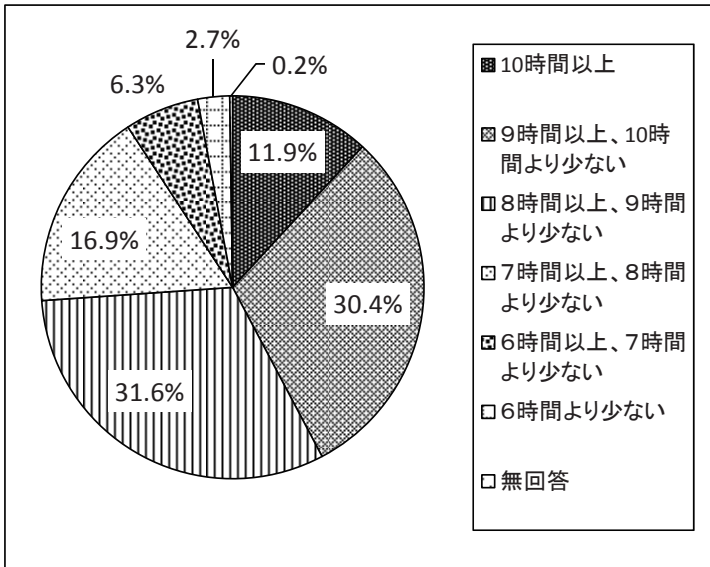
	通っている	通っていない	無回答
H28	53.2	46.6	0.2
H29	53.6	46.2	0.2
H30	55.7	44.0	0.2

(%)

○学習塾に通っている児童は55.7%で、29年度と比較すると、2.1ポイント高くなっている。

5 家庭生活の実態

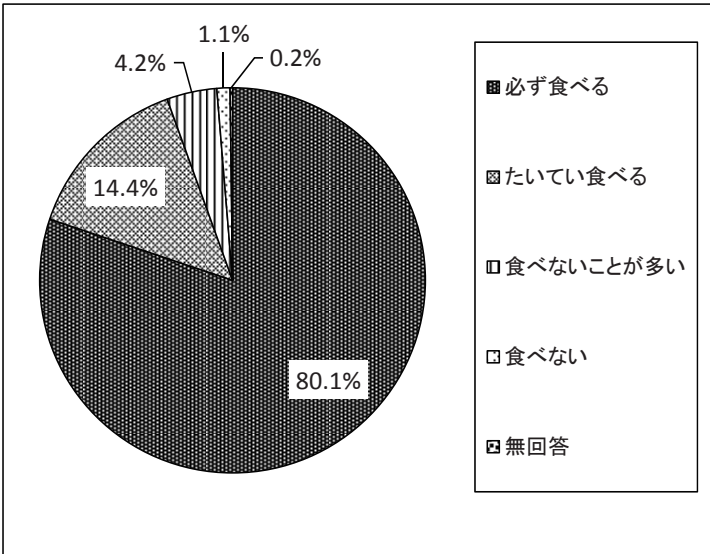
(1) 睡眠時間【問 34】



○「9時間以上、10時間より少ない」(30.4%)、「8時間以上、9時間より少ない」(31.6%)という回答が多く、約6割強の児童は睡眠時間が「8～10時間」である。

○睡眠時間が7時間未満の児童の割合は9.0%である。

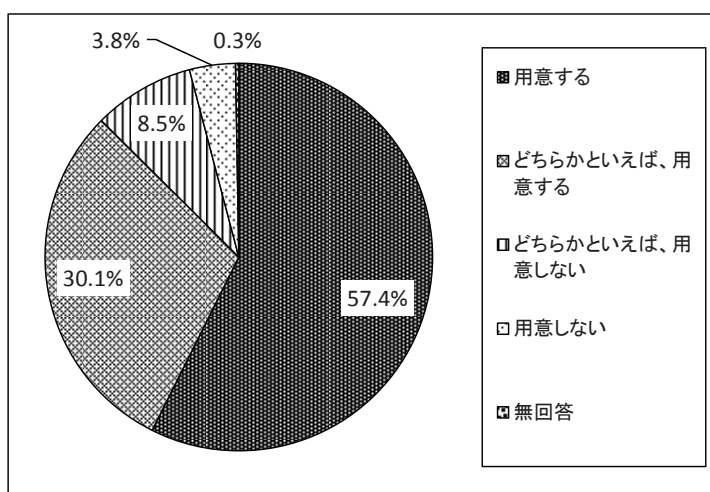
(2) 朝食の摂取【問 35】



○「必ず食べる」と回答している児童の割合は80.1%であり、「たいてい食べる」を合わせると、94.5%である。

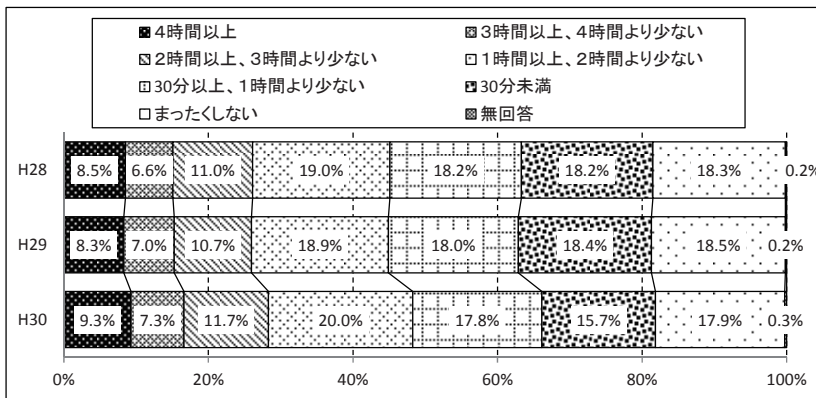
○「食べない」と回答した児童は1.1%である。

(3) 学習の準備【問 36】



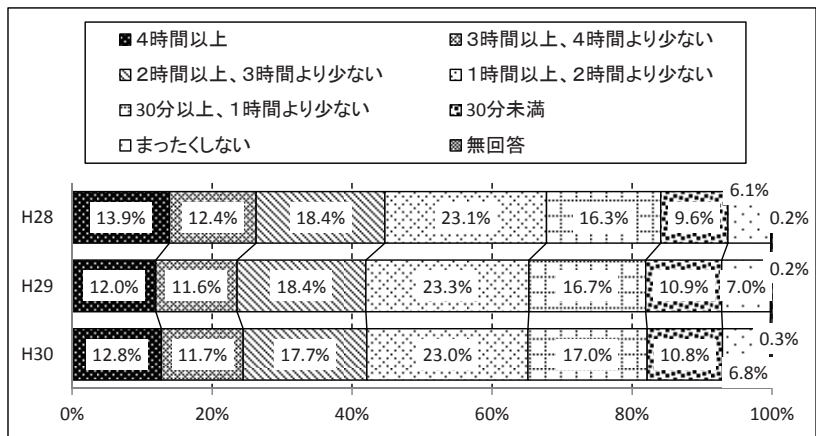
○学校に持って行くものを前日に「用意する」と回答した児童の割合は57.4%であり、「どちらかといえば、用意する」を合わせると、87.5%である。

(4) テレビゲームの実施時間【問 37】



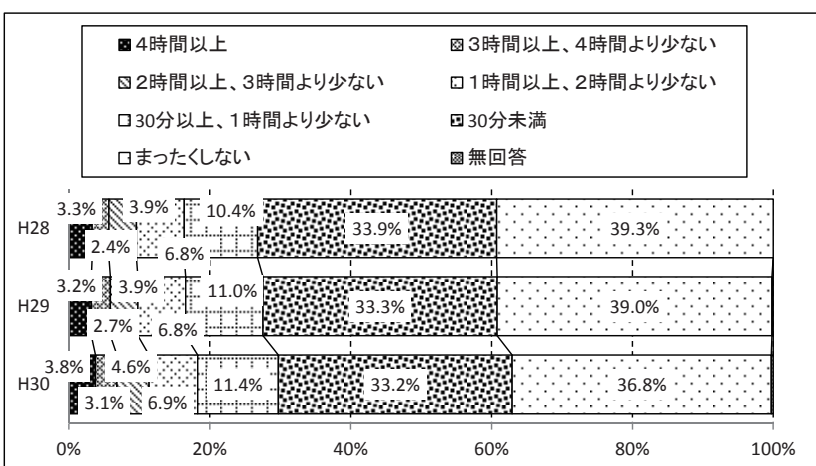
○実施時間が「1時間以上」の回答の合計は、48.3%である。
○「3時間以上」の回答の合計は、16.6%である。

(5) テレビやビデオ・DVDの視聴時間【問 38】



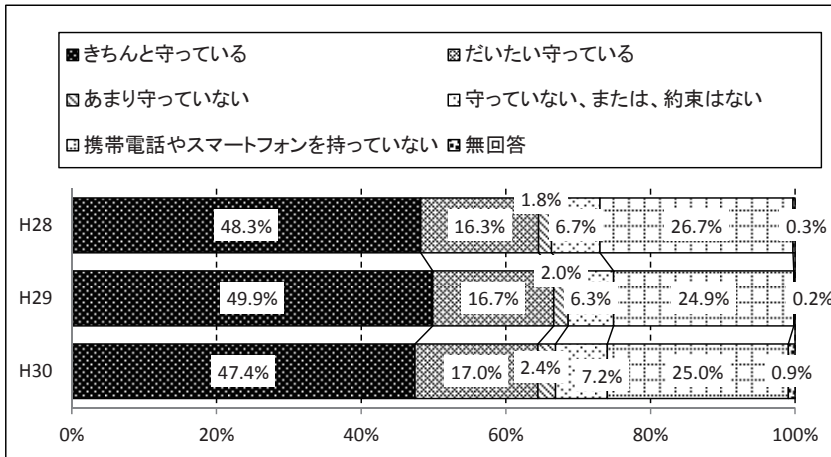
○視聴時間が「1時間以上」の回答の合計は、65.2%である。
○「3時間以上」の回答の合計は、24.5%である。

(6) 携帯電話やスマートフォンの使用時間【問 39】



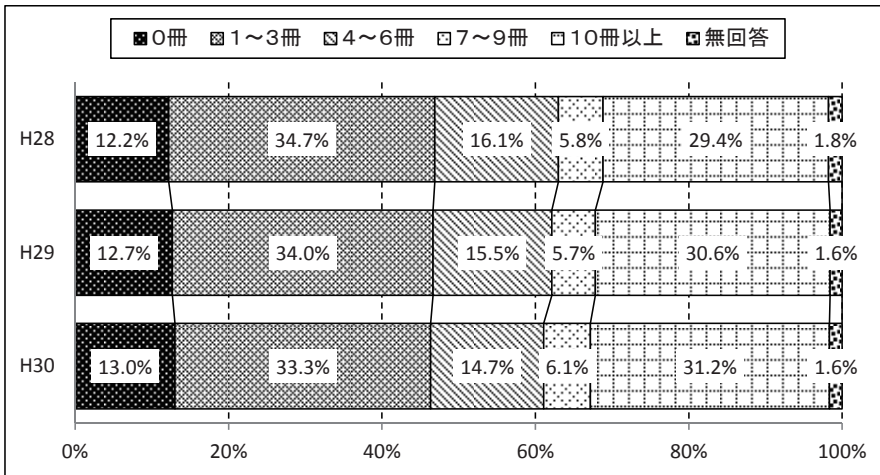
○使用時間が「1時間以上」の回答の合計は、18.4%である。
○「3時間以上」の回答の合計は、6.9%である。

(7) 携帯電話の使い方【問 40】



○携帯電話やスマートフォンを持っていない児童の割合は、25.0%である。
 ○「きちんと守っている」、「だいたい守っている」と回答した児童の割合は、64.4%である。

(8) 1ヶ月の読書量【問 41】

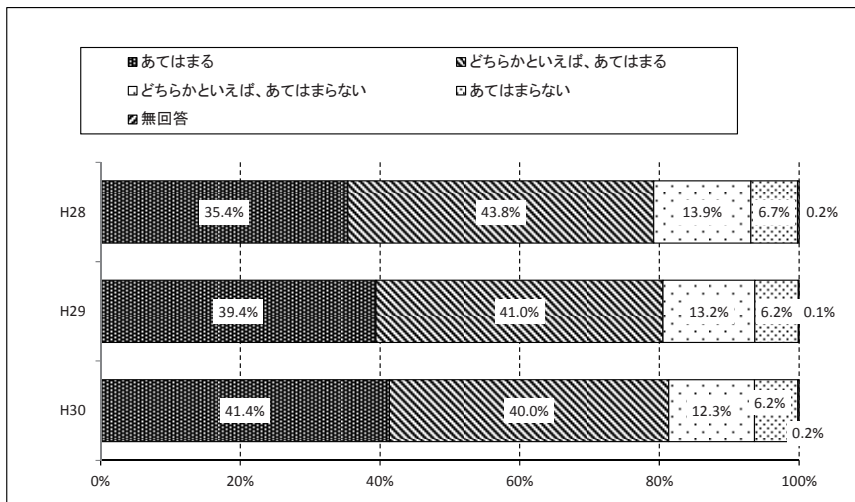


	平均冊数
H28	6.2冊
H29	6.2冊
H30	6.3冊

○「1~3冊」が33.3%で最も多く、「10冊以上」が31.2%、「4~6冊」が14.7%である。1冊も読まない児童の割合は13.0%である。
 ○29年度と比較すると、「10冊以上」は0.6ポイント増加しているが、「0冊」も0.3ポイント増加している。平均冊数は0.1ポイント増加した。

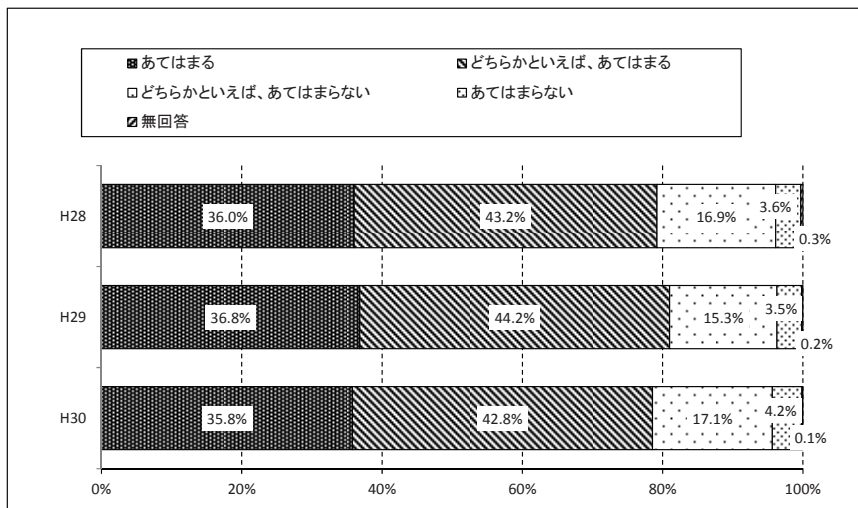
6 自尊意識・将来に関する意識等

(1) 自分にはよいところがあると思う【問 42】



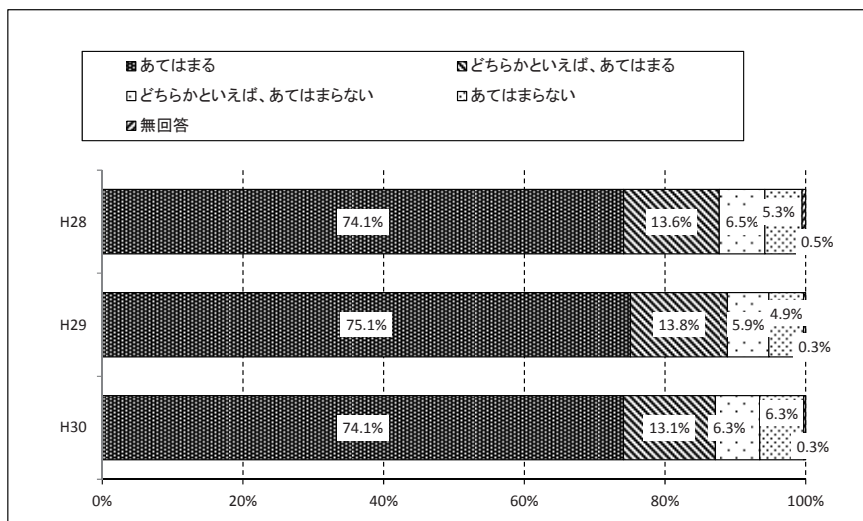
○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した児童の割合は、81.4%である。

(2) 失敗を恐れなくて挑戦している【問 43】



○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した児童の割合は、78.6%である。

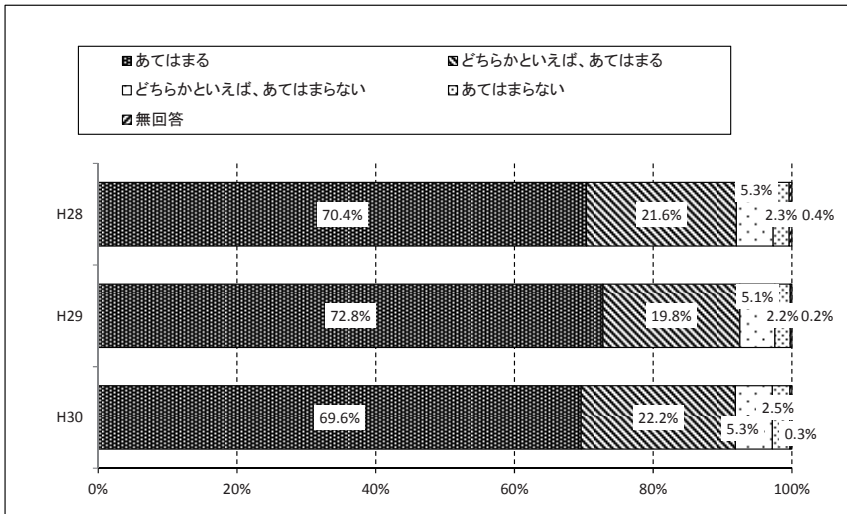
(3) 将来の夢や目標を持っている【問 44】



○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した児童の割合は、87.2%である。

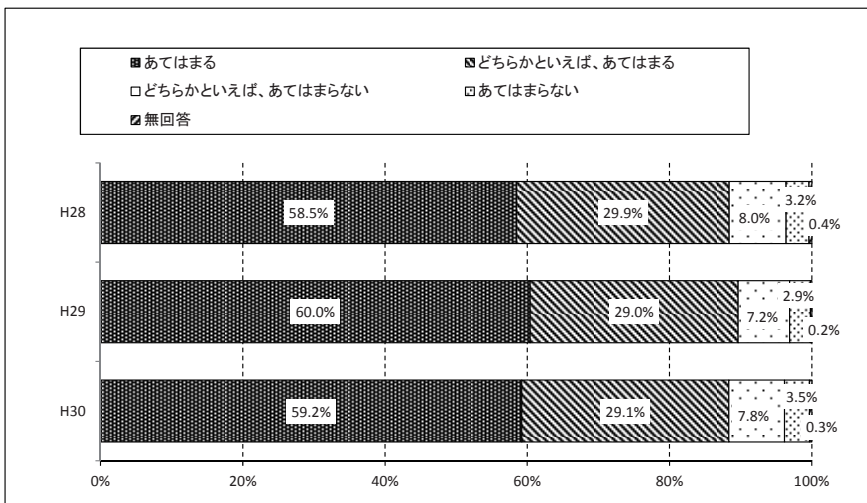
II 調査結果の概要

(4) 自分の町が好き【問 45】



○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した児童の割合は、91.8%である。

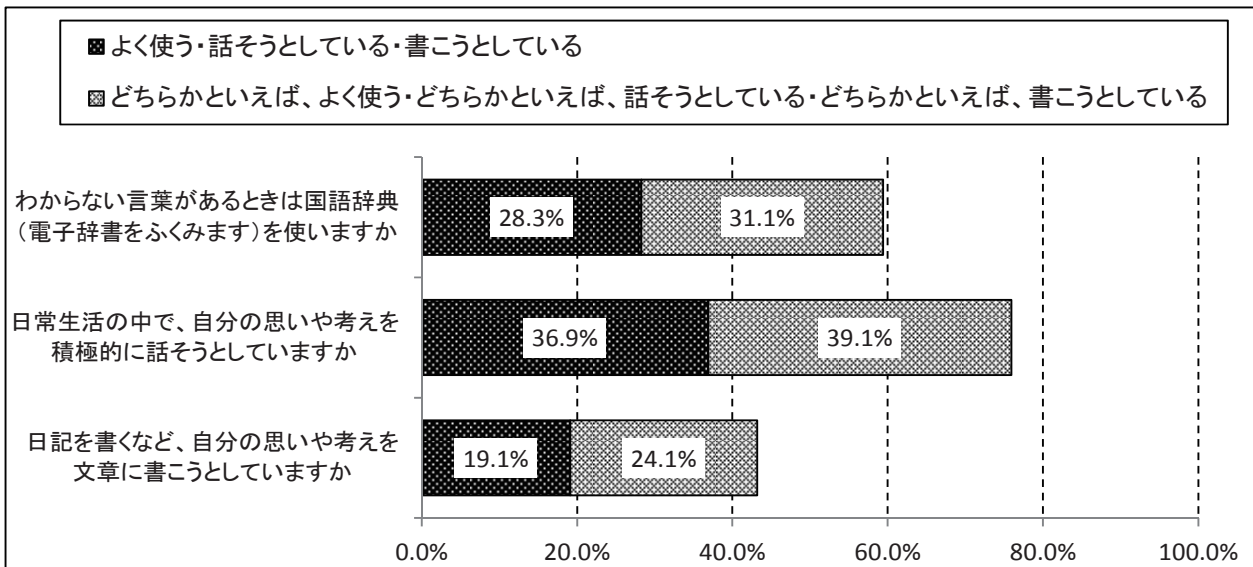
(5) 友達と協力して活動する【問 46】



○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した児童の割合は、88.3%である。

7 各教科等に対する意識・実態

(1) 国語【問 47～49】

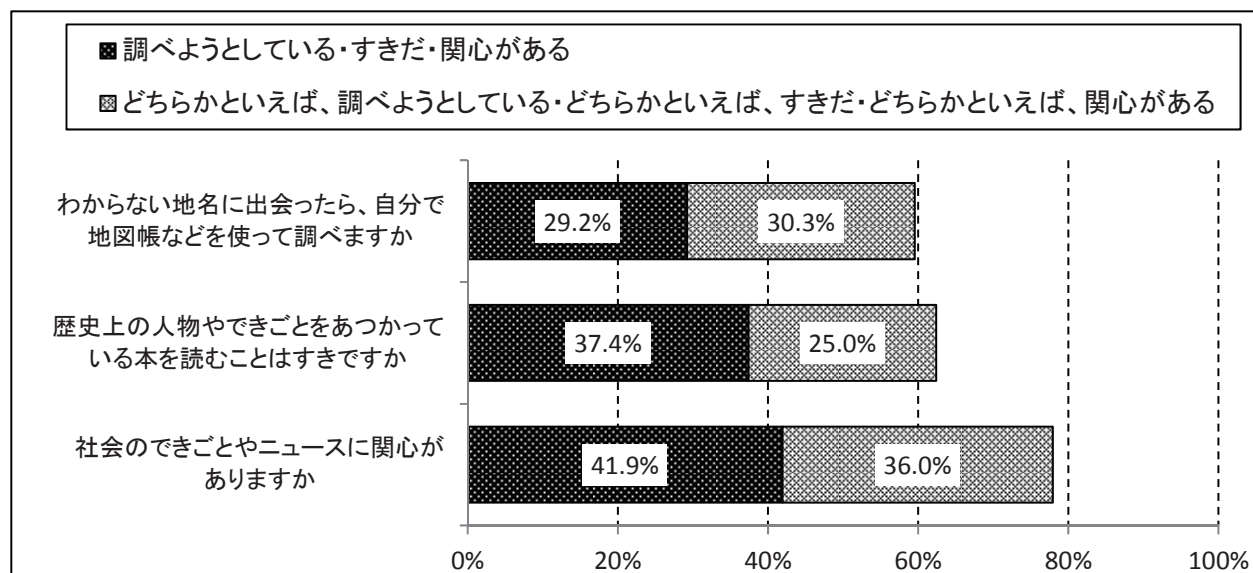


○国語辞典を使う児童は、「どちらかといえば」を含めると、59.4%である。

○自分の思いや考えを積極的に話そうとしている児童は、「どちらかといえば」を含めると、76.0%である。

○自分の思いや考えを文章に書こうとしている児童は、「どちらかといえば」を含めると、43.2%である。

(2) 社会【問 50～52】

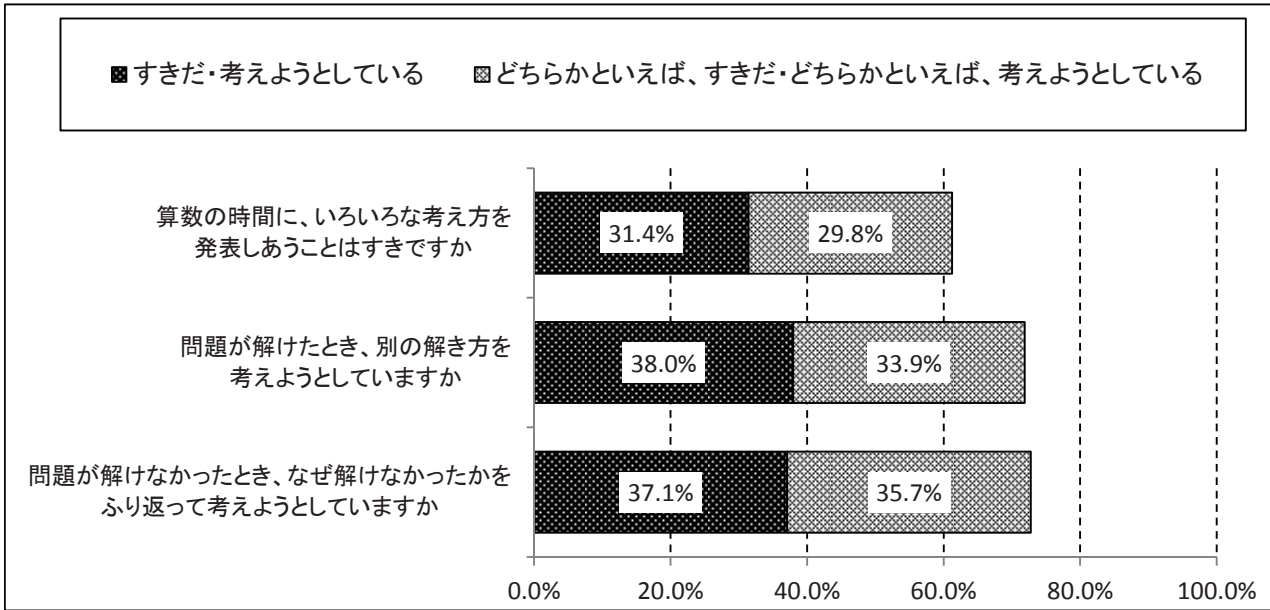


○自分で地図帳などを使って地名を調べる児童は、「どちらかといえば」を含めると、59.5%である。

○歴史に関する本を読むことが好きな児童は、「どちらかといえば」を含めると、62.4%である。

○社会事象やニュースに関心がある児童は、「どちらかといえば」を含めると、77.9%である。

(3) 算数【問 53～55】

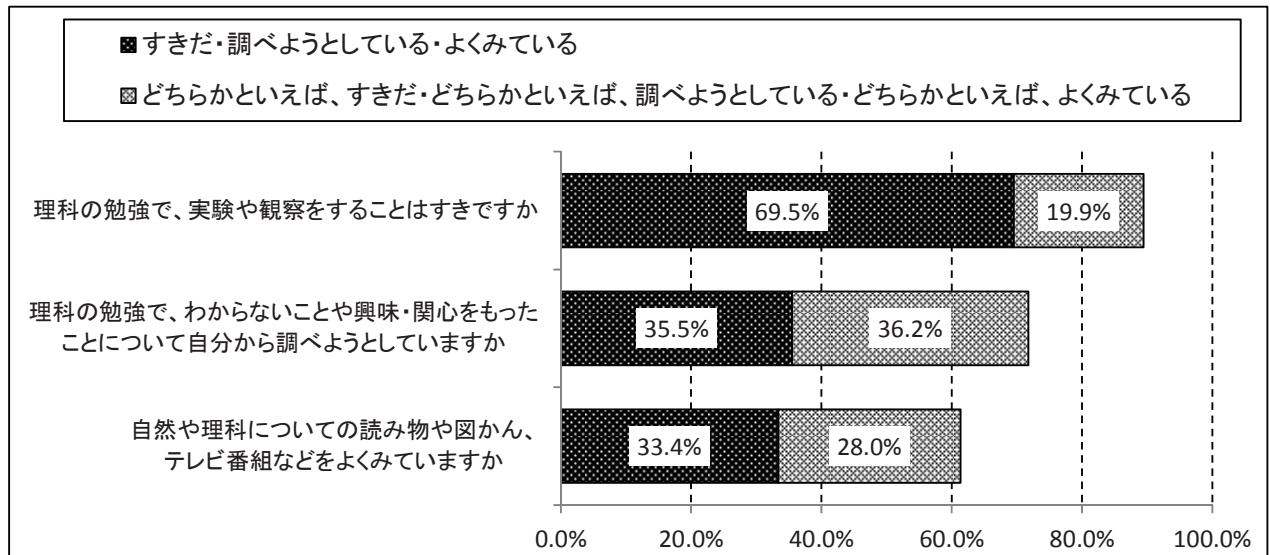


○いろいろな考え方を発表しあうことが好きな児童は、「どちらかといえば」を含めると、61.2%である。

○別の解き方を考えようとしている児童は、「どちらかといえば」を含めると、71.9%である。

○なぜ解けなかったかをふり返って考えようとしている児童は、72.8%である。

(4) 理科【問 56～58】

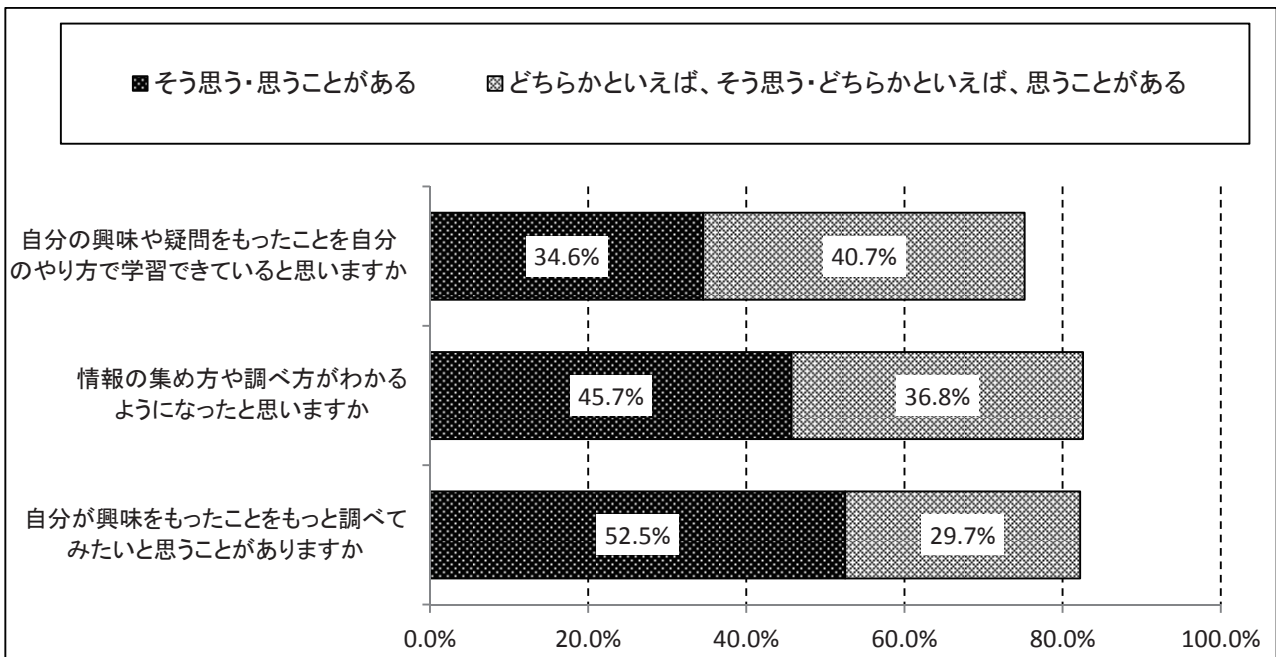


○実験や観察をすることが好きな児童は、「どちらかといえば」を含めると、89.4%である。

○わからないことや興味・関心をもったことについて自分から調べようとする児童は、「どちらかといえば」を含めると、71.7%である。

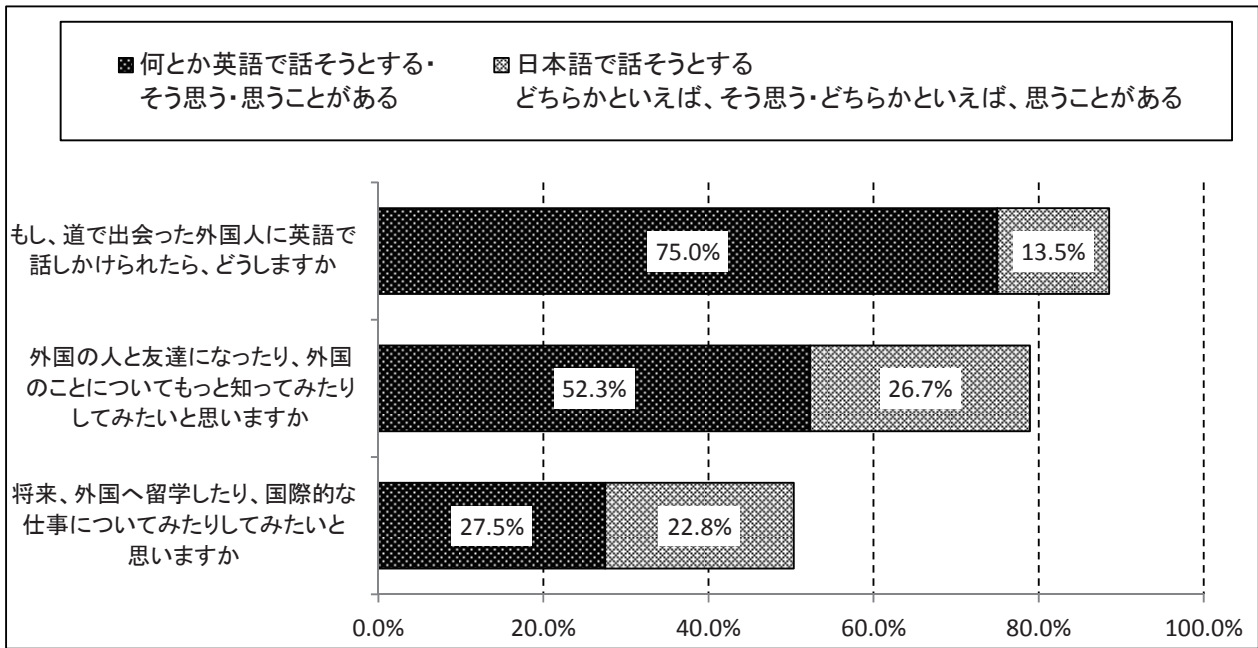
○自然や理科に関する読み物や図鑑、テレビ番組などをよくみている児童は、「どちらかといえば」を含めると、61.4%である。

(5) 総合的な学習の時間【問 59~61】



- 自分の興味や疑問をもったことを自分のやり方で学習できていると思う児童は、「どちらかといえば」を含めると、75.3%である。
- 情報の集め方や調べ方がわかるようになったと思う児童は、「どちらかといえば」を含めると、82.5%である。
- 自分が興味をもったことをもっと調べてみたいと思う児童は、「どちらかといえば」を含めると、82.2%である。

(6) 外国語活動、外国語【問 62～64】



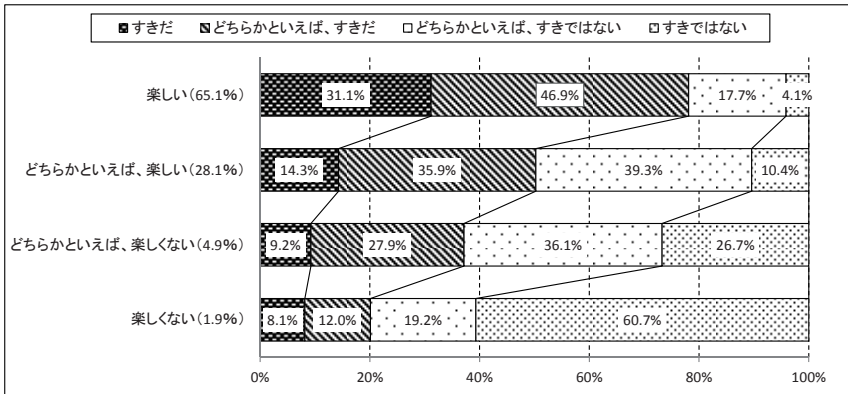
○外国人に話しかけられたら、「何とか英語で話そうとする」児童は 75.0%、「日本語で話そうとする」児童は 13.5%で、外国人と話そうとする児童は合わせて 88.5%である。

○外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ってみたりしてみたいという児童は、「どちらかといえば」を含めると、79.0%である。

○将来、外国へ留学したり、国際的な仕事についてみたりしてみたいと思う児童は、「どちらかといえば」を含めると、50.3%である。

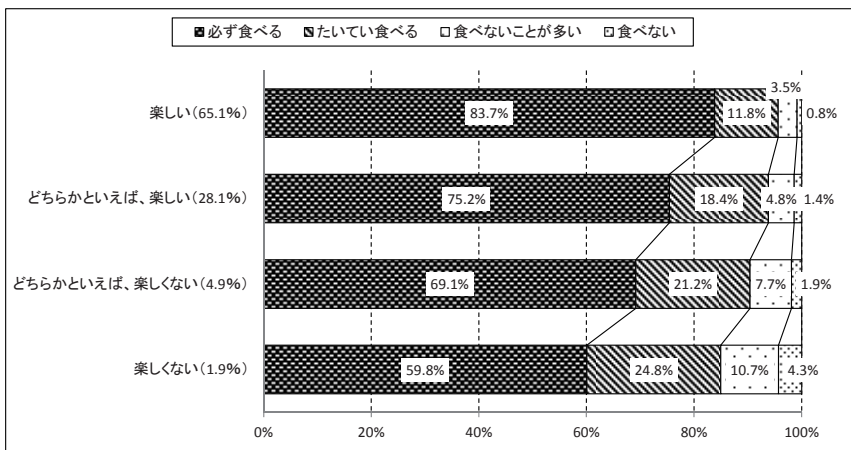
クロス集計

1 学校生活の楽しさ【問1】×学習に対する好感度【問2】



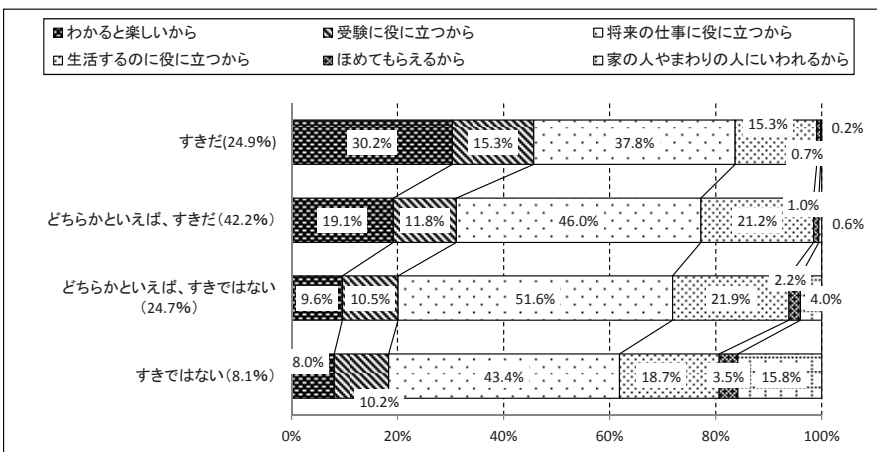
○学校生活が楽しい児童ほど、学習に対する好感度が高い傾向がある。
 ○学校生活は「楽しくない」と回答した児童の79.9%、「どちらかといえば、楽しくない」と回答した児童の62.8%が勉強は「好きではない」、「どちらかといえば、好きではない」と答えている。

2 学校生活の楽しさ【問1】×朝食の摂取【問35】



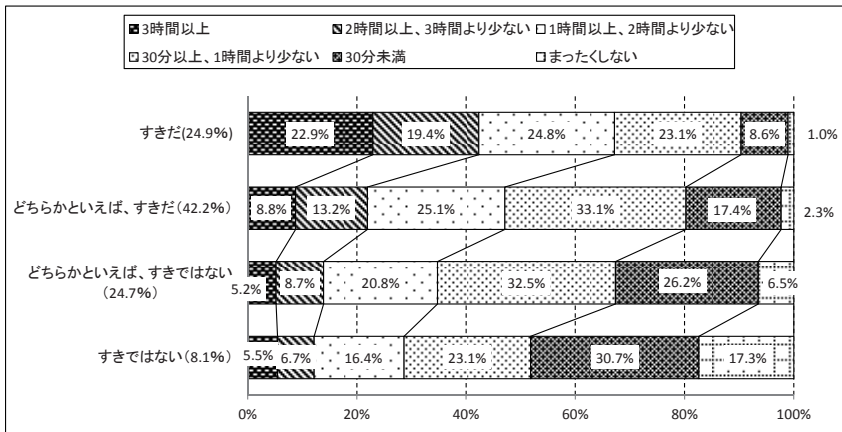
○学校生活が楽しい児童は、朝食の摂取状況が良好な状況にある。
 ○学校生活は「楽しくない」と回答した児童の朝食を必ず食べる割合は、「楽しい」と答えた児童の朝食を必ず食べる割合よりも23.9ポイント低い。

3 学習に対する好感度【問2】×勉強する理由【問4】



○好感度が高い児童ほど、「わかると楽しいから」と回答する割合が多い。
 「好きだ」と回答した児童と「好きではない」と答えた児童では22.2ポイントの差がある。
 ○「好きではない」と回答した児童の15.8%が勉強する理由として、「家の人やまわりの人にいわれるから」を選んでおり、他と比べて多い。

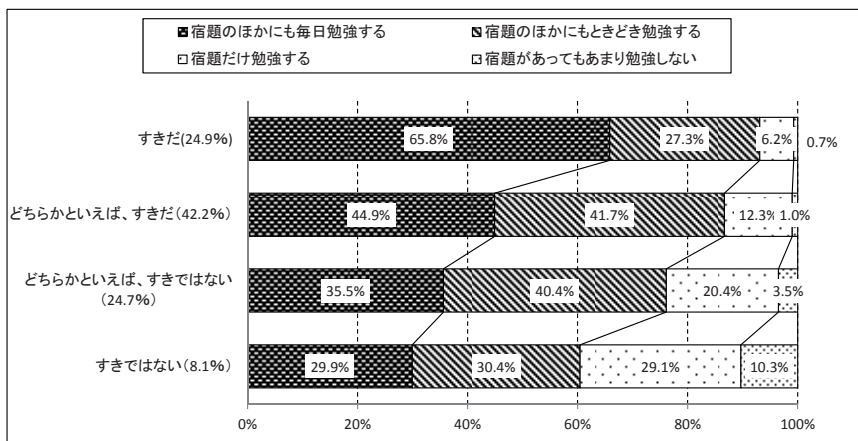
4 学習に対する好感度【問2】×家庭学習時間（平日）【問30】



○好感度が高い児童ほど、平日の家庭学習時間が長い傾向にある。

○勉強が「好きではない」と回答した児童で30分以上の家庭学習を行っているのは51.7%である。

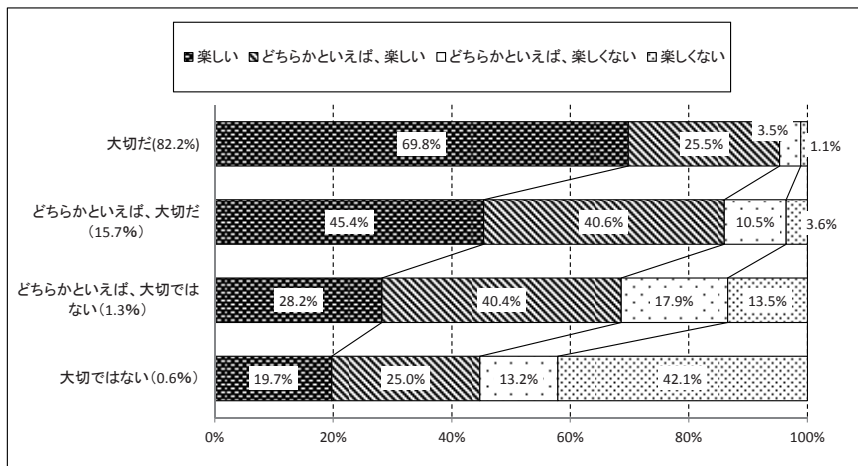
5 学習に対する好感度【問2】×家庭学習の内容【問32】



○勉強が「好きだ」と回答した児童の65.8%は「宿題のほかに毎日勉強する」と回答している。

○「好きではない」と回答した児童の60.3%が宿題のほかに勉強をしている。

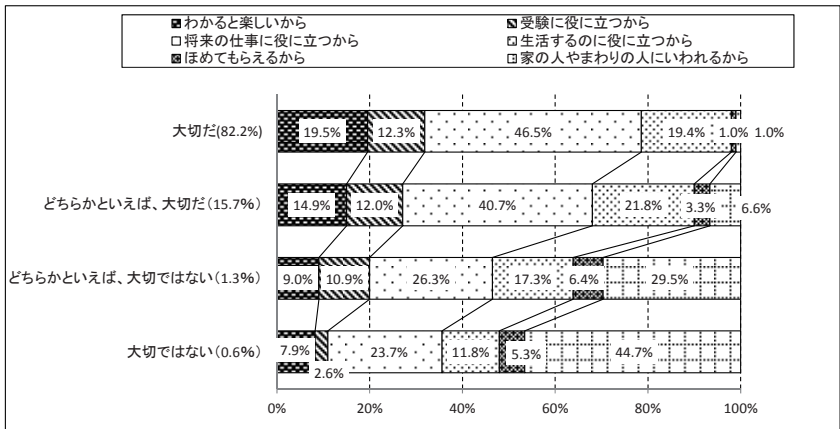
6 学習の必要性【問3】×学校生活の楽しさ【問1】



○学習に対する必要性を感じている児童ほど、学校生活を楽しいと感じている傾向がある。

○勉強が「大切ではない」と回答した児童のうち、55.3%は学校生活が「楽しくない」、「どちらかといえば、楽しくない」と回答している。

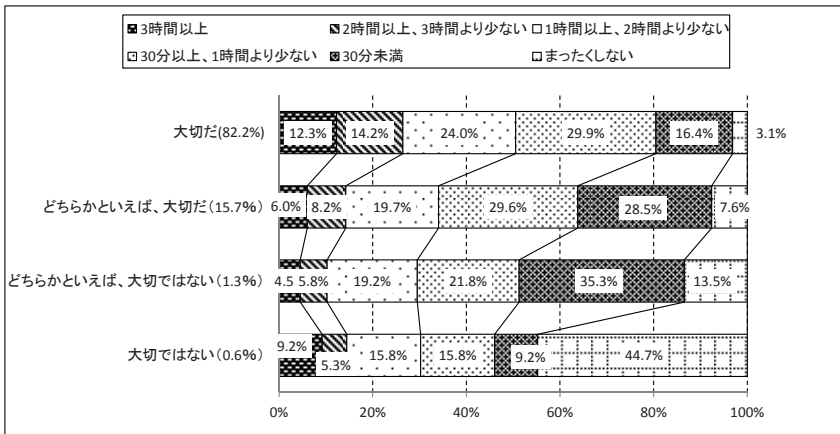
7 学習の必要性【問3】 × 勉強する理由【問4】



○学習に対する必要性を感じている児童ほど、「将来の仕事に役に立つから」や「わかると楽しいから」を勉強する理由に選んでいる割合が高い。

○学習が「大切ではない」と回答した児童のうち、44.7%が勉強する理由として「家の人やまわりの人にいわれるから」を選んでいる。

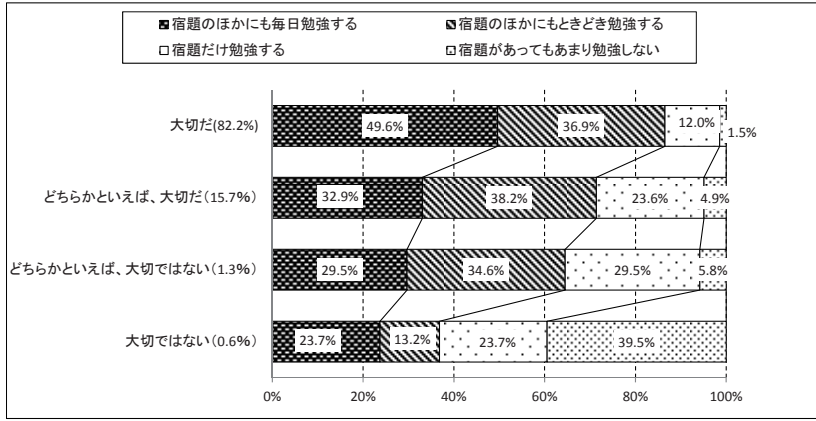
8 学習の必要性【問3】 × 家庭学習時間（平日）【問30】



○平日に家庭学習をしている割合は、学習に対する必要性を感じている児童ほど高い。

○勉強が「大切だ」、「どちらかといえば、大切だ」と回答した児童の家庭学習時間で一番多いのは、「30分以上、1時間より少ない」である。

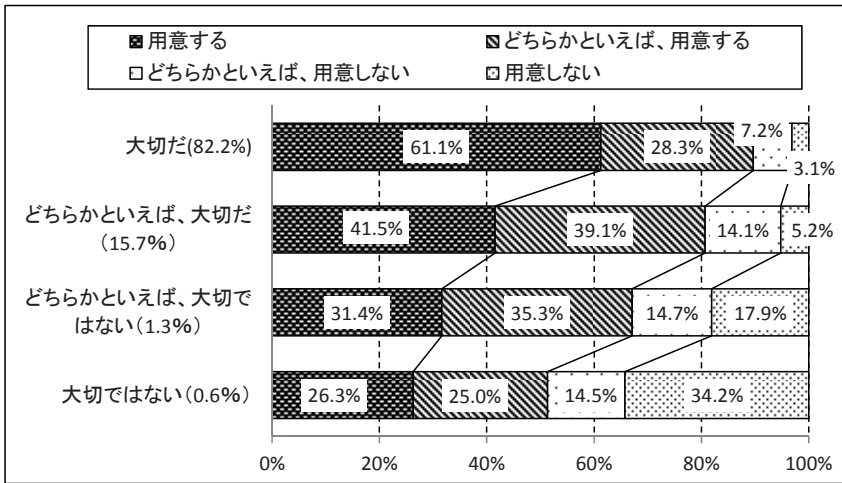
9 学習の必要性【問3】 × 家庭学習の内容【問32】



○勉強が「大切だ」と回答した児童のうち、86.5%が、宿題のほかにも毎日またはときどき勉強すると回答している。

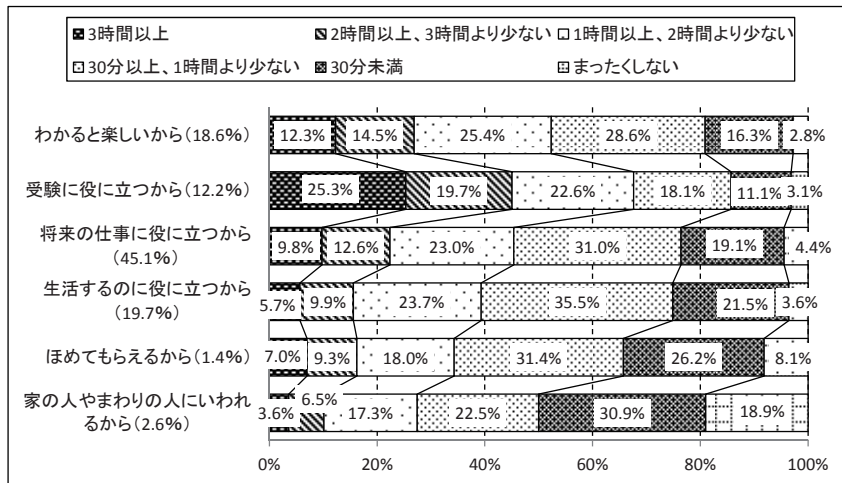
○勉強が「大切ではない」と回答した児童のうちの39.5%は「宿題があってもあまり勉強しない」と回答している。

10 学習の必要性【問3】×学習の準備【問36】



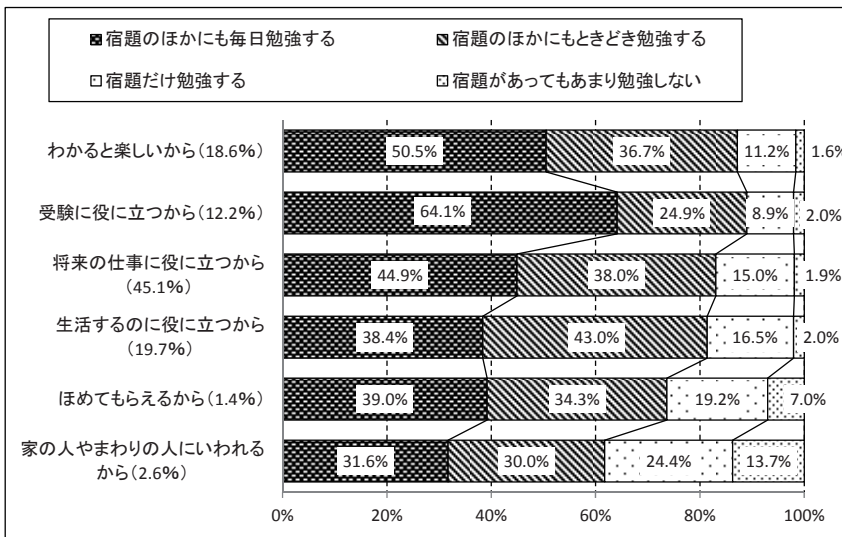
○学習に対する必要性を感じている児童ほど、前日に学校の持ち物を準備する傾向が見られる。
○勉強が「大切だ」と回答した児童の89.4%が、前日に学校の持ち物を「用意する」、「どちらかといえば、用意する」と回答している。

11 勉強する理由【問4】×家庭学習時間(平日)【問30】



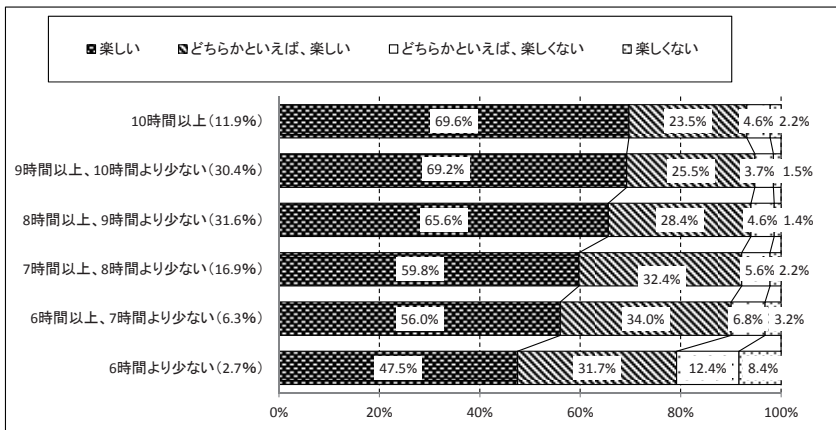
○勉強する理由として「受験に役に立つから」を選んだ児童は勉強時間が長い傾向がある。
○勉強する理由として「家の人やまわりの人にいわれるから」を選んだ児童の49.8%が、勉強を「30分未満」「まったくしない」と回答している。

12 勉強する理由【問4】×家庭学習の内容【問32】



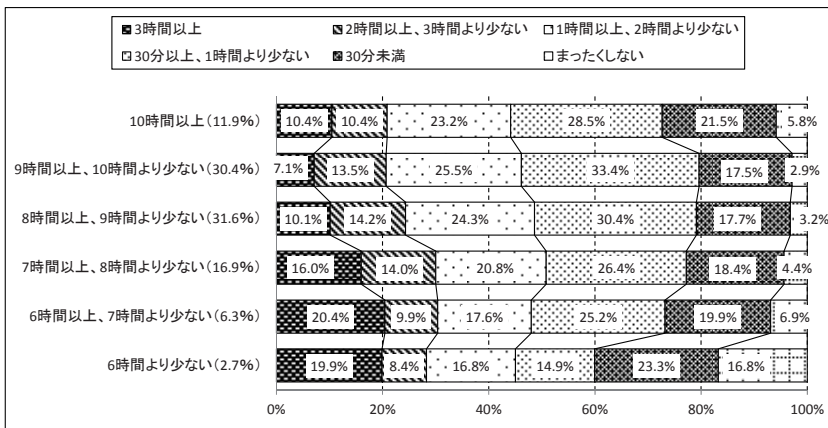
○「将来の仕事に役に立つから」、「生活するのに役に立つから」と回答した児童のうち、「宿題のほかに毎日勉強する」、「宿題のほかにときどき勉強する」と回答した児童はそれぞれ82.9%、81.4%である。
○「家の人やまわりの人にいわれるから」と回答した児童では、13.7%が「宿題があってもあまり勉強しない」と回答している。

13 睡眠時間【問 34】×学校生活の楽しさ【問 1】



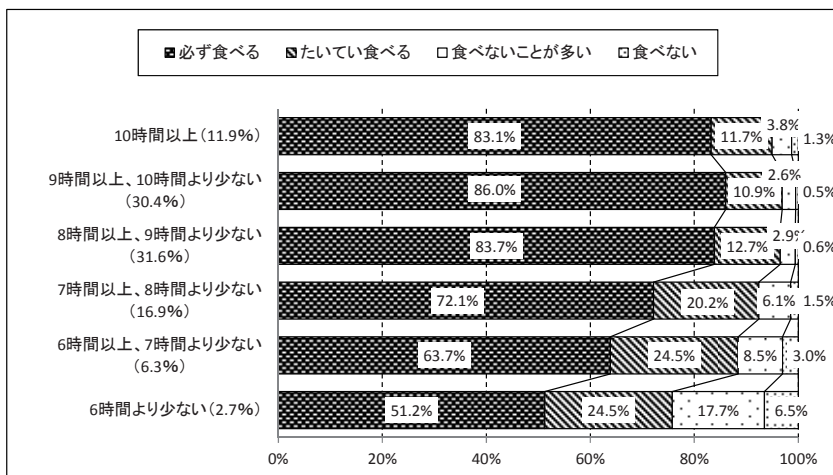
○睡眠時間が長い児童ほど、学校生活が「楽しい」と回答している。
 ○睡眠時間が「6時間より少ない」と回答した児童の20.8%が、学校生活は「楽しくない」、「どちらかといえば、楽しくない」と回答している。

14 睡眠時間【問 34】×家庭学習時間（平日）【問 30】



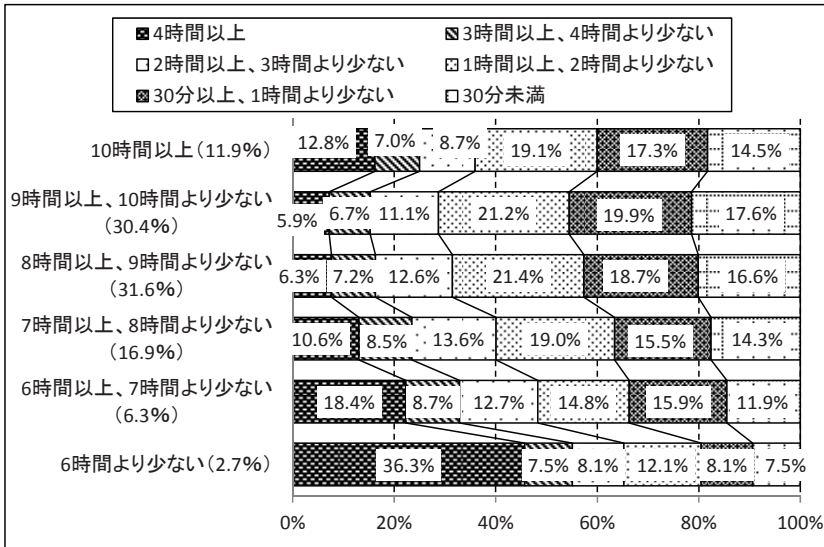
○睡眠時間が「7時間より少ない」と回答した児童の約20%が家庭での学習を「3時間以上」していると回答している。
 ○一方、睡眠時間が「6時間より少ない」と回答した児童の40.1%が家庭での学習を「30分未満」「まったくしない」と回答している。

15 睡眠時間【問 34】×朝食の摂取【問 35】



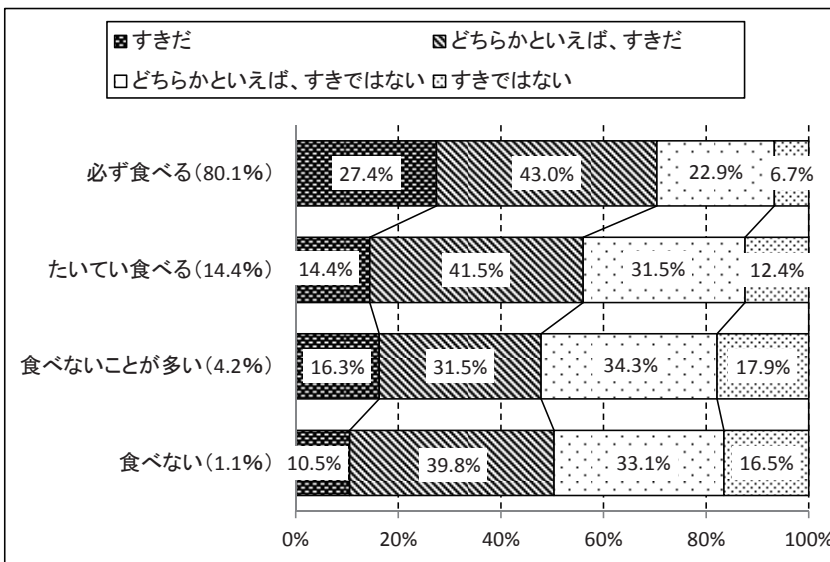
○睡眠時間が8時間以上で、朝食を「必ず食べる」と回答した児童の割合は80%を超えており、朝食の摂取状況が良好な傾向にある。
 ○睡眠時間が「6時間より少ない」と回答した児童のうち、朝食を「必ず食べる」と回答した児童は51.2%である。

16 睡眠時間【問 34】×テレビゲームの実施時間【問 37】



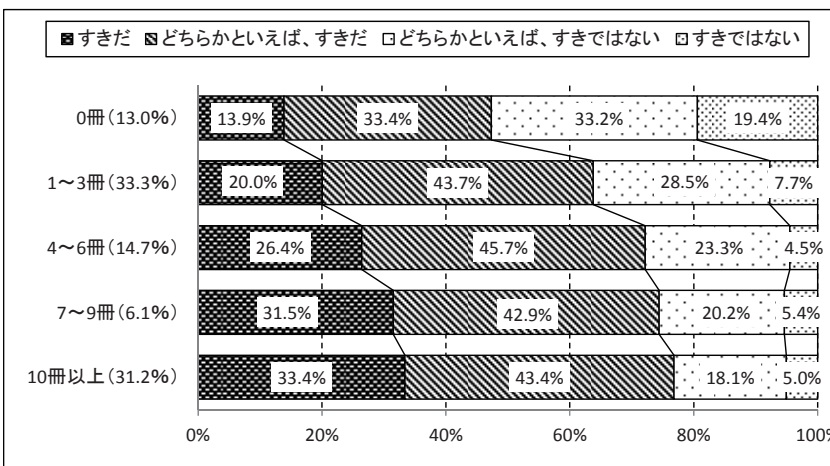
○睡眠時間が短いほど、テレビゲームの実施時間が「4時間以上」、「3時間以上、4時間より少ない」と回答した児童の割合が増え、「30分以上、1時間より少ない」「30分未満」と回答した児童の割合は減る傾向にある。

17 朝食の摂取【問 35】×学習に対する好感度【問 2】



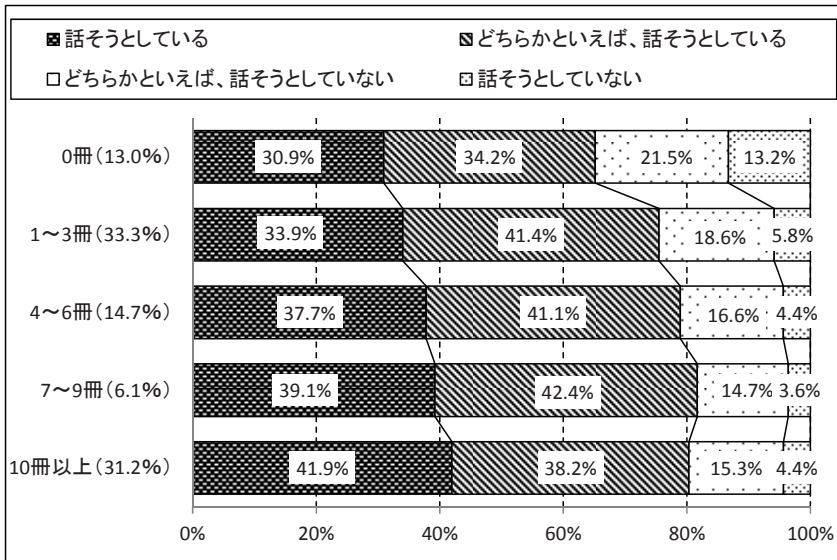
○朝食を「必ず食べる」と回答した児童のうち、勉強が「すきだ」、「どちらかといえば、すきだ」と回答した児童の割合は70.4%であるのに対して、「食べない」と回答した児童のうち、勉強が「すきだ」、「どちらかといえば、すきだ」と回答した児童の割合は50.3%である。

18 1ヶ月の読書量【問 41】×学習に対する好感度【問 2】



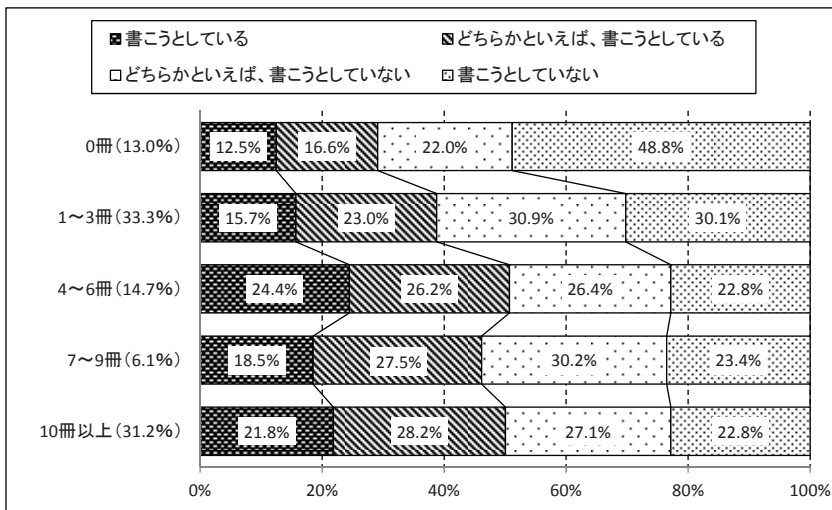
○1ヶ月の読書量が多いほど、勉強が「すきだ」と回答する傾向がある。
○1ヶ月の読書量が0冊と回答した児童のうち52.6%は勉強が「すきではない」、「どちらかといえば、すきではない」と回答している。

19 1ヶ月の読書量【問41】×思いや考えを話そうとする意欲【問48】



○1ヶ月に1冊も本を読まない児童のうち、34.7%が、自分の思いや考えを「話そうとしない」、「どちらかといえば、話そうとしない」と回答している。

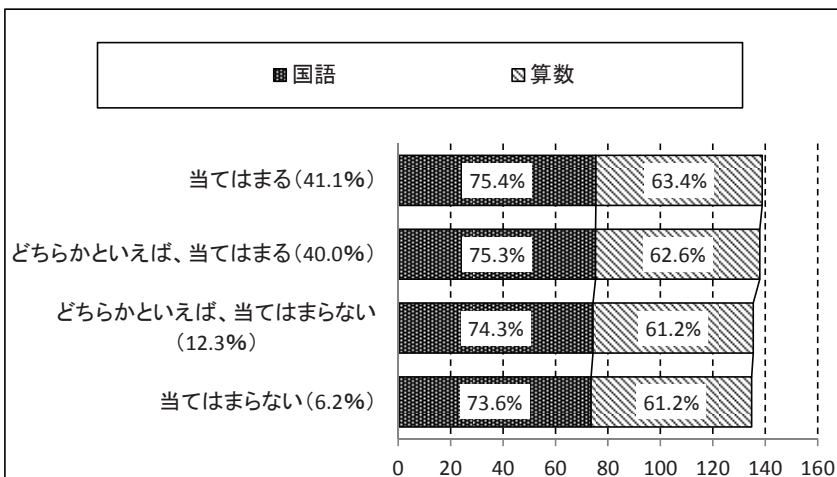
20 1ヶ月の読書量【問41】×思いや考えを書こうとする意欲【問49】



○1ヶ月の読書量が0冊、1~3冊、4~6冊になるほど、自分の思いや考えを文章に「書こうとしている」、「どちらかといえば、書こうとしている」と回答する児童の割合が高い。

○1ヶ月に1冊も本を読まない児童のうち、70.8%が自分の思いや考えを「書こうとしない」、「どちらかといえば、書こうとしない」と回答している。

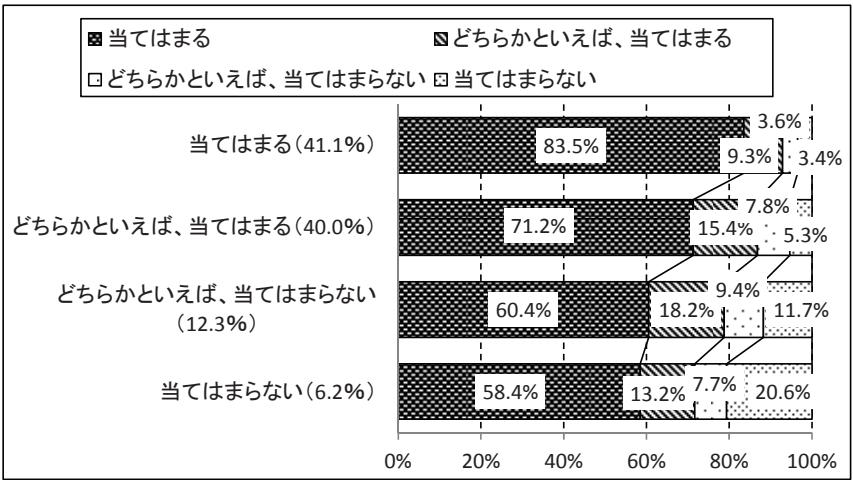
21 国語・算数の正答率×自尊心【問42】



○「自分にはよいところがある」の回答と国語・算数の正答率はほぼ同程度の結果である。

○「当てはまらない」と回答した児童の国語と算数の正答率は、それぞれ73.6%、61.2%である。

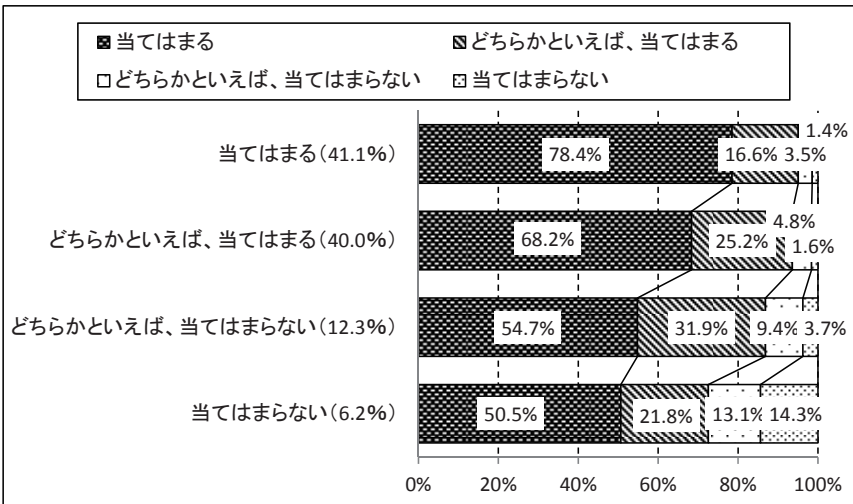
22 自尊意識【問 42】 × 将来の夢や目標【問 44】



○自尊意識が比較的強い児童ほど、将来の夢や目標を持っていると回答する傾向がある。

○「自分には、よいところがあると思わない」と回答した児童のうち、28.3%の児童は、将来の夢や希望を「持っていない」「どちらかといえば、持っていない」と回答している。

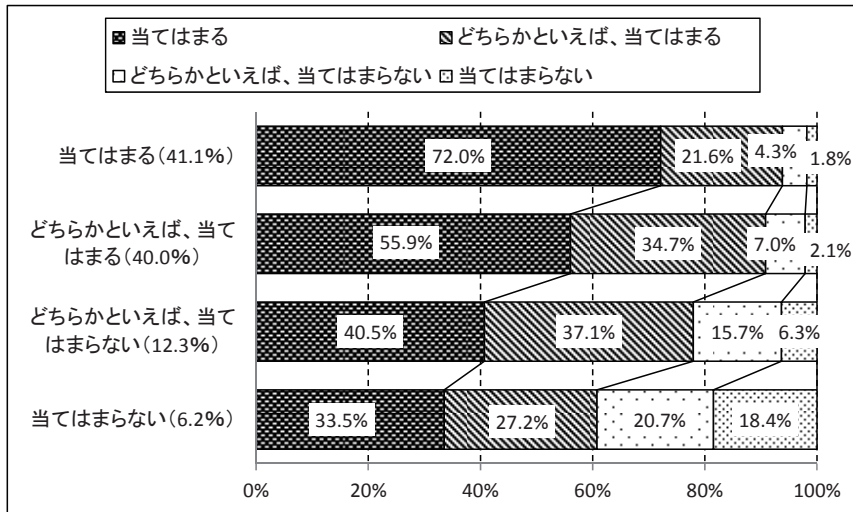
23 自尊意識【問 42】 × 郷土への愛着【問 45】



○自尊意識が比較的強い児童ほど、自分の住んでいる町がすきである割合が高い。

○「自分には、よいところがあると思わない」と回答した児童のうち、「自分の住んでいる町がすきではない」児童の割合は14.3%である。

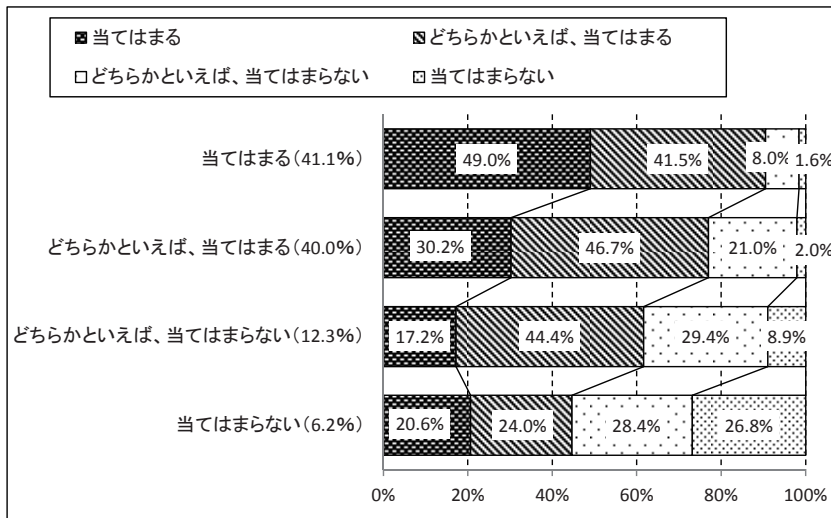
24 自尊意識【問 42】 × 他者との協力・協働【問 46】



○自尊意識が比較的強い児童ほど、友達と協力しながら、活動したり勉強したりすることが「すきだ」と回答する割合が高い。

○「当てはまらない」と回答した児童のうち39.1%が、友達と協力することが「すきではない」「どちらかといえば、すきではない」と回答している。

25 自尊心【問 42】 × 学びへの挑戦【問 43】



○自尊心が比較的強い児童のうち、難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますかという問いに「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合は 90.5%であるのに対し、「当てはまらない」と回答した児童のうち、難しいことに挑戦する、どちらかといえば挑戦すると回答した児童の割合は 44.6%である。

資料 調査結果集計表

【共通】

問1 学校生活は、楽しいですか。

(数字はすべて%)

	楽しい	どちらかといえば、 楽しい	どちらかといえば、 楽しくない	楽しくない	無回答
H28	65.3%	28.2%	4.7%	1.8%	0.0%
H29	68.3%	26.1%	4.1%	1.4%	0.0%
H30	65.1%	28.1%	4.9%	1.9%	0.0%

問2 勉強は、好きですか。

	好きだ	どちらかといえば、 好きだ	どちらかといえば、 好きではない	好きではない	無回答
H28	25.2%	44.4%	22.7%	7.6%	0.1%
H29	27.6%	43.7%	22.1%	6.6%	0.0%
H30	24.9%	42.2%	24.7%	8.1%	0.1%

問3 勉強をすることは、大切なことだと思いますか。

	大切だ	どちらかといえば、 大切だ	どちらかといえば、 大切ではない	大切ではない	無回答
H28	82.5%	15.7%	1.2%	0.4%	0.2%
H29	83.6%	14.9%	1.1%	0.3%	0.2%
H30	82.2%	15.7%	1.3%	0.6%	0.2%

問4 勉強をする一番の理由は何ですか。

	わかると楽し いから	受験に役に立 つから	将来の仕事に 役に立つから	生活するのに 役に立つから	ほめてもらえ るから	家の人やまわ りの人にいわ れるから	無回答
H28	20.1%	12.3%	44.3%	19.3%	1.3%	2.3%	0.4%
H29	21.5%	11.9%	43.2%	19.6%	1.2%	2.2%	0.4%
H30	18.6%	12.2%	45.1%	19.7%	1.4%	2.6%	0.4%

問5～9 次の学習は好きですか。

		好きだ	どちらかといえ ば、好きだ	どちらかといえ ば、好きではない	好きではない	無回答
国語	H28	29.7%	39.4%	22.0%	8.7%	0.2%
	H29	31.7%	39.6%	20.8%	7.7%	1.4%
	H30	32.6%	38.6%	20.0%	8.5%	0.3%
社会	H28	31.8%	33.2%	24.4%	10.5%	0.2%
	H29	36.3%	34.7%	21.2%	7.6%	0.2%
	H30	34.3%	33.9%	21.7%	9.8%	0.3%
算数	H28	44.0%	28.6%	16.8%	10.5%	0.2%
	H29	47.0%	27.3%	15.9%	9.6%	0.2%
	H30	43.6%	27.9%	17.3%	11.0%	0.3%
理科	H28	57.5%	29.1%	9.4%	3.7%	0.3%
	H29	58.2%	29.3%	9.1%	3.2%	0.2%
	H30	55.9%	30.3%	9.6%	3.8%	0.3%
総合	H28	50.5%	34.1%	11.1%	4.2%	0.2%
	H29	50.8%	34.1%	11.2%	3.8%	0.1%
	H30	50.3%	33.4%	11.5%	4.5%	0.3%

問 10～13 次の授業は、よくわかりますか。

		わかる	どちらかといえ ば、わかる	どちらかといえ ば、わからない	わからない	無回答
国語	H28	57.4%	35.0%	5.9%	1.6%	0.1%
	H29	59.7%	33.1%	5.7%	1.2%	0.2%
	H30	60.0%	32.6%	5.5%	1.7%	0.2%
社会	H28	50.0%	35.1%	11.7%	3.1%	0.2%
	H29	54.4%	33.7%	9.6%	2.2%	0.1%
	H30	53.3%	33.3%	10.5%	2.6%	0.3%
算数	H28	57.4%	29.3%	9.9%	3.2%	0.2%
	H29	59.7%	28.2%	9.2%	2.7%	0.2%
	H30	57.3%	28.2%	10.3%	3.8%	0.3%
理科	H28	67.8%	25.9%	4.8%	1.3%	0.2%
	H29	70.3%	24.5%	4.0%	1.0%	0.2%
	H30	68.1%	25.3%	5.1%	1.4%	0.2%

問 14～18 授業で学んだことは、生活の中で役に立っていると思いますか。

		役に立つ	どちらかといえ ば、役に立つ	どちらかといえ ば、役に立たない	役に立たない	無回答
国語	H28	56.8%	33.5%	7.8%	1.8%	0.1%
	H29
	H30	58.5%	31.6%	7.4%	2.0%	0.4%
社会	H28	60.4%	28.5%	8.3%	2.5%	0.2%
	H29
	H30	61.2%	28.2%	7.9%	2.4%	0.3%
算数	H28	77.3%	17.7%	3.7%	1.1%	0.1%
	H29
	H30	77.0%	17.3%	3.8%	1.3%	0.6%
理科	H28	53.8%	33.0%	10.1%	2.9%	0.2%
	H29
	H30	52.6%	33.0%	10.9%	3.0%	0.5%
総合	H28	52.8%	32.4%	10.7%	3.9%	0.2%
	H29
	H30	53.3%	31.7%	10.7%	3.9%	0.5%

II 調査結果の概要

問 19～23 授業で学んだことは、将来、社会に出たときに、役に立つと思いますか。

		役に立つ	どちらかといえ ば、役に立つ	どちらかといえ ば、役に立たない	役に立たない	無回答
国語	H28
	H29	75.2%	21.0%	2.7%	0.9%	0.2%
	H30	74.1%	20.0%	3.9%	1.6%	0.4%
社会	H28
	H29	78.5%	17.7%	2.8%	0.8%	0.1%
	H30	75.8%	18.4%	4.1%	1.3%	0.4%
算数	H28
	H29	83.1%	13.6%	2.2%	0.9%	0.2%
	H30	82.1%	13.9%	2.5%	1.1%	0.3%
理科	H28
	H29	57.6%	31.0%	9.2%	2.1%	0.2%
	H30	54.4%	31.5%	10.6%	3.0%	0.4%
総合	H28
	H29	66.1%	25.2%	6.2%	2.1%	0.3%
	H30	62.4%	26.1%	8.2%	2.8%	0.5%

問 24～29 授業の中で、わからないことがあったら、どうすることが多いですか。

	先生にたずねる	友だちにたずねる	家の人にたずねる	じゆくや家庭教師の先生にたずねる	自分で調べる	そのままにしておく
H28	62.3%	74.1%	79.3%	23.7%	58.1%	13.5%
H29	62.7%	75.9%	79.5%	25.4%	58.5%	12.2%
H30	61.0%	74.8%	79.7%	25.3%	56.5%	13.1%

問 30 学校のある日、家で1日どのくらい勉強しますか。

	3時間以上	2時間以上、 3時間より少ない	1時間以上、 2時間より少ない	30分以上、 1時間より少ない	30分未満	まったくしない	無回答
H28	9.5%	11.7%	23.6%	30.5%	19.8%	4.8%	0.1%
H29	10.0%	12.4%	24.7%	30.3%	18.4%	4.1%	0.1%
H30	11.1%	13.1%	23.3%	29.7%	18.5%	4.2%	0.2%

問 31 学校が休みの日、家で1日どのくらい勉強しますか。

	3時間以上	2時間以上、 3時間より少ない	1時間以上、 2時間より少ない	30分以上、 1時間より少ない	30分未満	まったくしない	無回答
H28	13.9%	11.3%	18.9%	23.5%	20.8%	11.5%	0.1%
H29	15.8%	12.1%	19.7%	22.7%	19.8%	9.8%	0.1%
H30	16.1%	12.5%	18.7%	22.5%	19.0%	10.9%	0.3%

問 32 ふだん、家でしている勉強は、どれに近いですか。

	宿題のほかに毎日勉強する	宿題のほかにときどき勉強する	宿題だけ勉強する	宿題があってもあまり勉強しない	無回答
H28	42.7%	39.8%	15.0%	2.5%	0.2%
H29	45.4%	38.6%	13.7%	2.1%	0.1%
H30	46.5%	36.9%	14.1%	2.3%	0.2%

問 33 学習じゆくに、通っていますか。

	通っている	通っていない	無回答
H28	53.2%	46.6%	0.2%
H29	53.6%	46.2%	0.2%
H30	55.7%	44.0%	0.2%

問 34 学校がある日の、睡眠時間はどれぐらいですか。

	10時間以上	9時間以上、 10時間より 少ない	8時間以上、 9時間より少 ない	7時間以上、 8時間より少 ない	6時間以上、 7時間より少 ない	6時間より少 ない	無回答
H28	11.4%	31.2%	31.4%	16.1%	6.9%	2.7%	0.2%
H29	11.4%	31.7%	31.8%	15.8%	6.4%	2.7%	0.1%
H30	11.9%	30.4%	31.6%	16.9%	6.3%	2.7%	0.2%

問 35 毎日、朝食を食べますか。

	必ず食べる	たいてい食べる	食べないことが多 い	食べない	無回答
H28	81.0%	14.2%	3.7%	1.0%	0.1%
H29	81.7%	14.0%	3.4%	0.9%	0.1%
H30	80.1%	14.4%	4.2%	1.1%	0.2%

問 36 学校に持って行くものは、前日にきちんと用意しますか。

	用意する	どちらかといえば、 用意する	どちらかといえば、 用意しない	用意しない	無回答
H28	58.2%	30.0%	8.7%	3.0%	0.1%
H29	59.5%	28.5%	8.4%	3.5%	0.1%
H30	57.4%	30.1%	8.5%	3.8%	0.3%

問 37 学校がある日、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。

	4時間 以上	3時間以 上、4時間 より少ない	2時間以 上、3時間 より少ない	1時間以 上、2時間 より少ない	30分以上、 1時間より 少ない	30分未満	まったくしな い	無回答
H28	8.5%	6.6%	11.0%	19.0%	18.2%	18.2%	18.3%	0.2%
H29	8.3%	7.0%	10.7%	18.9%	18.0%	18.4%	18.5%	0.2%
H30	9.3%	7.3%	11.7%	20.0%	17.8%	15.7%	17.9%	0.3%

問 38 学校がある日、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか。

	4時間 以上	3時間以 上、4時間 より少ない	2時間以 上、3時間 より少ない	1時間以 上、2時間 より少ない	30分以上、 1時間より 少ない	30分未満	まったくしな い	無回答
H28	13.9%	12.4%	18.4%	23.1%	16.3%	9.6%	6.1%	0.2%
H29	12.0%	11.6%	18.4%	23.3%	16.7%	10.9%	7.0%	0.2%
H30	12.8%	11.7%	17.7%	23.0%	17.0%	10.8%	6.8%	0.3%

II 調査結果の概要

問 39 学校がある日、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。

	4時間以上	3時間以上、4時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	30分未満	まったくしない	無回答
H28	3.3%	2.4%	3.9%	6.8%	10.4%	33.9%	39.3%	0.1%
H29	3.2%	2.7%	3.9%	6.8%	11.0%	33.3%	39.0%	0.2%
H30	3.8%	3.1%	4.6%	6.9%	11.4%	33.2%	36.8%	0.3%

問 40 携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束をしたことを守っていますか。

	きちんと守っている	だいたい守っている	あまり守っていない	守っていない、または、約束はない	携帯電話やスマートフォンを持っていない	無回答
H28	48.3%	16.3%	1.8%	6.7%	26.7%	0.3%
H29	49.9%	16.7%	2.0%	6.3%	24.9%	0.2%
H30	47.7%	17.0%	2.4%	7.2%	25.0%	0.9%

問 41 月に何さつぐらい本（マンガ・雑誌をのぞく）を読みますか。

	0冊	1～3冊	4～6冊	7～9冊	10冊以上	無回答	平均冊数
H28	12.2%	34.7%	16.1%	5.8%	29.4%	1.8%	6.2冊
H29	12.7%	34.0%	15.5%	5.7%	30.6%	1.6%	6.2冊
H30	13.0%	33.3%	14.7%	6.1%	31.2%	1.6%	6.3冊

問 42 自分には、よいところがあると思いますか。

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
H28	35.4%	43.8%	13.9%	6.7%	0.2%
H29	39.4%	41.0%	13.2%	6.2%	0.1%
H30	41.4%	40.0%	12.3%	6.2%	0.2%

問 43 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
H28	36.0%	43.2%	16.9%	3.6%	0.3%
H29	36.8%	44.2%	15.3%	3.5%	0.2%
H30	35.8%	42.8%	17.1%	4.2%	0.1%

問 44 将来の夢や目標を持っていますか。

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
H28	74.1%	13.6%	6.5%	5.3%	0.5%
H29	75.1%	13.8%	5.9%	4.9%	0.3%
H30	74.1%	13.1%	6.3%	6.3%	0.3%

問 45 あなたは、自分の住んでいる町が好きですか。

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
H28	70.4%	21.6%	5.3%	2.3%	0.4%
H29	72.8%	19.8%	5.1%	2.2%	0.2%
H30	69.6%	22.2%	5.3%	2.5%	0.3%

問 46 友達と協力しながら、活動したり勉強したりすることは好きですか。

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
H28	58.5%	29.9%	8.0%	3.2%	0.4%
H29	60.0%	29.0%	7.2%	2.9%	0.2%
H30	59.2%	29.1%	7.8%	3.5%	0.3%

【国語】

問 47 わからない言葉があるときは国語辞典（電子辞書をふくみます）を使いますか。

	よく使う	どちらかといえば、よく使う	どちらかといえば、あまり使わない	あまり使わない	無回答
H28	28.1%	32.3%	24.0%	15.3%	0.3%
H29	29.7%	31.8%	23.2%	15.1%	0.2%
H30	28.3%	31.1%	23.1%	17.2%	0.3%

問 48 日常生活の中で、自分の思いや考えを積極的に話そうとしていますか。

	話そうとしている	どちらかといえば、話そうとしている	どちらかといえば、話そうとしていない	話そうとしていない	無回答
H28	34.1%	39.9%	19.0%	6.6%	0.3%
H29	35.4%	40.5%	18.0%	6.0%	0.2%
H30	36.9%	39.1%	17.5%	6.3%	0.3%

問 49 日記を書くなど、自分の思いや考えを文章に書こうとしていますか。

	書こうとしている	どちらかといえば、書こうとしている	どちらかといえば、書こうとしていない	書こうとしていない	無回答
H28	19.2%	25.4%	27.5%	27.5%	0.4%
H29	20.6%	24.9%	27.5%	26.9%	0.2%
H30	19.1%	24.1%	27.6%	28.9%	0.3%

【社会】

問 50 わからない地名に出会ったら、自分で地図帳などを使って調べますか。

	調べようとしている	どちらかといえば、調べようとしている	どちらかといえば、調べようとしていない	調べようとしていない	無回答
H28	29.2%	30.3%	23.6%	16.5%	0.4%
H29	32.2%	30.7%	22.0%	15.0%	0.1%
H30	29.2%	30.3%	23.0%	17.1%	0.4%

問 51 歴史上の人物やできごとをあつかっている本を読むことは好きですか。

	好きだ	どちらかといえば、好きだ	どちらかといえば、好きではない	好きではない	無回答
H28	37.6%	24.6%	21.2%	16.2%	0.4%
H29	39.0%	25.2%	20.5%	15.1%	0.2%
H30	37.4%	25.0%	20.5%	16.8%	0.3%

問 52 社会のできごとやニュースに関心がありますか。

	関心がある	どちらかといえば、関心がある	どちらかといえば、関心がない	関心がない	無回答
H28	38.3%	36.9%	16.7%	7.6%	0.4%
H29	42.0%	36.1%	15.1%	6.5%	0.3%
H30	41.9%	36.0%	14.5%	7.2%	0.4%

II 調査結果の概要

【算数】

問 53 算数の時間に、いろいろな考え方を発表しあうことは好きですか。

	好きだ	どちらかといえば、 好きだ	どちらかといえば、 好きではない	好きではない	無回答
H28	32.4%	30.1%	24.6%	12.3%	0.6%
H29	34.7%	29.6%	23.5%	11.8%	0.4%
H30	31.4%	29.8%	25.0%	13.4%	0.4%

問 54 問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか。

	考えようとしている	どちらかといえば、 考えようとしている	どちらかといえば、 考えようとしてい ない	考えようとしてい ない	無回答
H28	37.5%	34.5%	18.4%	9.1%	0.5%
H29	40.8%	33.3%	17.3%	8.3%	0.3%
H30	38.0%	33.9%	18.5%	9.2%	0.5%

問 55 問題が解けなかったとき、なぜ解けなかったかをふり返って考えようとしていますか。

	考えようとしている	どちらかといえば、 考えようとしている	どちらかといえば、 考えようとしてい ない	考えようとしてい ない	無回答
H28	36.4%	35.1%	18.7%	9.3%	0.5%
H29	39.0%	35.4%	17.2%	8.1%	0.3%
H30	37.1%	35.7%	17.6%	9.2%	0.5%

【理科】

問 56 理科の勉強で、実験や観察をすることは好きですか。

	好きだ	どちらかといえば、 好きだ	どちらかといえば、 好きではない	好きではない	無回答
H28	71.8%	18.8%	5.8%	3.1%	0.5%
H29	72.6%	18.7%	5.6%	2.8%	0.3%
H30	69.5%	19.9%	6.5%	3.5%	0.6%

問 57 理科の勉強で、わからないことや興味・関心をもったことについて自分から調べようとしていますか。

	調べようとしている	どちらかといえば、 調べようとしている	どちらかといえば、 調べようとしてい ない	調べようとしてい ない	無回答
H28	35.7%	37.0%	19.6%	7.1%	0.5%
H29	38.2%	36.5%	18.6%	6.3%	0.3%
H30	35.5%	36.2%	19.5%	8.2%	0.5%

問 58 自然や理科についての読み物や図かん、テレビ番組などをよくみていますか。

	よくみている	どちらかといえば、 よくみている	どちらかといえば、 あまりみていない	あまりみていない	無回答
H28	33.6%	28.3%	24.8%	12.8%	0.6%
H29	34.7%	28.2%	23.9%	12.8%	0.3%
H30	33.4%	28.0%	23.9%	14.2%	0.5%

【総合的な学習の時間】

問 59 自分の興味や疑問をもったことを自分のやり方で学習できていると思いますか。

	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえば、 そう思わない	思わない	無回答
H28	33.5%	40.7%	18.7%	6.5%	0.6%
H29	36.0%	40.7%	17.3%	5.7%	0.3%
H30	34.6%	40.7%	17.3%	6.9%	0.7%

問 60 情報の集め方や調べ方がわかるようになったと思いますか。

	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえば、 そう思わない	思わない	無回答
H28	43.7%	37.5%	13.1%	5.0%	0.6%
H29	46.3%	37.1%	12.0%	4.3%	0.3%
H30	45.7%	36.8%	12.0%	4.8%	0.6%

問 61 自分が興味をもったことをもっと調べてみたいと思うことがありますか。

	思うことがある	どちらかといえば、 思うことがある	どちらかといえば、 思うことはない	思うことはない	無回答
H28	53.3%	29.0%	11.7%	5.4%	0.6%
H29	56.7%	28.2%	10.1%	4.7%	0.3%
H30	52.5%	29.7%	12.0%	5.2%	0.7%

【外国語活動、外国語】

問 62 もし、道で出会った外国人に英語で話しかけられたら、どうしますか。

	何とか英語で話そ うとする	日本語で話そうと する	だまっている	その場からにげる	無回答
H28
H29
H30	75.0%	13.5%	4.9%	5.9%	0.7%

問 63 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ってみたりしてみたいと思いますか。

	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえば、 そう思わない	そう思わない	無回答
H28
H29
H30	52.3%	26.7%	11.7%	8.5%	0.8%

問 64 将来、外国へ留学したり、国際的な仕事についてみたいと思いますか。

	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえば、 そう思わない	そう思わない	無回答
H28
H29
H30	27.5%	22.8%	25.2%	23.9%	0.6%

II 調査結果の概要